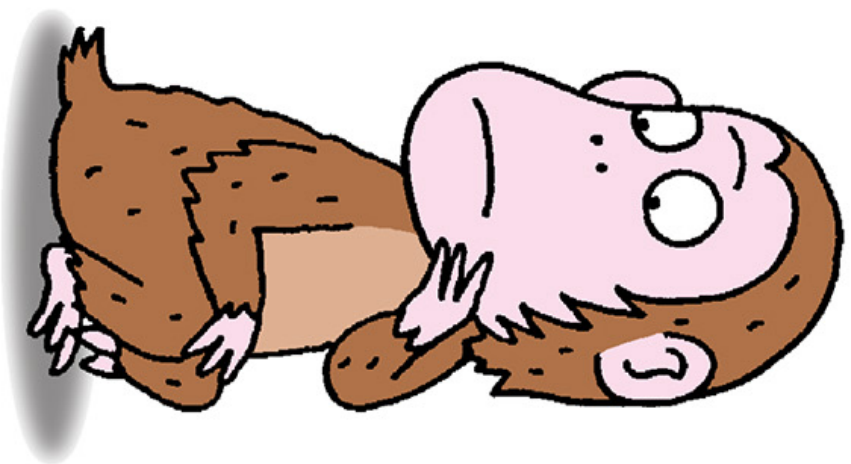


骨ほねがなさい？
クくラらダだは
どうして

短みじかい？
猿さるの尾おは
どうして



再話 = 小田 正子

挿絵 = 宇田川のり子

監修 = NPO 多言語多読

(旧NPO法人日本語多読研究会)

どうして^{さる}猿^おの尾^{みじか}は短い？

どうして^{くらげ}クラゲ^{ほね}は骨がない？

再話（さいわ）：小田 正子（おだ まさこ）

挿絵（さしえ）：宇田川 のり子（うだがわ のりこ）

監修（かんしゅう）：NPO 多言語多読（たげんご たどく）

（旧 NPO 法人 日本語多読研究会）

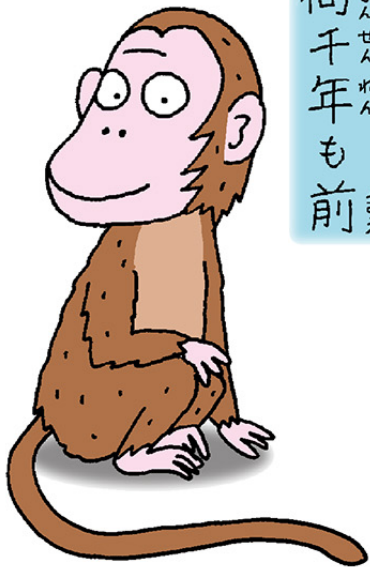
どうして猿の尾は短い？

何千年も前、日本の猿の尾は、とても長かったです。

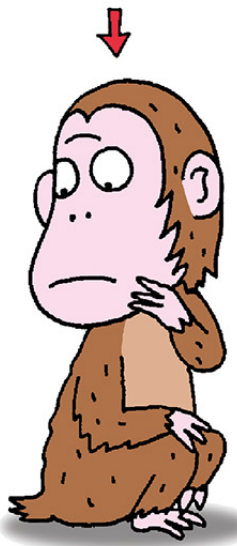
でも、今は、とても短いです。

それは、どうしてでしょう？

何千年も前



今



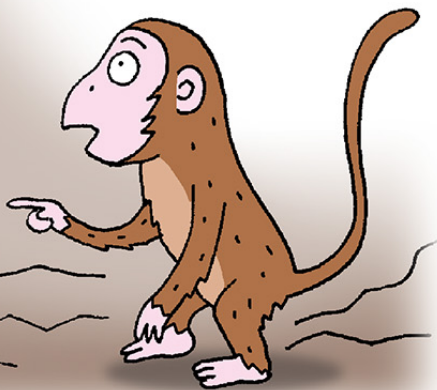
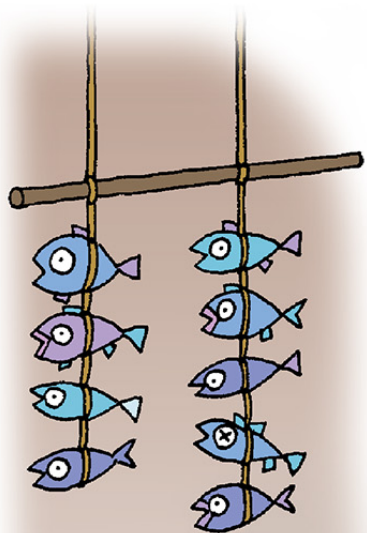
ある日、猿は、熊のうちへ行きました。

そして、聞きました。

「熊さん、熊さんは、いつも魚をたくさんとりますね。

いいですね。私も魚をたくさんとりたいです。

「どうやってとりますか？」



熊は、猿に言いました。

「とても簡単です。」

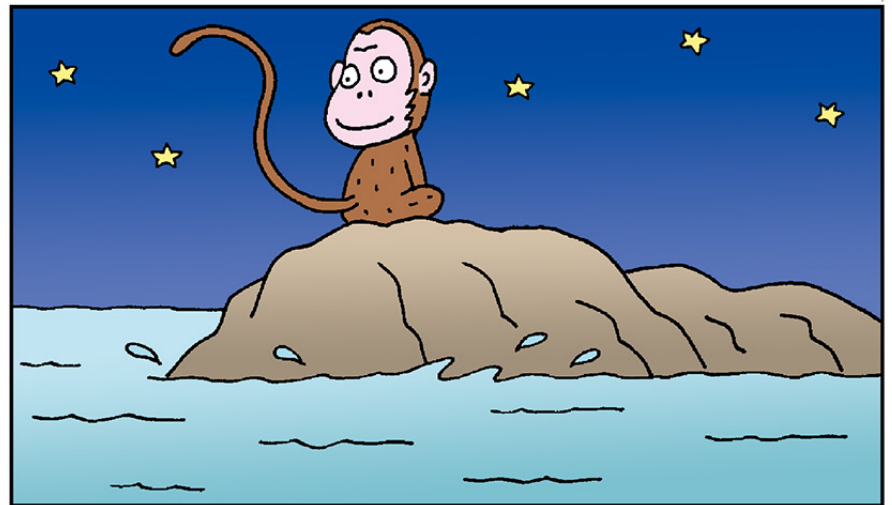
寒い日の夜、岩の上に座ります。

それから、尾を水の中に入れます」

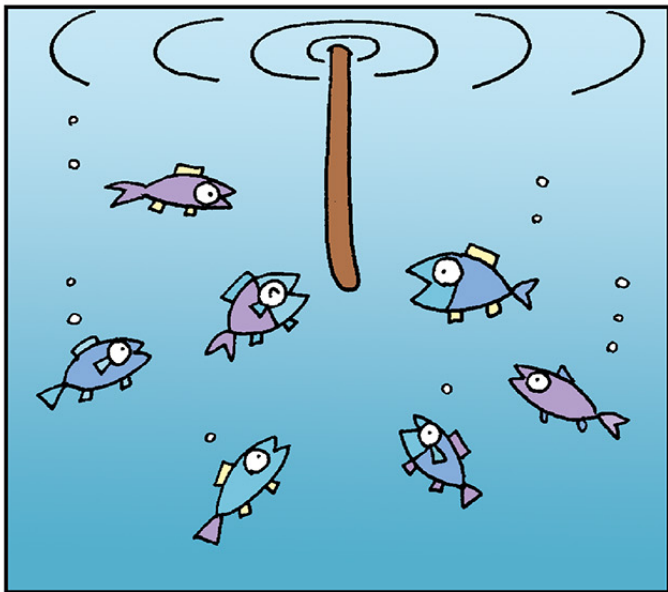
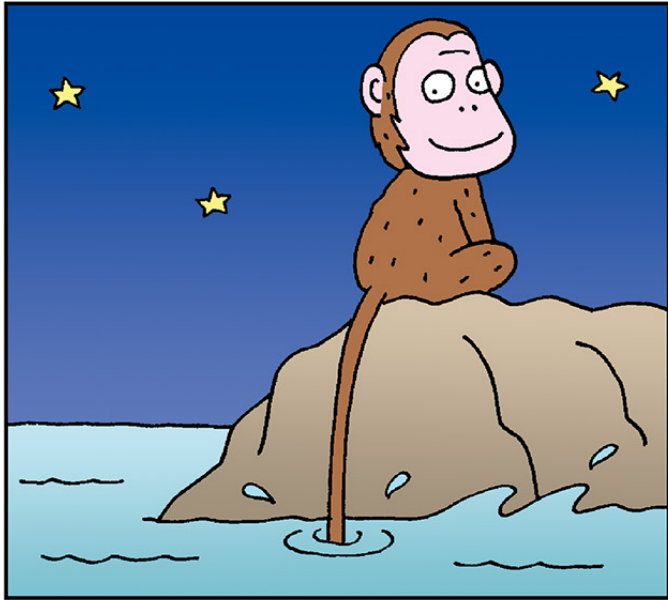
「それだけですか？ 簡単ですね。」

熊さん、いい話をありがとうございます」

その日の夜、猿は、川へ行きました。
とても寒い夜でした。



猿は、尾を水の中に入れました。



……一時間。

——寒いなあ。尾が冷たいなあ。

でも、まだ、まだ！——

尾は、少し重いです。

……二時間。

——寒いなあ。尾も体も冷たいなあ。

でも、まだ、まだ！——

尾は、前よりもっと重いです。

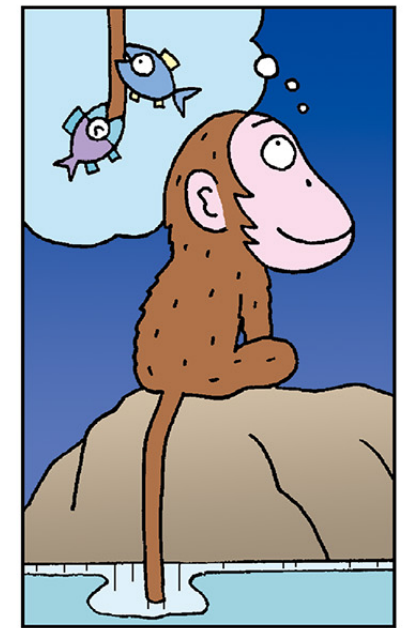
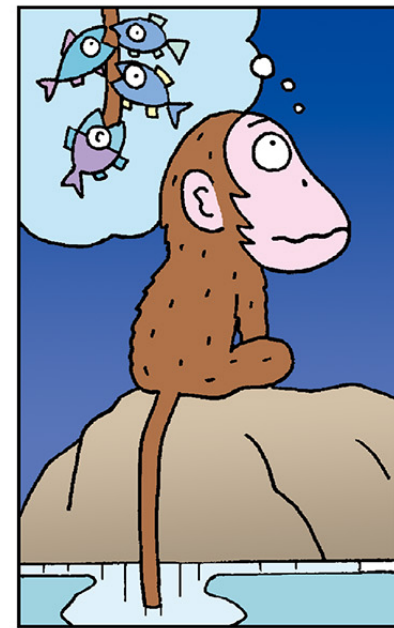
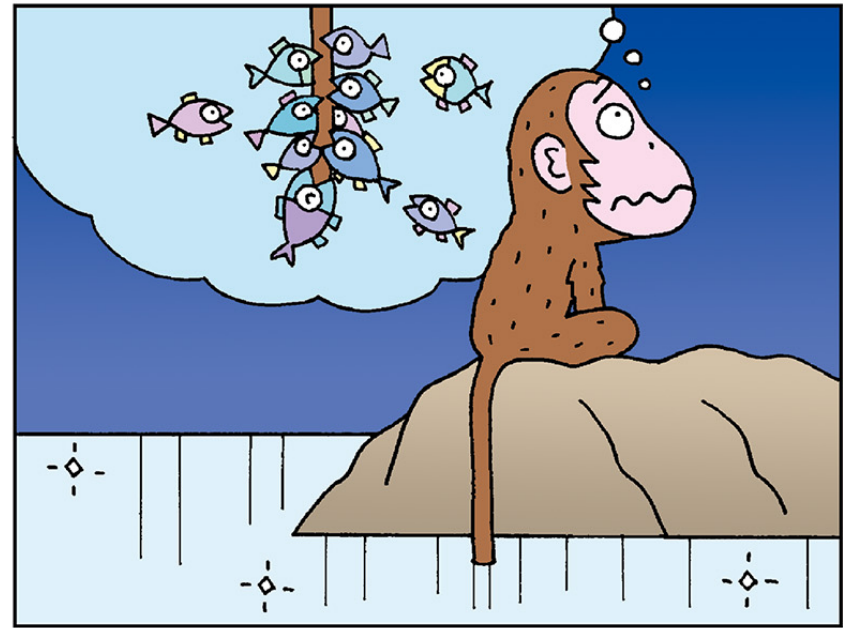
……三時間。

——おー、寒い。尾も体も顔も冷たい。

もうだめだ！——

尾は、とても重いです。

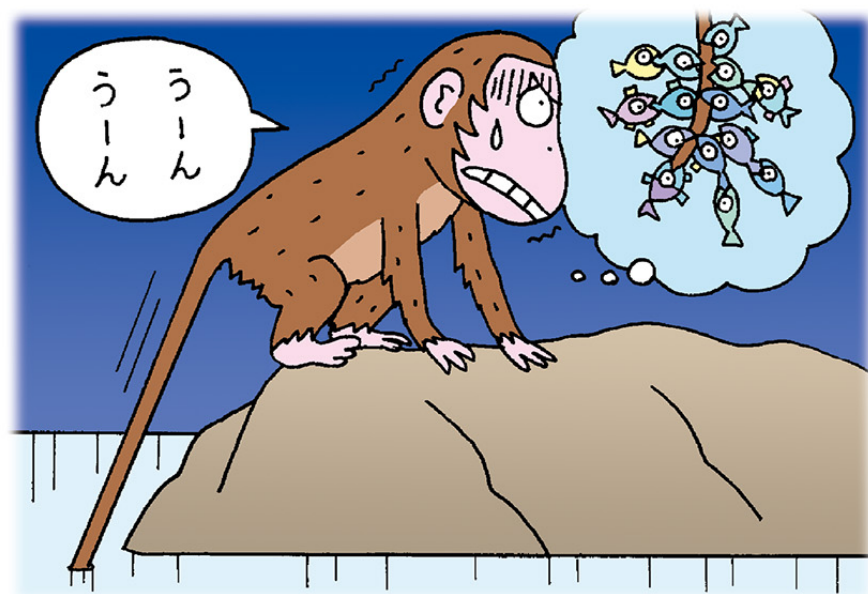
——もう、尾を水から出しましょう——



猿は、尾を水の中から出したいです。
でも、出ません。

「うーん、うーん」

—— たくさんさかなの魚がいますから、
重いおもです ——



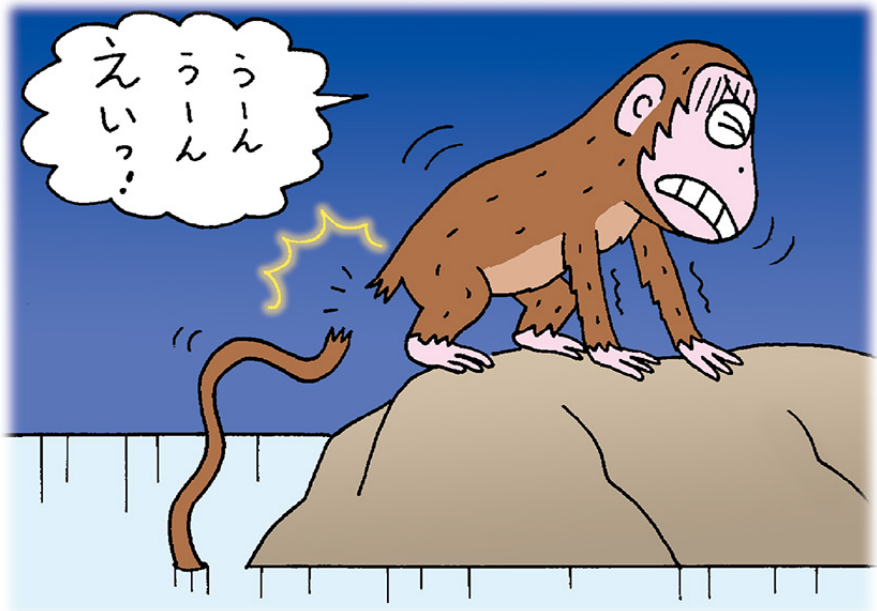
もっと、力ちからを出だします。

「うーん、うーん。えいっ！」

プツツーン。

猿の長い尾おが切きれました。

それから、日本にほんの猿さるの尾おは短みじかいです。



どうしてクラゲは骨がない？

何千年も前、クラゲは骨がありました。

でも、今は、骨がありません。

それは、どうしてでしょう？

何千年も前

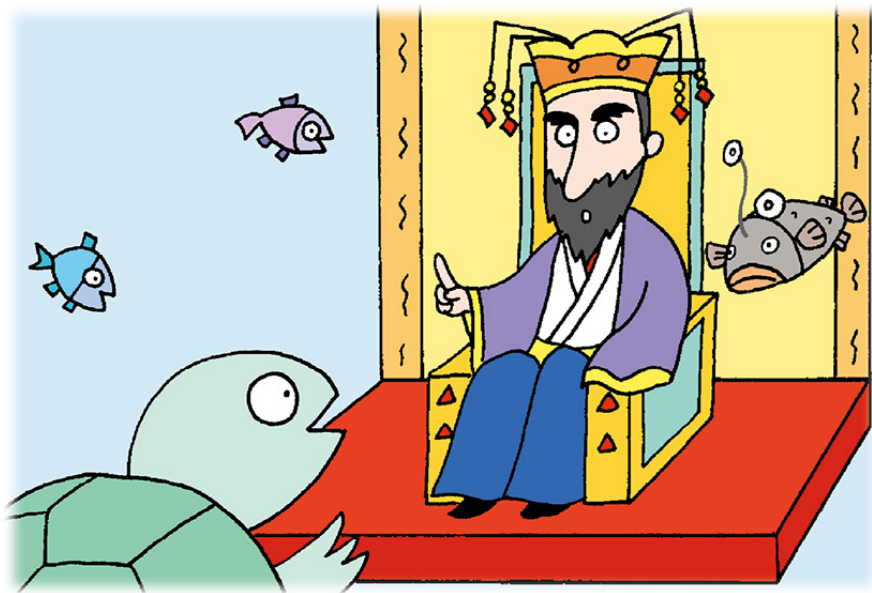


今



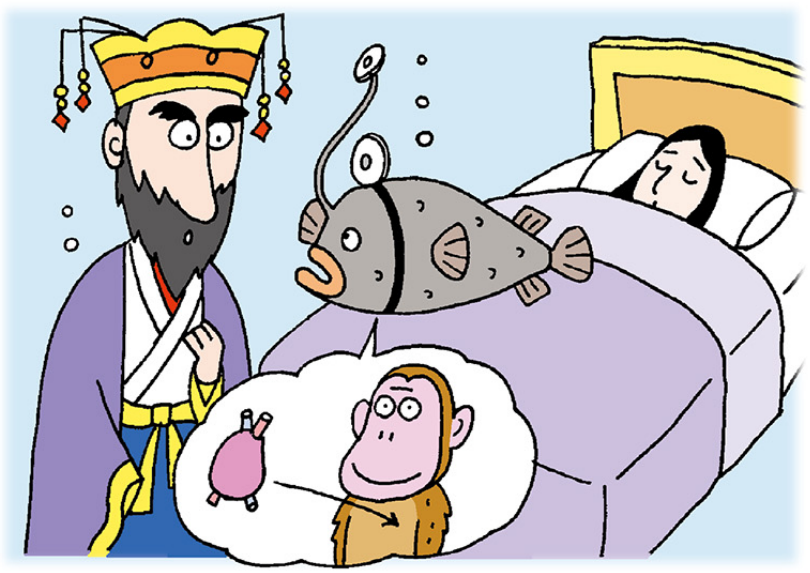
海の中に、竜宮城がありました。

そこには、王様とお后様がありました。



医者の魚は答えました。
 「私は知りません。
 でも、亀がわかります。
 亀は、なんでもわかりますから」
 亀が、王様の前に来ました。
 王様は言いました。
 「私は、猿の心臓が欲しい」
 亀は、すぐに答えました。
 「猿の心臓ですね。わかりました」

お后様は病気です。
 いろいろな薬を飲みました。
 でも、どの薬もだめでした。
 医者の魚が言いました。
 「海の中には、もう、いい薬はありません。
 猿の心臓が体にいいですが、
 海の中には、ありません」
 王様が言いました。
 「じゃあ、それは、どこに？」



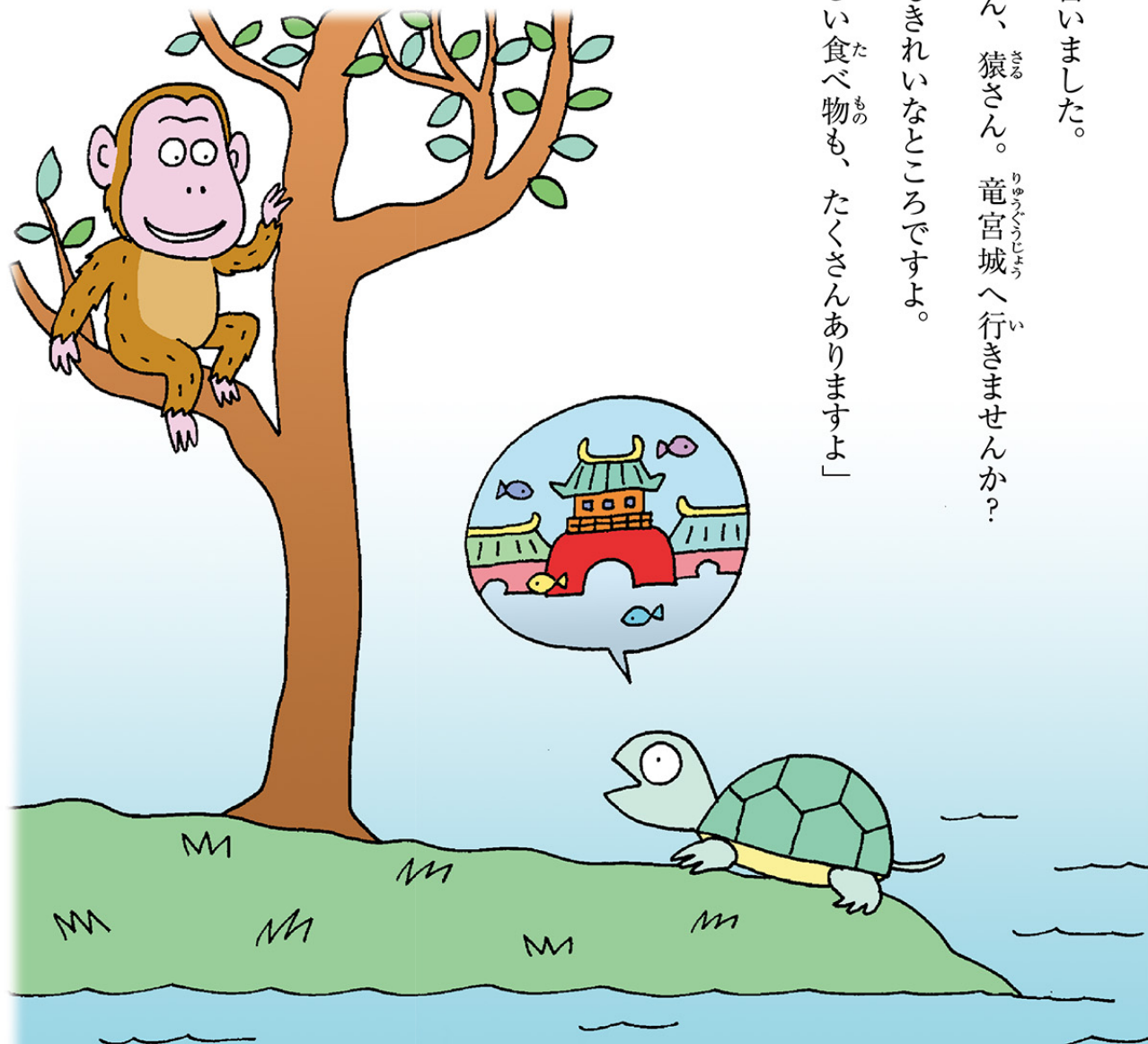
亀は、近くの島へ行きました。木の上に猿がいます。

亀は言いました。

「猿さん、猿さん。竜宮城へ行きませんか？」

とてもきれいなところですよ。

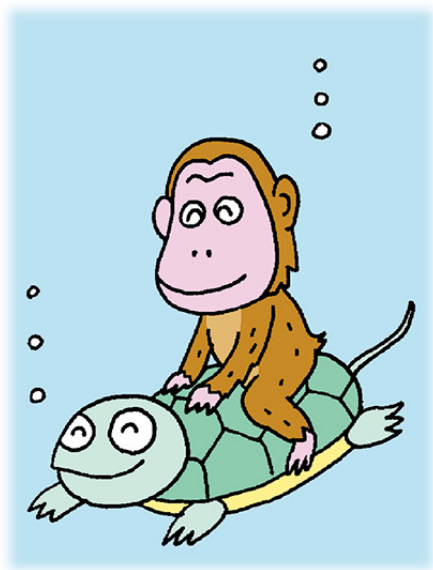
おいしい食べ物も、たくさんありますよ」



「え、そうですか？
行きます、行きます！」

「では、どうぞ」

猿は、亀に乗りました。



竜宮城へ来ました。

竜宮城は、とてもきれいです。

猿は、亀から降りました。

亀は、竜宮城の中へ入りました。

猿は、外で待ちます。

そこへ、クラゲが来ました。

クラゲは、猿に言いました。

「猿さん、ありがとう」

「えっ?」

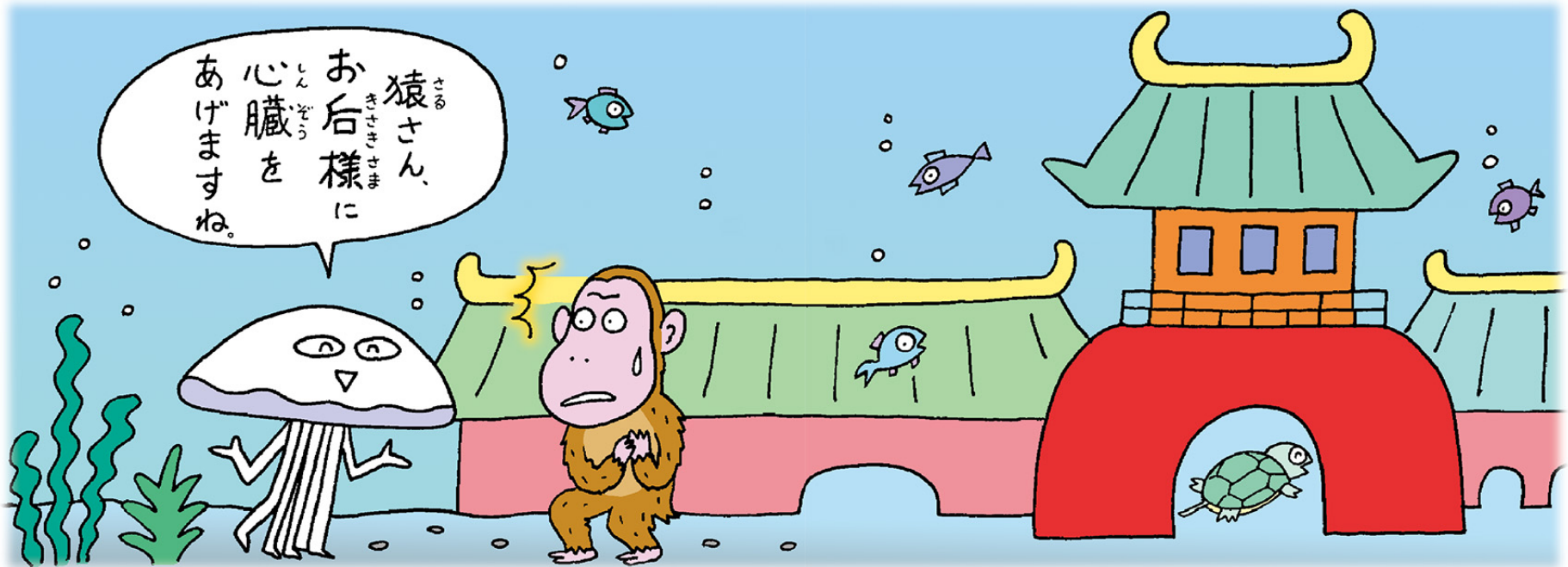
「これから、

お后様に心臓をあげますね?」

「えーっ!?!」

「猿の心臓は、とてもいい薬です」

「……………」



そこへ、亀が来ました。

「さあ、中へどうぞ」

猿は、亀に言いました。

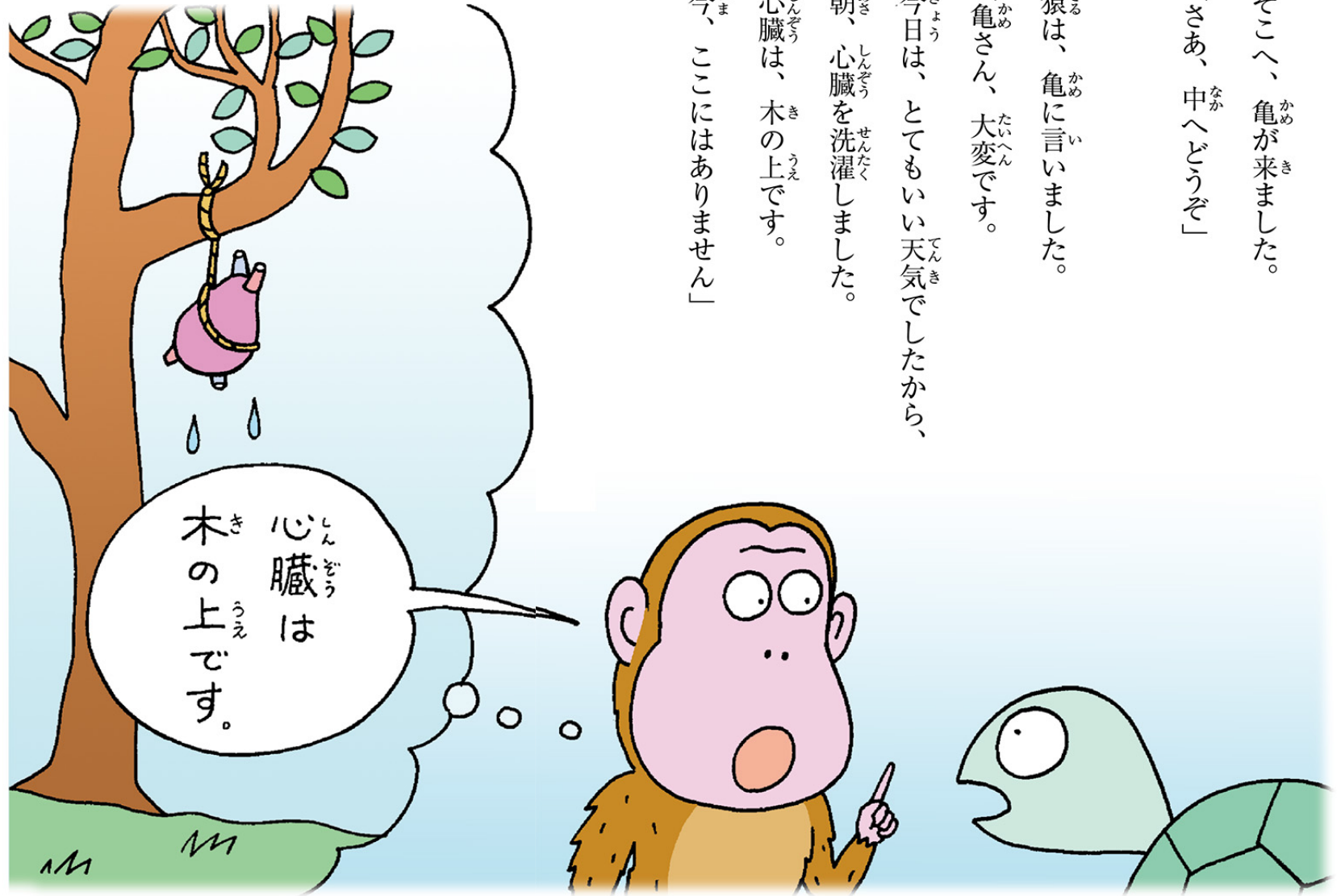
「亀さん、大変です。」

今日は、とてもいい天気でしたから、

朝、心臓を洗濯しました。

心臓は、木の上です。

今、ここにはありません」



心臓は
木の上です。

「えっ、それは大変。」

一緒に島へ帰りましょう」

猿と亀は、島へ帰りました。

猿は、すぐ、一番高い木の上に行きました。

亀が聞きました。

「猿さん、心臓は、ありましたか？」

猿は、木の上から言いました。

「クラゲさんから聞きましたよ。」

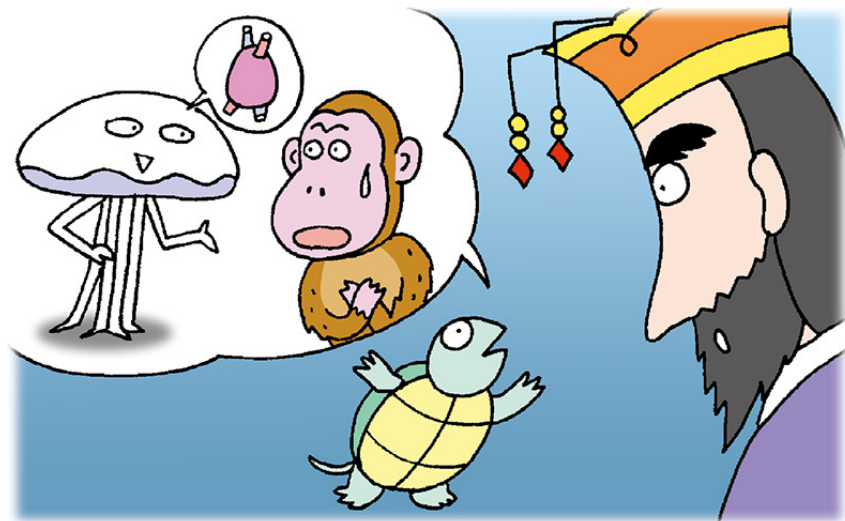
亀さん、あなたは、私の心臓が欲しいですね。

心臓は、木の上にはありません。私の体の中ですよ。

洗濯は、できませんよ」



亀は、一人で竜宮城へ帰りました。



王様が聞きました。

「猿の心臓は、どこだ？」

亀は言いました。

「猿の心臓は、ここにはありません。」

猿は帰りました。島にいます。木の上です」

王様は、また聞きました。

「どうして？」

亀は答えました。

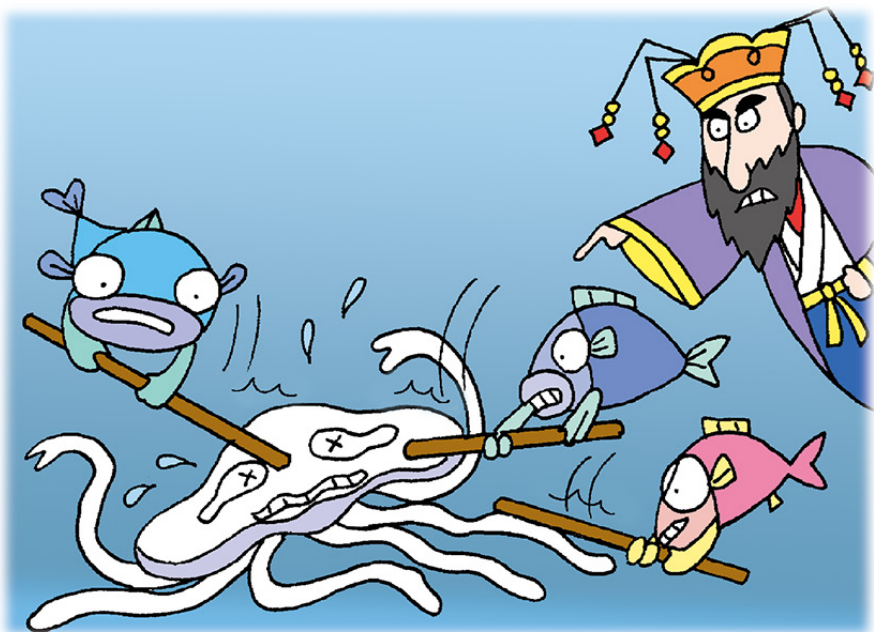
「クラゲが、猿に心臓のことを話しましたから」

「何？ クラゲが!？」

王様は、とても怒りました。

それから、クラゲは……

それから、クラゲは
骨がありません。



<監修者紹介>

NPO **多言語多読** (旧 NPO 法人日本語多読研究会)

「多言語多読」は、外国語を身につけたい人や、それを支援する人たちに「多読」を提案し、応援する NPO です。

2002年、日本語学習者のための「読みもの」を作ることを目的に、日本語教師が集まって日本語多読研究会を作りました。2006年にNPO法人化。2012年に「NPO多言語多読」と名称を変更し、多読の普及、実践、研究、日本語の「レベル別読みもの」の開発をしています。http://www.nihongo-yomu.jp

レベル別日本語多読ライブラリー (にほんご よむよむ文庫)

[レベル1] vol.2

どうして猿の尾は短い？／どうしてクラゲは骨がない？

2007年6月1日 初版第1刷発行

2014年6月5日 初版第3刷発行

再話：小田 正子

作画：宇田川 のり子

監修：NPO 多言語多読

ナレーション：篠原 明美／山中 一徳

録音・編集：スタジオ グラッド

デザイン・DTP：浅妻 健司

発行人：天谷 修平

発行：株式会社アスク出版

〒162-8558 東京都新宿区下宮比町 2-6

TEL.03-3267-6864 <http://www.ask-digital.co.jp>

印刷・製本：株式会社光邦

許可なしに転載・複製することを禁じます。

乱丁・落丁はお取り替えいたします。

©NPO多言語多読 2007

Printed in Japan ISBN978-4-87217-641-4

レベル別 日本語多読 ライブラリー

にほんご よむよむ文庫

レベル **1** vol.2 10

どうして猿の尾は短い？
どうしてクラゲは骨がない？

どうして日本の猿の尾は短いん
でしよう？ どうしてクラゲには
骨がないんでしょう？
それは、何千年も前のこと……。
日本の昔話です。

にほんご よむよむ文庫



これは、日本語を勉強している人のための「読みもの」シリーズです。5レベルに分かれていて、昔話、創作、名作、伝記などいろいろなお話があります。レベルごとに言葉や文法が制限されていて、読みやすく書かれています。漢字には全てひらがなが付いていますから、辞書を引かないでどんどん読んでみましょう。

レベル クラス 語彙数 文字数／1話

0 入門 350 ~400

1 初級前半 **350 400~1500**

2 初級後半 500 1500~2500

3 初中級 800 2500~5000

4 中級 1300 5000~10000



バ
ば

ス
す



作 = 松田 緑

挿絵 = 石川 えりこ

監修 = NPO多言語多読

(旧NPO法人日本語多読研究会)

ば す
バス

作 (さく) : 松田 緑 (まつだ みどり)

挿絵 (さしえ) : 石川 えりこ (いしかわ えりこ)

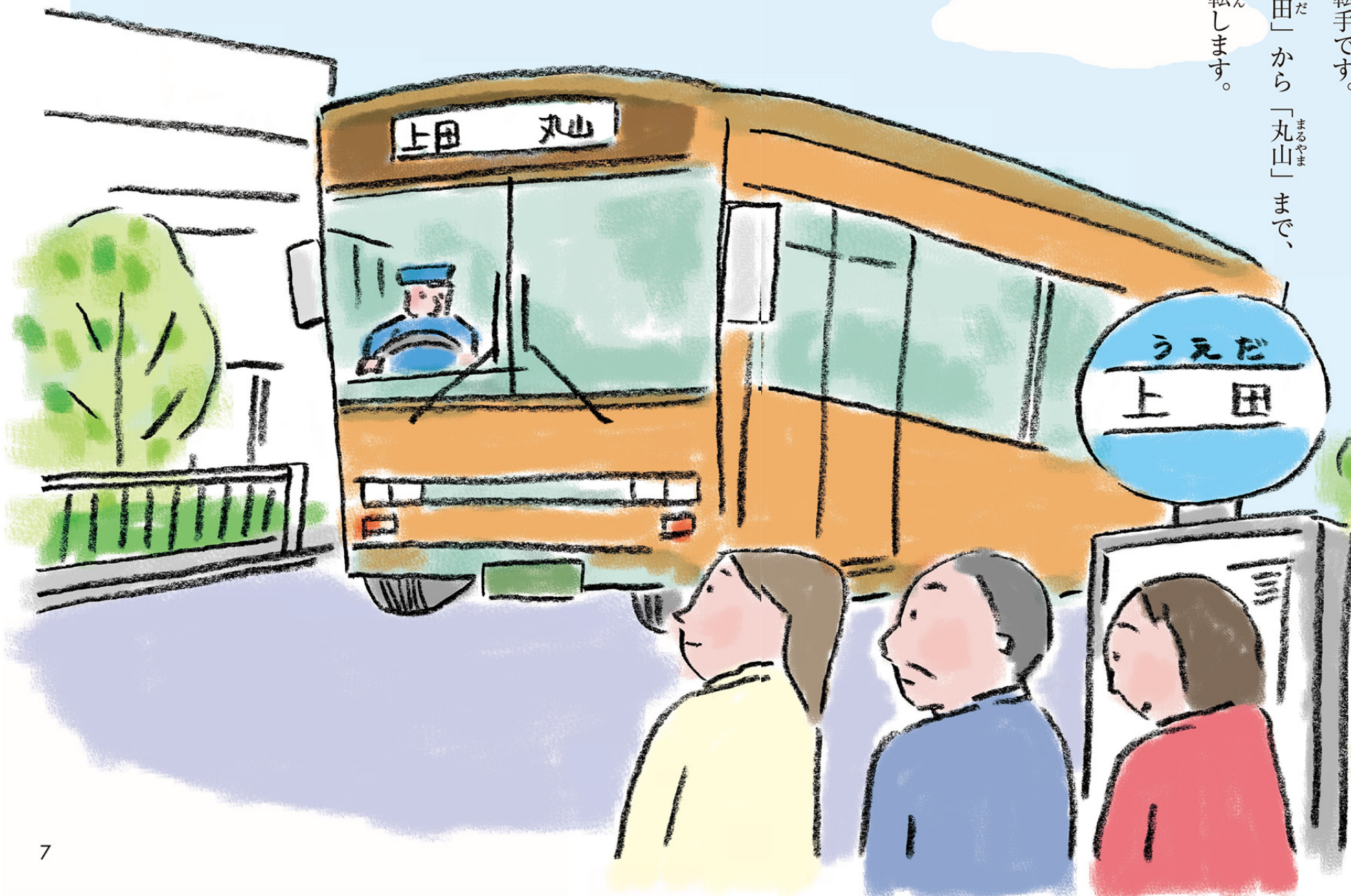
監修 (かんしゅう): NPO 多言語多読 (たげんご たどく)
(旧 NPO 法人日本語多読研究会)

鈴木正雄さんは、二十歳です。

バスの運転手です。

毎日、「上田」から「丸山」まで、

バスを運転します。



ある日の夜です。

秋の静かな夜でした。

鈴木さんのバスは、

午後十時に「上田」を出ました。

お客さんは、八人です。



バス停に着きました。

お客さんが、

三人降りました。

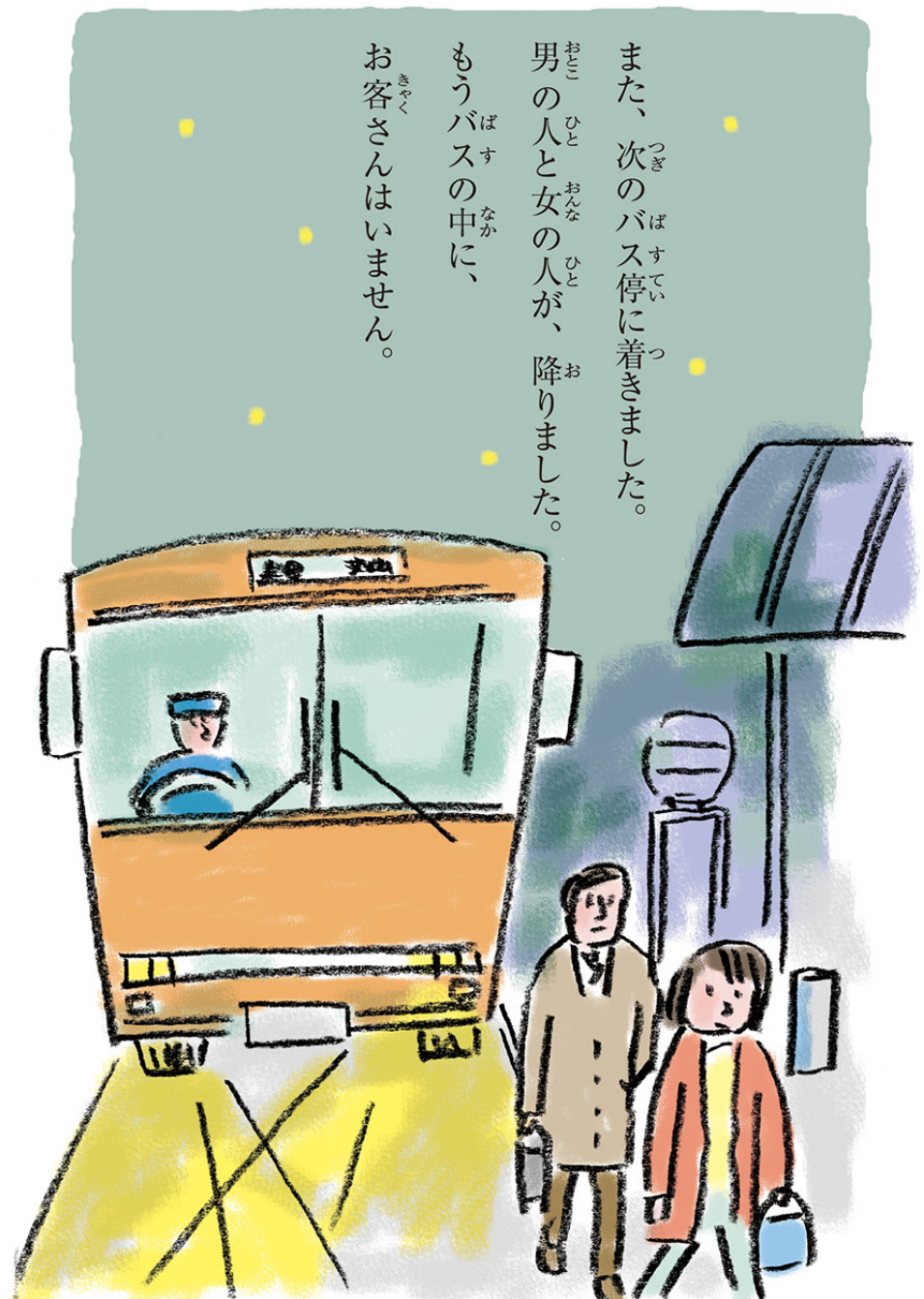
次のバス停に着きました。

お客さんが、

また三人降りました。



また、次のバス停に着きました。
男の人と女の人が、降りました。
もうバスの中に、
お客さんはいません。



前に、大きいトラックがいます。

鈴木さんのバスは、そのトラックの後ろを走ります。

—— ああ、今日の仕事も、
もう終わりだなあ。
早くうちへ帰りたい。
早く寝たいなあ——

そのとき、前の大きいトラックが
止まりました。

「うわあ——！ 危ない！」



鈴木さんは、目を開けました。

とても静かです。

大きいトラックは、もういません。

—— ああ、危なかった ——

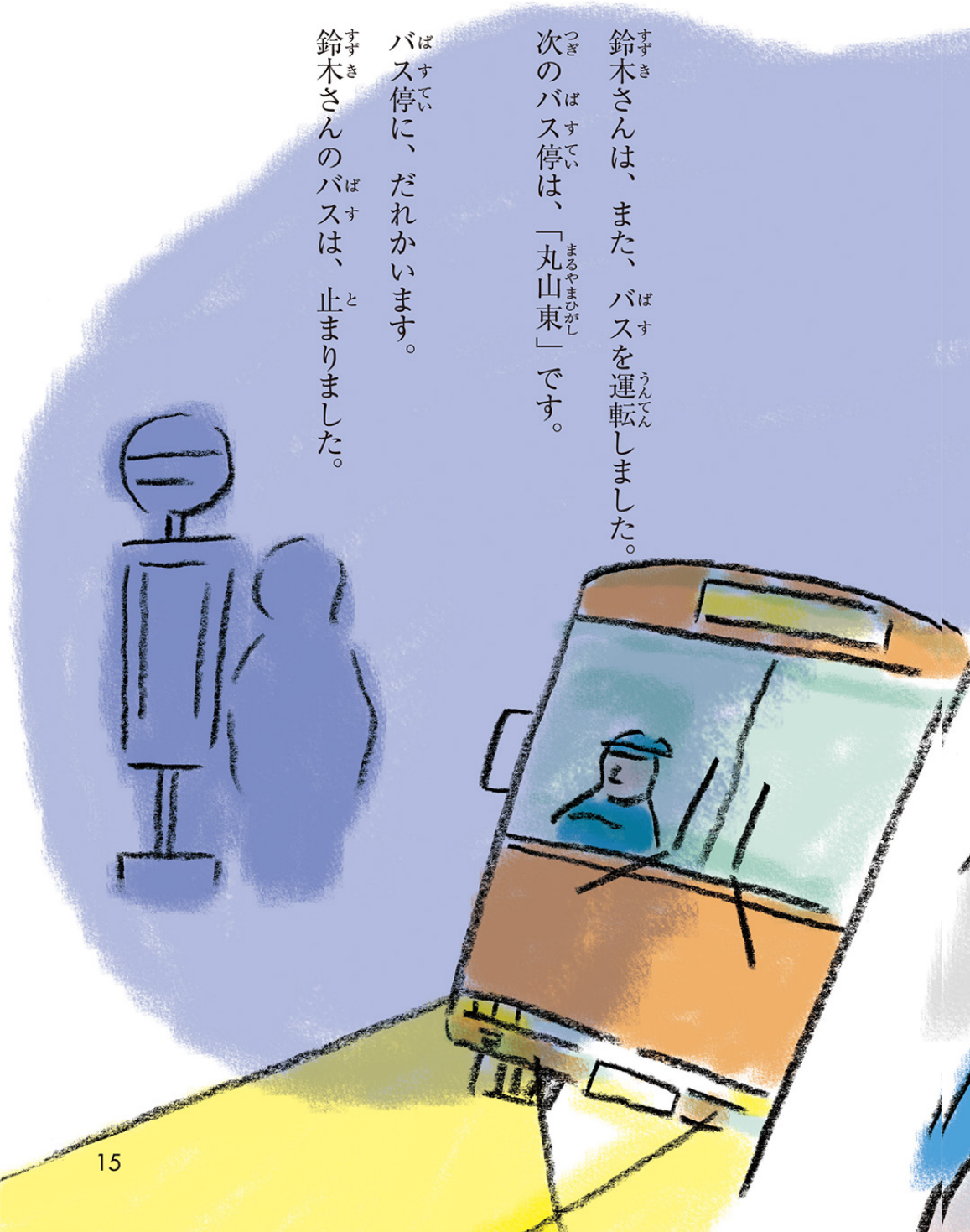


鈴木さんは、また、バスを運転しました。

次のバス停は、「丸山東」です。

バス停に、だれかいます。

鈴木さんのバスは、止まりました。



お客さんが、一人乗りました。

鈴木さんは、お客さんの顔を見ました。

「えっ?! お、おばあちゃん?! ど、どうして?」

お客さんは、鈴木さんのおばあさんでした。

おばあさんは、言いました。

「正雄、元気でしたか? 正雄は、バスが好きでしたね。

今、正雄は、バスの運転手さん。おばあちゃんは、うれしいですよ」



鈴木さんのおばあさんは、十年前、病気で死にました。鈴木さんは、おばあさんが大好きでした。

「おばあちゃん?!」

「ええ、そうですよ」

「おばあちゃん。」

すぐ、仕事が終わります。

一緒に帰りましょう」

「正雄、それはできません。」

おばあちゃんのうちは、

とても遠いところにありますから」

「えっ? 遠いところ?」

「そう、遠いところ……。」

だから、正雄は、正雄のうちへ……。」

『前はだめ』ですよ。『後ろ』ですよ」

「え? 前はだめ? どうして?」





鈴木^{すずき}さんは、前^{まえ}を見ました。

そして、また、バス^{バス}の中^{なか}を見ました。

おばあさんが、いません。

「おばあちゃん、どこ^{どこ}、どこ^{どこ}？」

「前^{まえ}はだめ^{だめ}ですよ」

おばあさんの声^{こゑ}です。

「後^{うしろ}ろ^ろですよ。後^{うしろ}ろへ、後^{うしろ}ろへ……。

さようなら、正雄^{まさお}。さようなら」

鈴木さんは、後ろを見ました。

「あれ、後ろは、とても明るい。」

「どうして……？」

「後ろへ、後ろへ……」

また、おばあさんの声です。

鈴木さんのバスは、後ろへ

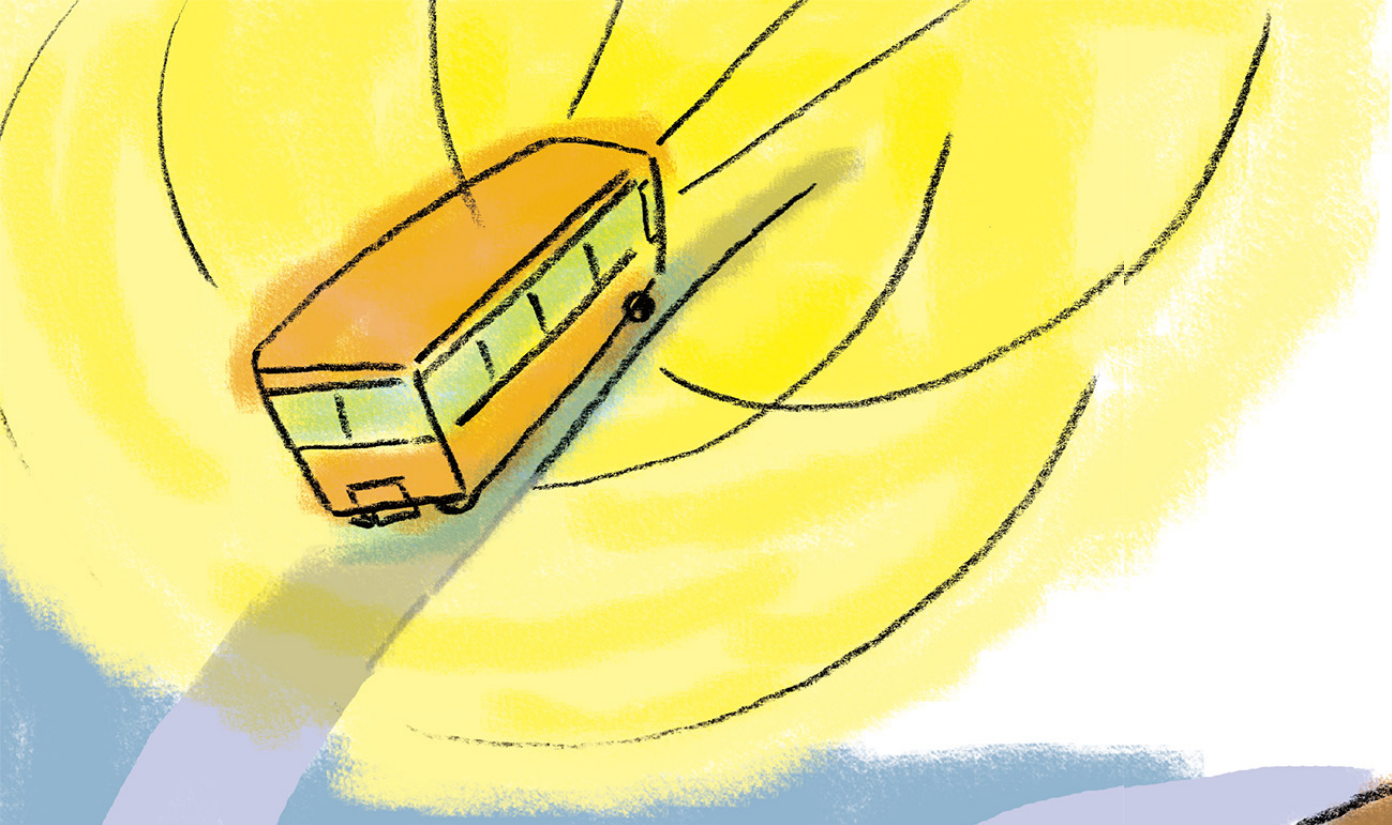
行きました。

——うわあ、明るい！——



——ここは、どしゃぶら……

あ、人の声が……



「正雄、正雄」

お母さんの声です。

「正雄、正雄」

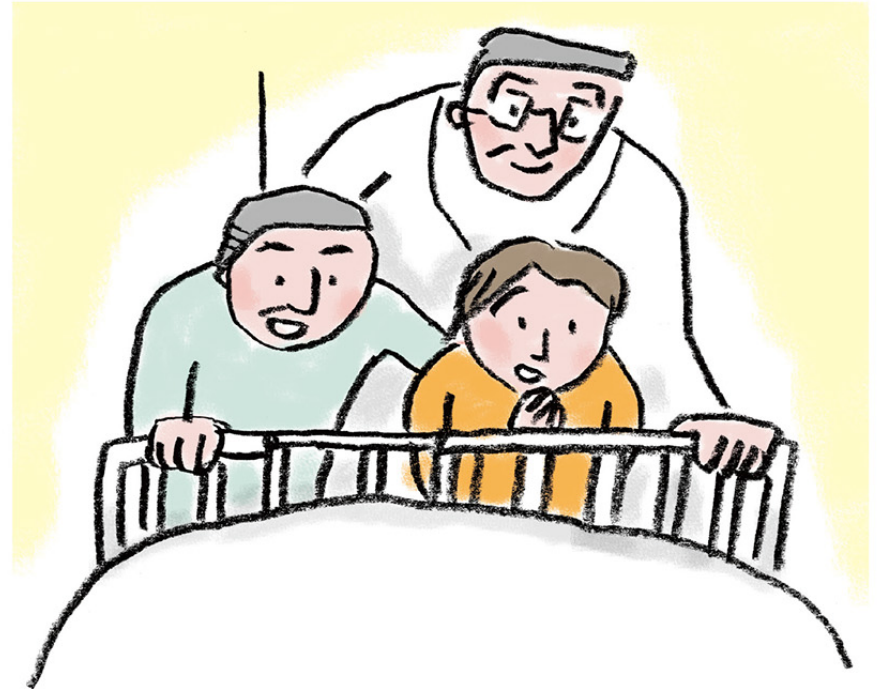
お父さんの声です。

鈴木さんは、目を開けました。

—— あ、明るい…… ——

お母さんの顔、お父さんの顔。

そして、白い服の医者。



鈴木さんのバスは、大きいトラックに、ぶつかりました。
でも、鈴木さんは、死にませんでした。
鈴木さんは、三か月、病院にいました。



<監修者紹介>

NPO 多言語多読 (旧 NPO 法人日本語多読研究会)

「多言語多読」は、外国語を身につけたい人や、それを支援する人たちに「多読」を提案し、応援する NPO です。

2002 年、日本語学習者のための「読みもの」を作ることを目的に、日本語教師が集まって日本語多読研究会を作りました。2006 年に NPO 法人化。2012 年に「NPO 多言語多読」と名称を変更し、多読の普及、実践、研究、日本語の「レベル別読みもの」の開発をしています。http://www.nihongo-yomu.jp

レベル別日本語多読ライブラリー (にほんご よむよむ文庫)

[レベル1] vol.3

バス

2008 年 3 月 27 日 初版 第 1 刷 発行

2013 年 3 月 25 日 初版 第 2 刷 発行

著者：松田 緑 (多言語多読会員・日本語教師)

作画：石川 えりこ

監修：NPO 多言語多読

ナレーション：山中 いとく / 小金澤 篤子

録音・編集：スタジオ グラッド

デザイン・DTP：仙台 忍

発行人：天谷 修平

発行：株式会社アスク出版

〒162-8558 東京都新宿区下宮比町 2-6

TEL.03-3267-6864 FAX.03-3267-6867

http://www.ask-books.com

http://www.ask-books.com/tadoku/ (「にほんご よむよむ文庫」公式 HP)

印刷・製本：株式会社光邦

許可なしに転載・複製することを禁じます。

乱丁・落丁はお取り替えいたします。

©NPO 多言語多読 2008

Printed in Japan ISBN978-4-87217-671-1

鈴木さんは、今、とても元気です。
きょう、元気にバスを運転します。
そして、「丸山東」のバス停で、
きょう、今日も言います。
「おばあちゃん、ありがとう！」



レベル別 日本語多読 ライブラリー

にほんご よむよむ文庫

レベル **1** vol.3 11

バス

鈴木正雄さんはバスの運転手。
ある日の夜、一人のお客さんが
バスに乗りました。

それは、十年前に死んだ、鈴木
さんのおばあさんでした。

にほんご よむよむ文庫



これは、日本語を勉強している人のための「読みもの」シリーズです。5レベルに分かれていて、昔話、創作、名作、伝記などいろいろな話があります。レベルごとに言葉や文法が制限されていて、読みやすく書かれています。漢字には全てひらがなが付いていますから、辞書を引かないでどんどん読んでみましょう。

レベル クラス 語彙数 文字数/1話

0 入門 350 ~400

1 初級前半 350 400~1500

2 初級後半 500 1500~2500

3 初中級 800 2500~5000

4 中級 1300 5000~10000



着物

ち
もの



作=川本 かず子

挿絵=つだゆみ

監修= NPO多言語多読

(財団法人日本語多読研究会)

き もの
着物

作 (さく) : 川本 かず子 (かわもと かずこ)

挿絵 (さしえ) : つだゆみ

監修 (かんしゅう): NPO 多言語多読 (たげんご たどく)

(旧 NPO 法人日本語多読研究会)



わあ、きれい！
いろいろな着物が、ありますね。



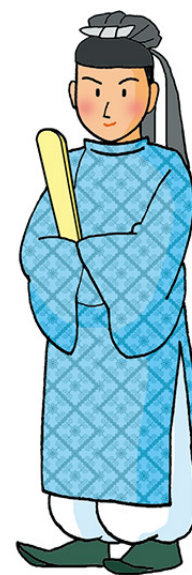
きもの
着物のいろいろ

平 安 時 代
(794 ~ 1192年)

奈 良 時 代
(710 ~ 794年)



着物は、いつから？



奈良時代の日本人



日本の着物は、平安時代に生まれました。

この時代、男の人、女の人、一番下に白い着物を着ました。

「小袖」です。そして、その上に、袴をはきました。



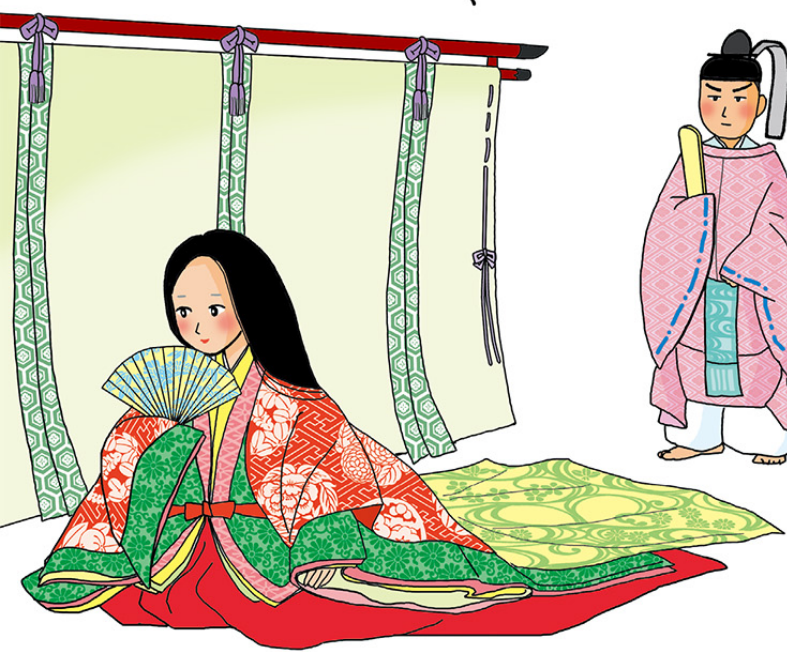
女の方は、小袖の上に、着物を

たくさん着ました。夏は五枚くらい、

冬は二十枚くらい着ました。

一番下の「小袖」が、

今の着物の始まりです。



え 江 戸 時 代
(1603 ~ 1868年)

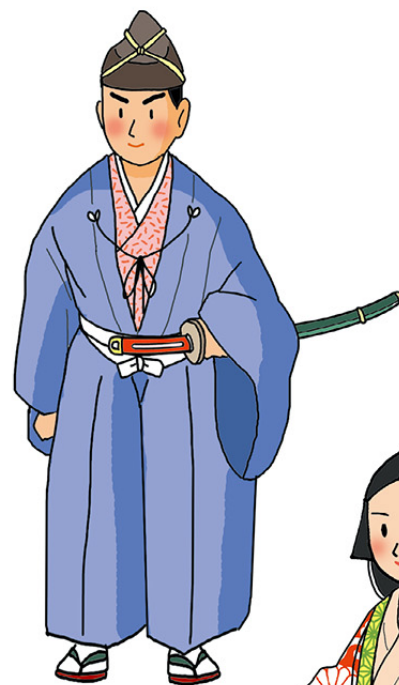


江戸時代は長いですが、着物もいろいろあります。
この時代の終わりには、今の着物や帯と、同じものもありました。

あ づ ち も や ま じ だ い
安土桃山時代
(1573 ~ 1603年)

安土桃山時代には、小袖の上に、もう一枚、小袖を着ました。

む ろ 室 町 時 代
(1333 ~ 1573年)



小袖の上に、もう一枚、小袖を着ました。

か ま 倉 時 代
(1192 ~ 1333年)

鎌倉時代や室町時代には、女の人は、袴をはきませんでした。
きれいな小袖を、一番上に着ました。
そして、小袖に帯をしました。

しょうわ じだい
昭和時代
(1926 ~ 1989年)

たいしょう じだい
大正時代
(1912 ~ 1926年)

めい じ じ だい
明治時代
(1868 ~ 1912年)

え じ だい
江戸時代
(1603 ~ 1868年)

では、着物きものは、いつ着きますか？
着物きものを着きません。洋服ようふくを着きます。

今いま、日本人にほんじんは、あまり

明治時代めいじじだいに、ヨーロッパヨーロッパから、洋服ようふくが来きました。
でも、明治時代めいじじだい、大正時代たいしょうじだいには、
まだ、着物きもののひとひとがたくさんいました。





いつ着物を着ますか？

お宮参り

一か月の赤ちゃん、おめでとう！

お父さんとお母さんと、

神社へ行きます。



おばあちゃんも一緒に行きます。

七五三

十一月十五日です。

三歳の女の子、五歳の男の子、七歳の女の子、

おめでとう！ みんな、神社へ行きます。



成人式

いちがつ だいにちようび
一月の第二日曜日です。はたち
二十歳、おめでとう！



はたち
二十歳は、おとな
大人です。もう、こ
子どもじゃ
ありません。お酒もたばこも、いいですよ。

大学の卒業式

さんがつ
三月です。そつぎょう
卒業おめでとう！

たいへん
大変な勉強も、たの
楽しいことも、たくさんありました。




結婚式

結婚おめでとうございます！
花嫁さんは、打ち掛け。

花婿さんは、羽織・袴。お母さんたちは、留袖。

お父さんたちだけ、洋服です。モーニングを着ます。

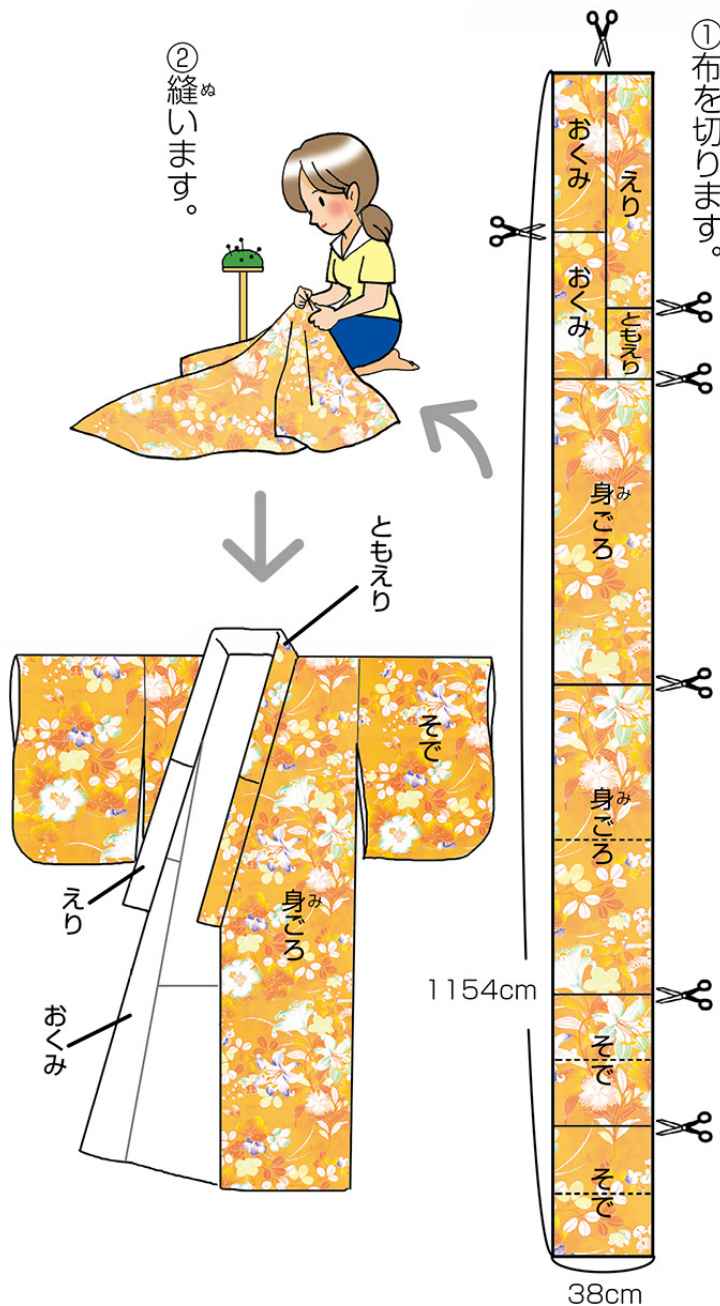




着物を作ります！

着物は、一枚の布から作ります。

① 布を切ります。



② 縫います。





着物を着ましよう！

女の子

①足袋をはきます。



②裾よけを着ます。
③肌襦袢を着ます。



④タオルを入れます。

⑤長襦袢を着ます。



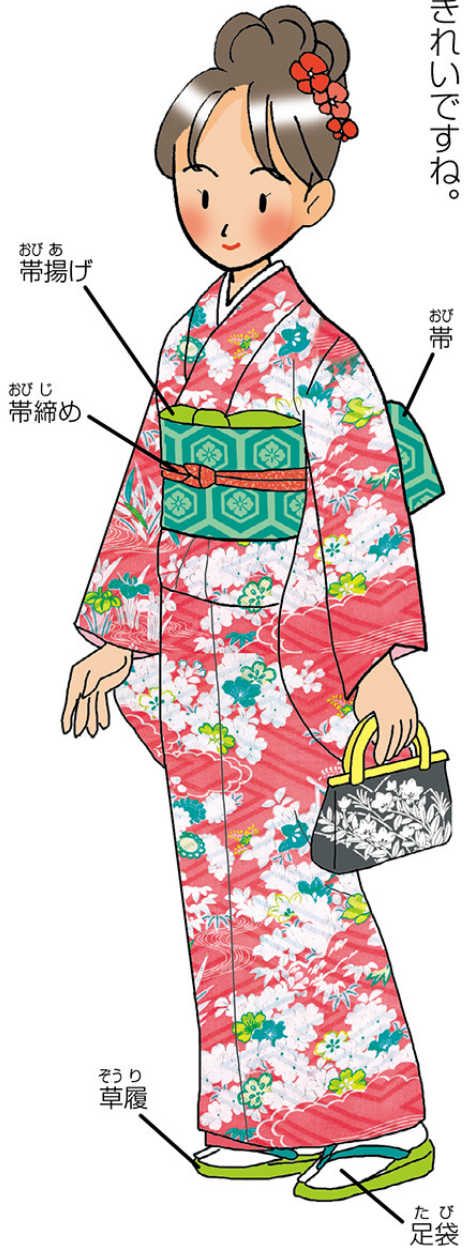
⑥着物を着ます。



⑦帯をします。



きれいですね。



おびあげ
おび締め
おび帯
たび足袋
ぞうり草履

うでだ
腕を出しません。



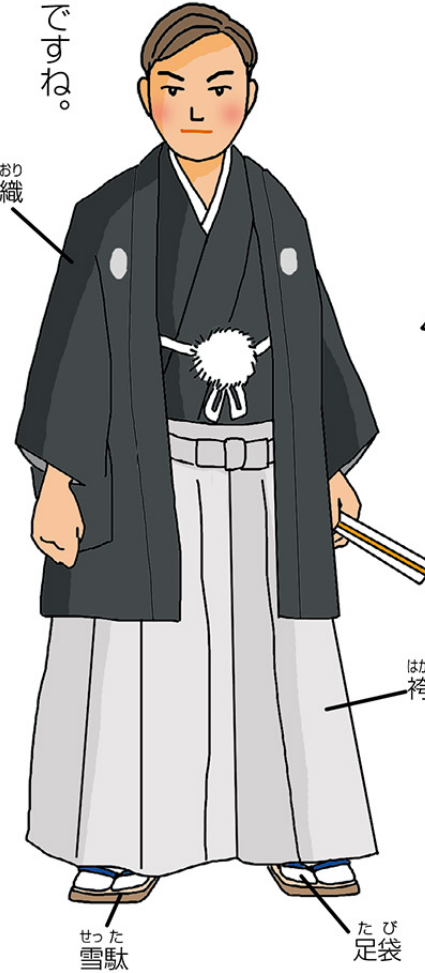
ちい しく
小さく静かに
ある
歩きます。



いい (○) ですか? だめ (×) ですか?

かこころいすね。

はおり
羽織



⑦ 袴をはきます。



⑧ 羽織を着ます。



男の人

①から⑥まで、女の人と同じです。



浴衣を着ましょう！

浴衣は、夏の着物です。さあ、浴衣を着ましょう。



おはしよりを作ります。



ひもをします。



ゆびさんぽん 指三本

そして、
花火大会に行きましょう！



参考図書

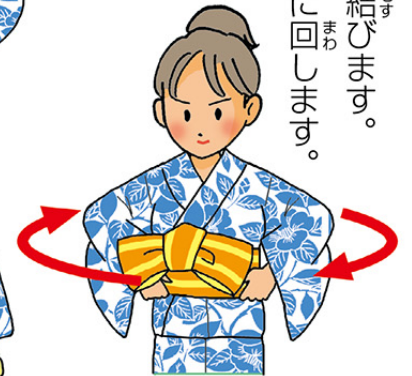
- 馬場まみ 監修『着物の大研究 — 伝統的な日本の衣装 和の文化に触れてみよう！』PHP研究所
- 長崎巖 監修 遠藤喜代子 文『「日本人」を知る本 — 人・心・衣・食・住(3) 日本人の衣服』岩崎書店
- 「特集：着物大研究」『月刊ポプラディア』2007年01月号 ポプラ社



⑩ おび帯をします。



⑪ おび帯を前で結びます。
⑫ おび帯を後ろに回します。



<監修者紹介>

NPO 多言語多読 (旧 NPO 法人日本語多読研究会)

「多言語多読」は、外国語を身につけたい人や、それを支援する人たちに「多読」を提案し、応援する NPO です。

2002 年、日本語学習者のための「読みもの」を作ることを目的に、日本語教師が集まって日本語多読研究会を作りました。2006 年に NPO 法人化。2012 年に「NPO 多言語多読」と名称を変更し、多読の普及、実践、研究、日本語の「レベル別読みもの」の開発をしています。http://www.nihongo-yomu.jp

レベル別日本語多読ライブラリー (にほんご よむよむ文庫)

[レベル 1] vol.3

着物

2008 年 3 月 27 日 初版 第 1 刷 発行

2013 年 3 月 25 日 初版 第 2 刷 発行

著者：川本 かず子 (多言語多読会員・日本語教師)

作画：つだゆみ

監修：NPO 多言語多読

ナレーション：小金澤 篤子

録音・編集：スタジオ グラッド

デザイン・DTP：仙台 忍

発行人：天谷 修平

発行：株式会社アスク出版

〒162-8558 東京都新宿区下宮比町 2-6

TEL.03-3267-6864 FAX.03-3267-6867

http://www.ask-books.com

http://www.ask-books.com/tadoku/ (『にほんご よむよむ文庫』公式 HP)

印刷・製本：株式会社光邦

許可なしに転載・複製することを禁じます。

乱丁・落丁はお取り替えいたします。

©NPO 多言語多読 2008

Printed in Japan ISBN978-4-87217-671-1

レベル別 日本語多読 ライブラリー

にほんご よむよむ文庫

レベル **1** vol.3 12

着物

日本の着物の始まりは、いつでしよう？ 日本人は、どんなときに着物を着るのでしょうか？
着物のいろいろを紹介！

にほんご よむよむ文庫



これは、日本語を勉強している人のための「読みもの」シリーズです。5レベルに分かれていて、昔話、創作、名作、伝記などいろいろな話があります。レベルごとに言葉や文法が制限されていて、読みやすく書かれています。漢字には全てひらがなが付いていきますから、辞書を引かないでどんどん読んでみましょう。

レベル クラス 語彙数 文字数／1話

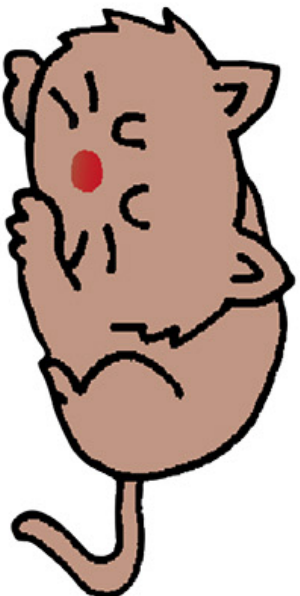
0 入門 350 ~400

1 初級前半 **350** **400~1500**

2 初級後半 500 1500~2500

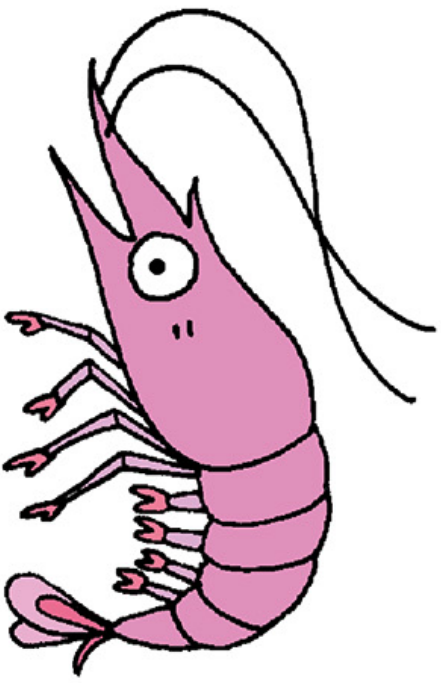
3 初中級 800 2500~5000

4 中級 1300 5000~10000



なねこが
なにを
どうして

曲^まが
エビ^{えび}の
体^{からだ}は
どうして



再話 = 小田 正子

挿絵 = 宇田川のり子

監修 = NPO多言語多読

(旧NPO法人日本語多読研究会)

どうしてエビの^え ^び ^{からだ} ^ま体は曲がった？

どうしてねこ^{どし}年がない？

再話（さいわ）：小田 正子（おだ まさこ）

挿絵（さしえ）：宇田川 のり子（うだがわ のりこ）

監修（かんしゅう）：NPO 多言語多読（たげんご たどく）

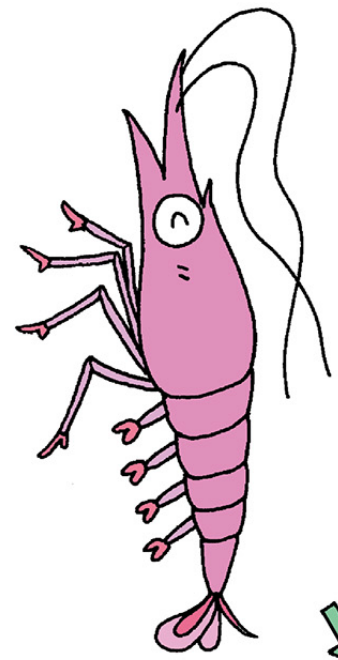
（旧 NPO 法人日本語多読研究会）

どうしてエビの体は曲がった？

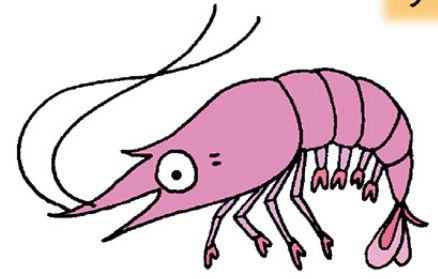
何千年も前、エビの体は、まっすぐでした。
でも、ある日、エビの体は曲がりました。

それは、どうしてでしょう？

何千年も前



今



ある川に、とても大きいエビがいました。

川で、一番大きいエビでした。

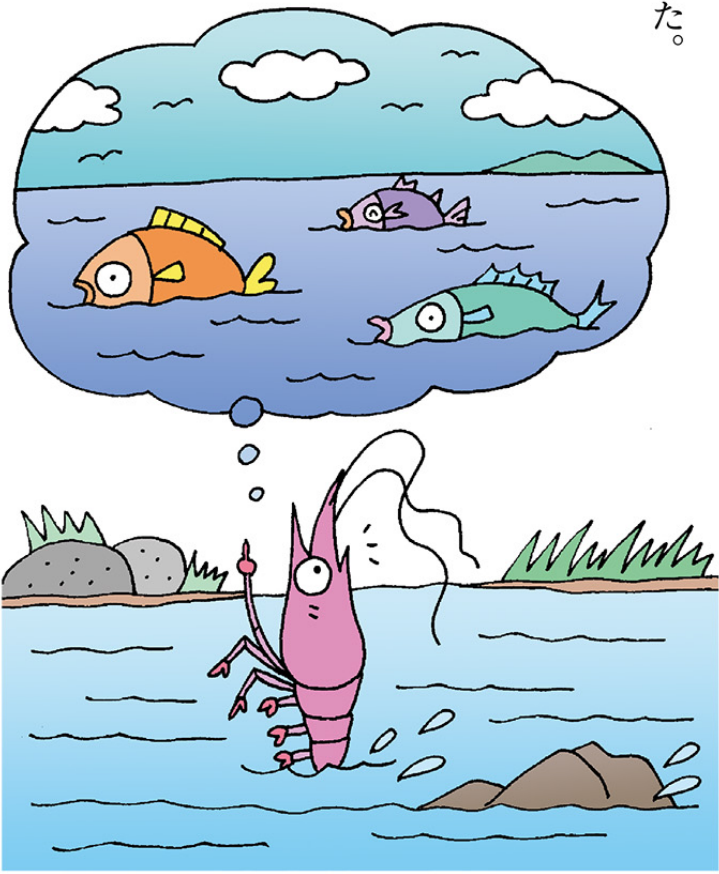
エビは、言いました。

「もっと大きいものに

会いたい。

そうだ、海だ！

海がいい」



エビは、海へ行きました。

海の中には、魚がたくさんいました。

でも、大きい魚は、いませんでした。

「ぼくが一番大きい。」

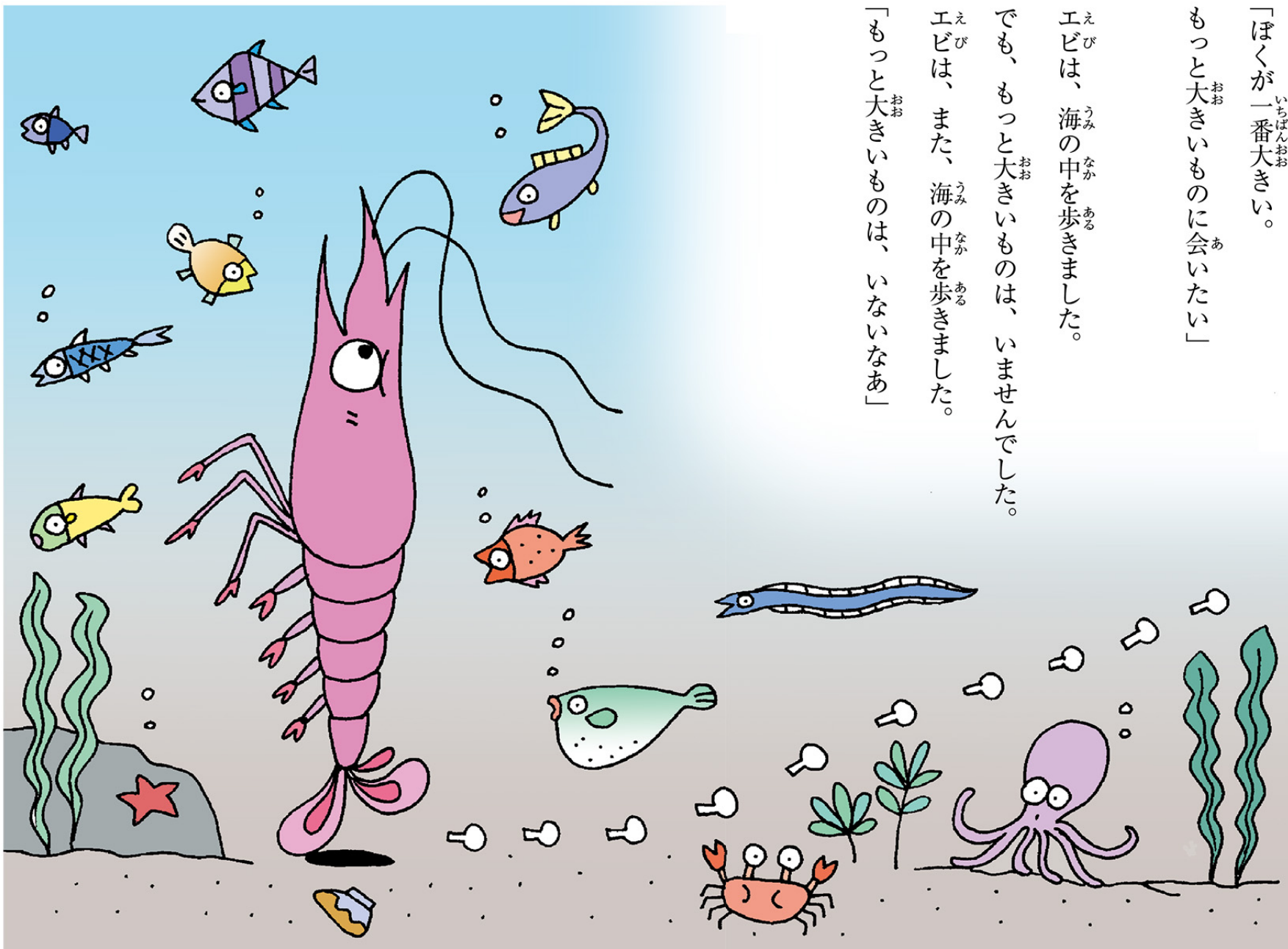
もっと大きいものに会いたい」

エビは、海の中を歩きました。

でも、もっと大きいものは、いませんでした。

エビは、また、海の中を歩きました。

「もっと大きいものは、いないなあ」



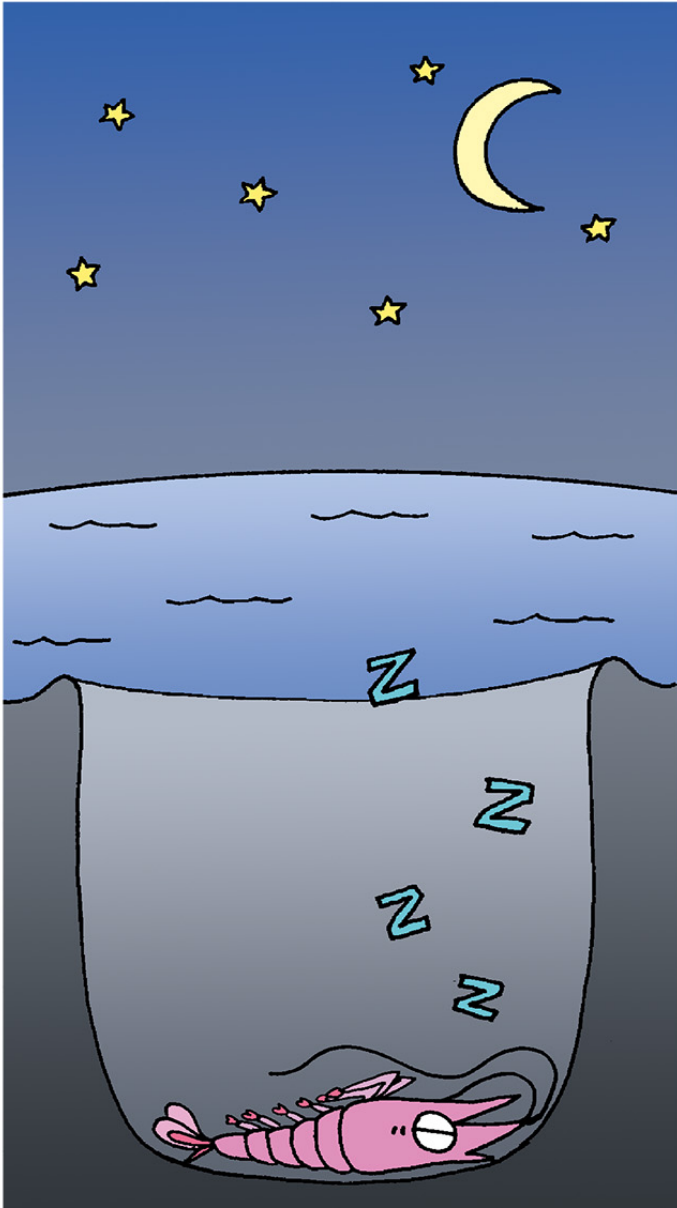
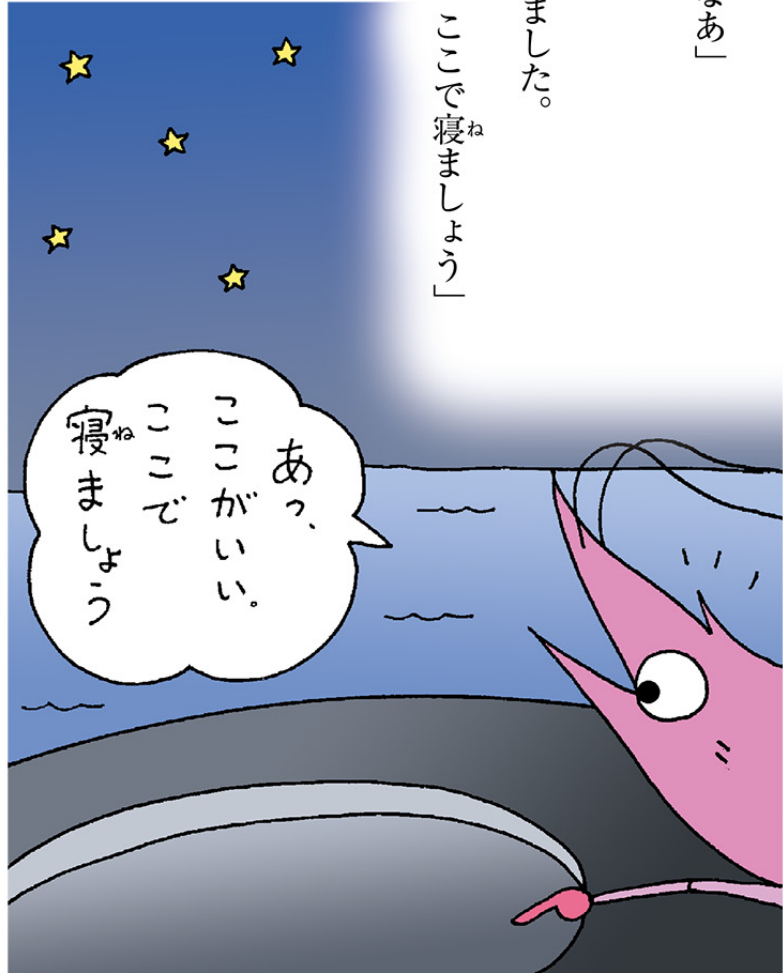
もう夜です。

エビは、とても疲れました。

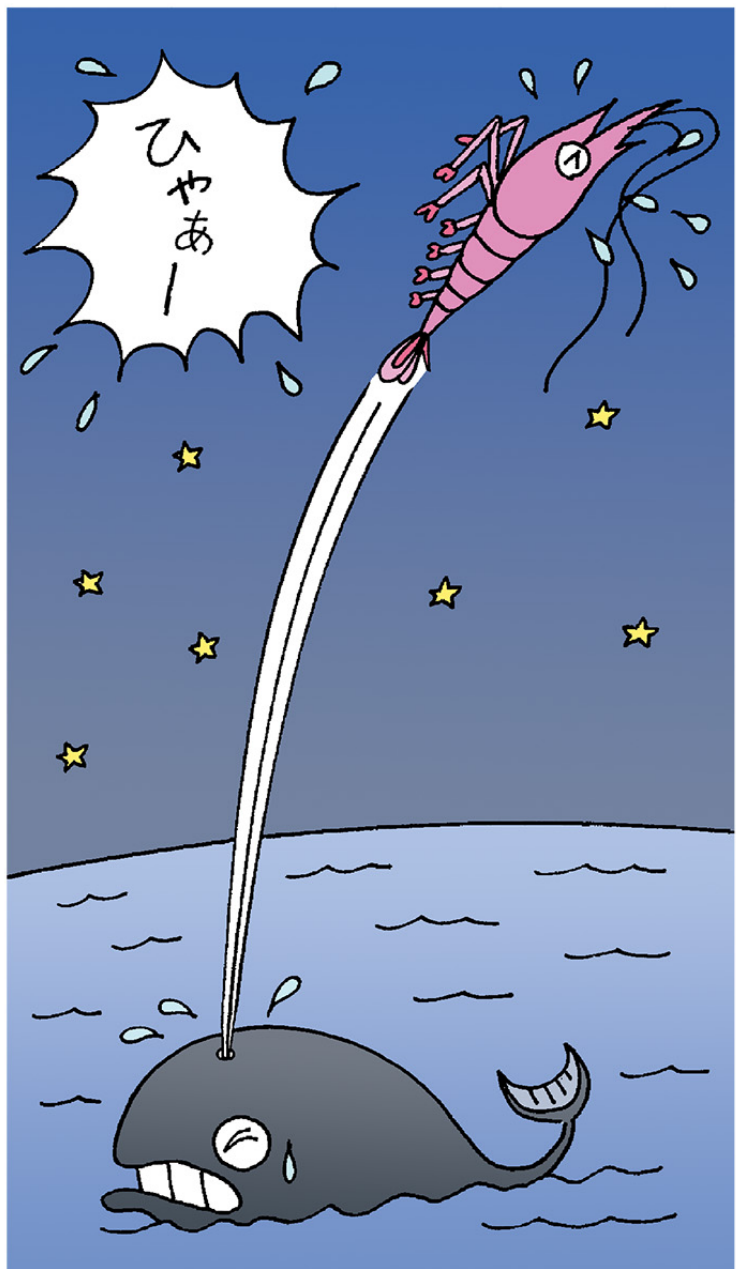
「ああ、もう寝たいなあ」

エビの前に穴がありました。

「あっ、ここがいい。ここで寝ましょう」



エビは、その穴の中で寝ました。



「ひゃあー」

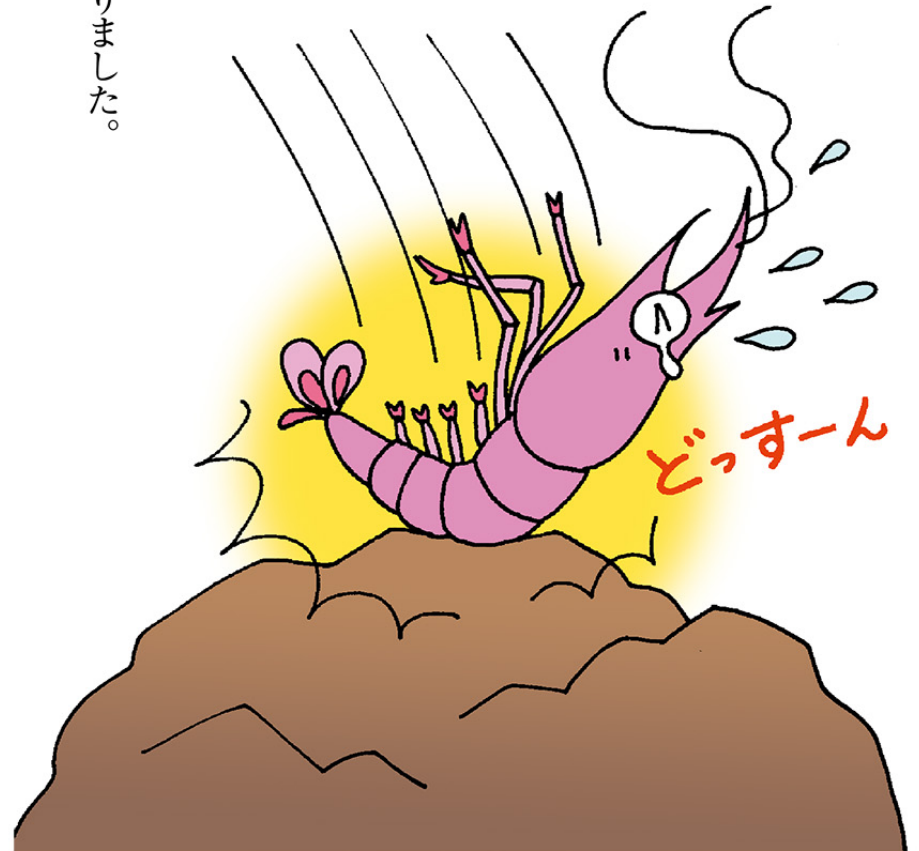
つぎの日の朝です。
クジラがいます。
「ん？ 鼻が…。あれ？」
鼻の中が…。
は、は、はつくしょーん」
クジラが、くしゃみをしました。



ドッ
スー
ーン

「痛い!!」

それから、エビの体は曲がりました。



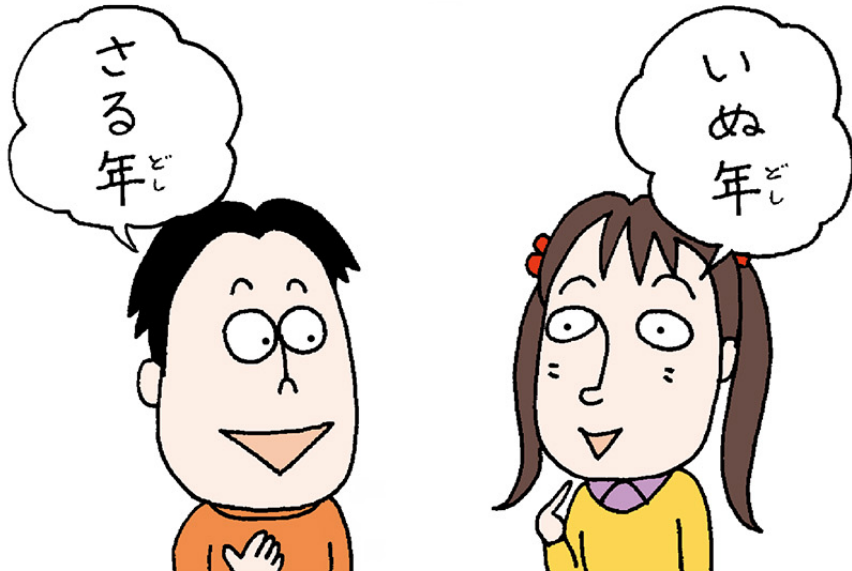
どうしてねこ年がない?

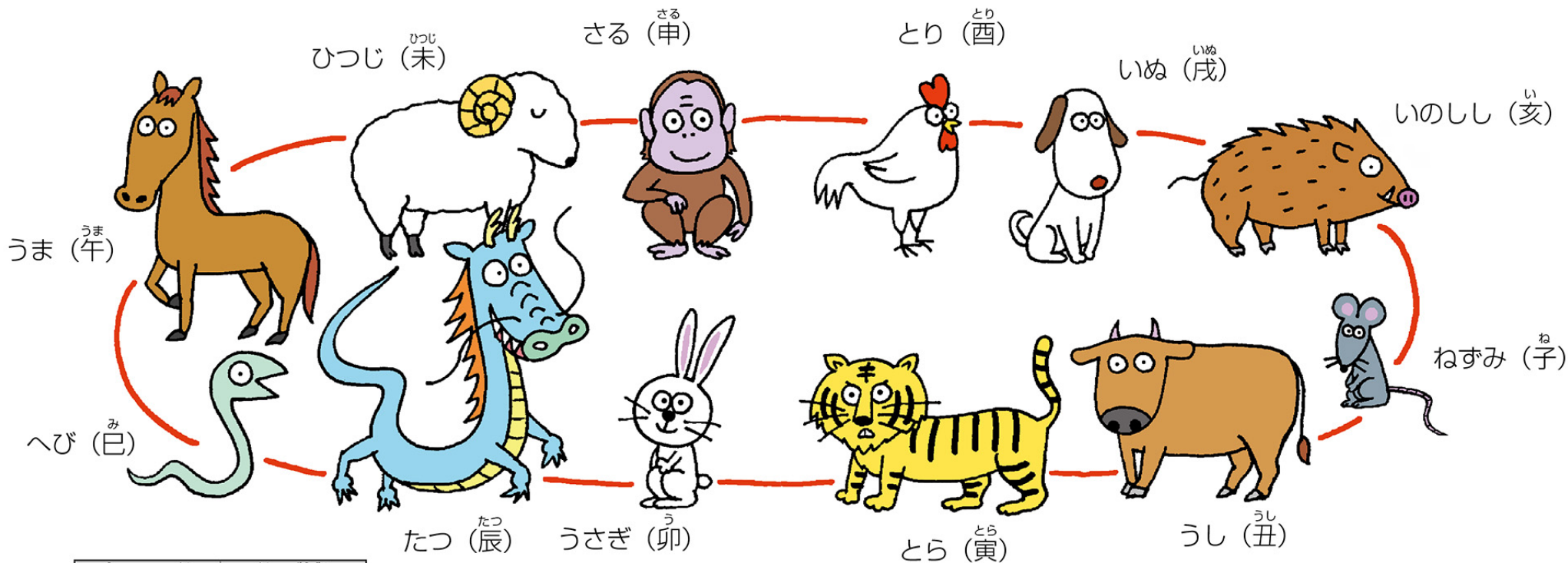
「あなたは、何年に生まれましたか?」

「一九九四年です。いぬ年生まれですよ」

「私は、一九九二年に
生まれましたから、さる年です」

いぬ? さる?
年に動物の名前?





| 生まれた年 | 年の動物 |
|-------|---------|
| ⋮ | ⋮ |
| 1984 | ねずみ/子年 |
| 1985 | うし/丑年 |
| 1986 | とら/寅年 |
| 1987 | うさぎ/卯年 |
| 1988 | たつ/辰年 |
| 1989 | へび/巳年 |
| 1990 | うま/午年 |
| 1991 | ひつじ/未年 |
| 1992 | さる/申年 |
| 1993 | とり/酉年 |
| 1994 | いぬ/戌年 |
| 1995 | いのしし/亥年 |
| 1996 | ねずみ/子年 |
| ⋮ | ⋮ |

▲年は、上の漢字を使います。

それは、どうしてでしょう？
十二の中に、「ねこ」はいません。

動物は、全部で十二です。
「ねずみ」「うし」「とら」「うさぎ」
「たつ」「へび」「うま」「ひつじ」
「さる」「とり」「いぬ」「いのしし」
です。

日本では、年に動物の名前が
あります。
皆さんの国でも、ありますか？

とても古い話です。

一年の終わりに、十二月三十一日の朝、
神様が、動物たちに言いました。

「明日は、一月一日です。

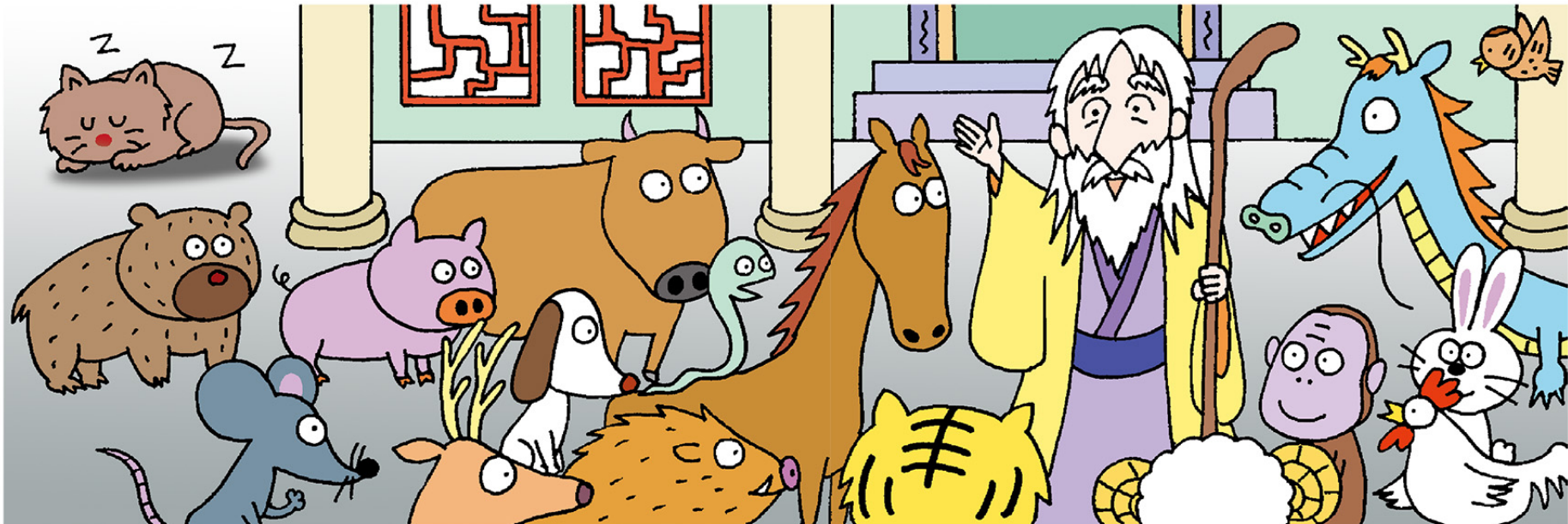
新しい年が、始まります。

明日の朝、私の家へ、みんな来なさい。

早く来なさい。

一番の動物に、新しい年をあげます。
二番の動物に、次の年をあげます。
三番の動物に、その次の年をあげます。
十二番の動物まで、年をあげます」

動物たちは、神様の話を聞きました。
でも、ねこは……。



神様の話が、終わりました。

ねこが、起きました。ねこは、ねずみに聞きました。

「ねずみさん、神様の話は、何でしたか？」

ねずみは、答えました。

「年の話でした。十二の動物が、年をもらいます」

「十二？」

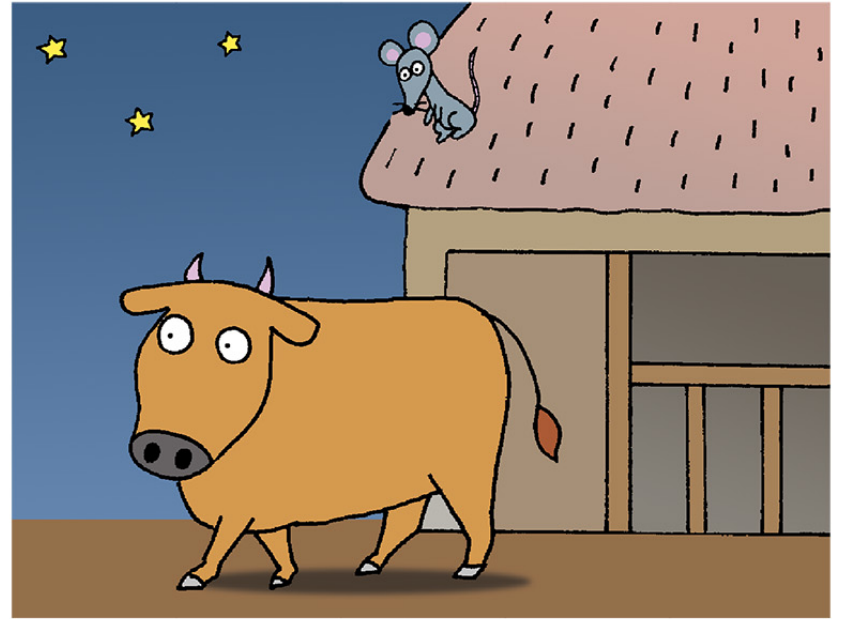
「そうです。十二です。」

一月一日に…、あつ、いいえ。一月二日に、みんな、神様の家へ行きます。

一番から十二番までの動物が、年をもらいます」

「そうですか。一月二日ですね。ありがとうございます」





十二月三十一日の夜です。

うしが、言いました。

「ぼくは、これから、家を出ます。

ゆっくり歩きますから」

ねずみは、屋根の上で、

うしの言葉を聞きました。

そして、うしに乗りました。

一月一日の朝です。

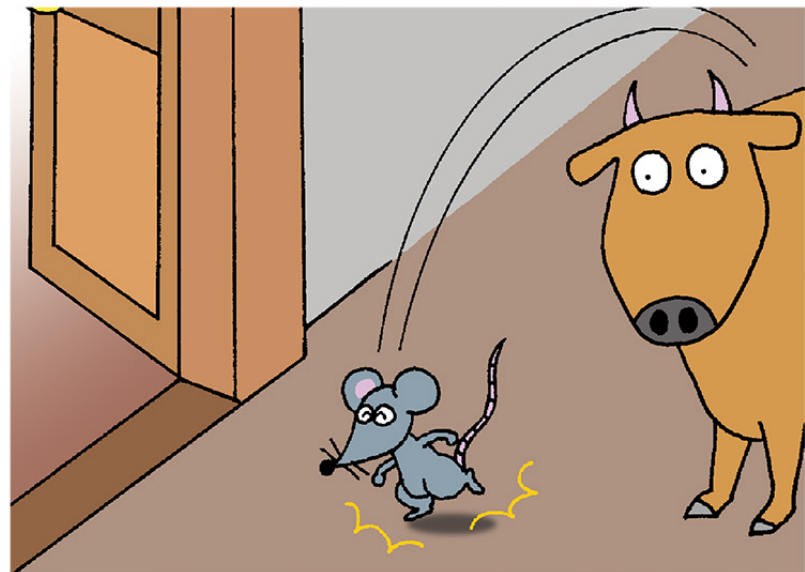
神様の家の前に、うしがいます。

門が開きました。





それから、うさぎ、たつ、へび、
うま、ひつじ、さる、とり、いぬ、
いのししが、来ました。
かみさま
神様は、言いました。
「あなたたちに、年をあげます」



ねずみが、牛から降りました。
そして、門の中に入りました。
ねずみが、一番です。
つぎ
次が、うしです。
さんぼん
三番は、とらでした。

次の日、一月二日の朝早く、ねこが来ました。

ねこは、神様に言いました。

「神様、私が一番ですね」

神様は、言いました。

「いいえ。一番は、ねずみですよ。」

今年は、ねずみの年です」

ねこは、言いました。

「じゃ、私は、二番ですね」

「いいえ。みんな、昨日来ましたよ。あなたは、来ませんでしたね」

「えっ、昨日ですか?!」



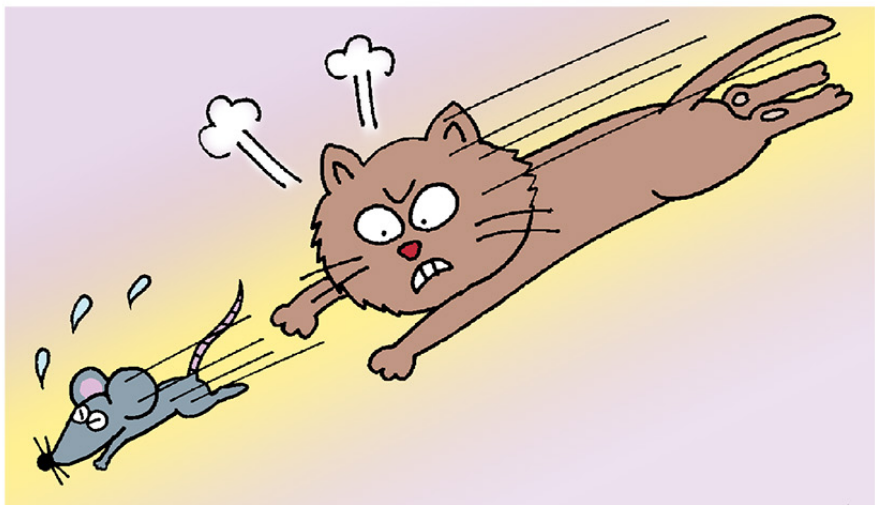
ねこは、すぐに、ねずみの家へ行きました。

「こらっ、ねずみ!!」

「わあーっ、ねこだ!!」

ですから、ねこの年はありません。

そして、今も、ねこは、ねずみが嫌いです。



<監修者紹介>

NPO 多言語多読 (旧 NPO 法人日本語多読研究会)

「多言語多読」は、外国語を身につけたい人や、それを支援する人たちに「多読」を提案し、応援する NPO です。
2002 年、日本語学習者のための「読みもの」を作ることを目的に、日本語教師が集まって日本語多読研究会を作りました。2006 年に NPO 法人化。2012 年に「NPO 多言語多読」と名称を変更し、多読の普及、実践、研究、日本語の「レベル別読みもの」の開発をしています。http://www.nihongo-yomu.jp

レベル別日本語多読ライブラリー (にほんご よむよむ文庫)

[レベル1] vol.3

どうしてエビの体は曲がった？／どうしてねこ年がない？

2008 年 3 月 27 日 初版 第 1 刷 発行

2013 年 3 月 25 日 初版 第 2 刷 発行

著者：小田 正子 (多言語多読会員・日本語教師)

作画：宇田川 のり子

監修：NPO 多言語多読

ナレーション：小金澤 篤子／山中 いとく

録音・編集：スタジオ グラッド

デザイン・DTP：仙台 忍

発行人：天谷 修平

発行：株式会社アスク出版

〒162-8558 東京都新宿区下宮比町 2-6

TEL.03-3267-6864 FAX.03-3267-6867

http://www.ask-books.com

http://www.ask-books.com/tadoku/ (「にほんご よむよむ文庫」公式 HP)

印刷・製本：株式会社光邦

許可なしに転載・複製することを禁じます。

乱丁・落丁はお取り替えいたします。

©NPO 多言語多読 2008

Printed in Japan ISBN978-4-87217-671-1

レベル別 日本語多読 ライブラリー

にほんご よむよむ文庫

レベル **1** vol.3 13

どうしてエビの体は曲がった？
どうしてねこ年がない？

どうしてエビの体は曲がったんでしよう？ どうしてねこ年がないんでしよう？
それは、何千年も前のこと……。
舌くから日本に伝わるお話です。

にほんご よむよむ文庫



これは、日本語を勉強している人のための「読みもの」シリーズです。5レベルに分かれていて、昔話、創作、名作、伝記などいろいろな話があります。レベルごとに言葉や文法が制限されていて、読みやすく書かれています。漢字には全てひらがなが付いていますから、辞書を引かないでどんどん読んでみましょう。

レベル クラス 語彙数 文字数／1話

0 入門 350 ~400

1 初級前半 **350** **400~1500**

2 初級後半 500 1500~2500

3 初中級 800 2500~5000

4 中級 1300 5000~10000



舌切雀
し た ら
す ず め



再話 = 高橋 宗子

挿絵 = 宮前 やすひこ

監修 = NPO多言語多読

(旧NPO法人日本語多読研究会)

にほんご よむよむ文庫 レベル 1

した き すずめ
舌切り雀

再話 (さいわ) : 高橋 宗子 (たかはし そうこ)

挿絵 (さしえ) : 宮前 やすひこ (みやまえ やすひこ)

監修 (かんしゅう): NPO 多言語多読 (たげんご たどく)

(旧 NPO 法人日本語多読研究会)

これは、日本の古い話です。

あるところに、おじいさんとおばあさんがいました。

おじいさんは、毎日、山へ行きます。

山には、雀がたくさんいます。

一羽の雀が、おじいさんの近くへ来ました。

「チュン、チュン、チュン、チュン」

おじいさんは、言いました。

「かわいい雀だ」

おじいさんは、雀と家へ帰りました。



おじいさんは、毎日、雀と遊びます。

でも、おばあさんは、雀が嫌いでした。



おじいさんは、今日も山へ行きます。

おばあさんは、洗濯をします。

おばあさんは、ご飯で「洗濯のり」を
作りました。

そして、洗濯のりを、着物に付けました。

「チュン、チュン」

雀は、家の近くで遊びます。

雀は、おばあさんの洗濯のりを見ました。

「あ、いいものがありますね」

雀は、洗濯のりを、少し食べました。

「おいしい！」

雀は、洗濯のりを、もつと食べました。

「おいしい、おいしい」

おばあさんが、後ろを見ました。
雀が、います。

「ごらっ！」

私の洗濯のりを食べましたね。

悪い雀だ！」

おばあさんは、雀の舌を切りました。



「痛い、痛い」

雀は、山へ帰りました。





おじいさんが、山から帰りました。

雀が、いません。

おじいさんは、おばあさんに聞きました。

「雀は、どこですか？」

おばあさんは、言いました。

「雀は、もういませんよ。」

あの雀は、悪い雀です。

私の洗濯のりを食べました。

だから、舌を切りました」

「えっ!!」

おじいさんは、大きい声を

出しました。



おじいさんは、山へ行きました。

「雀さん、雀さん。どこにいますか？」

雀は、いません。

おじいさんは、また言いました。

「雀さん、雀さん。どこにいますか？」

「おじいさん、ここです。ここです」

雀が、来ました。あの雀です。

おじいさんは、言いました。

「雀さん、大丈夫ですか？」

雀は、言いました。

「はい、もう大丈夫です。」

ありがとうございます。

おじいさん、私の家へどうぞ」

おじいさんは、雀の家へ行きました。

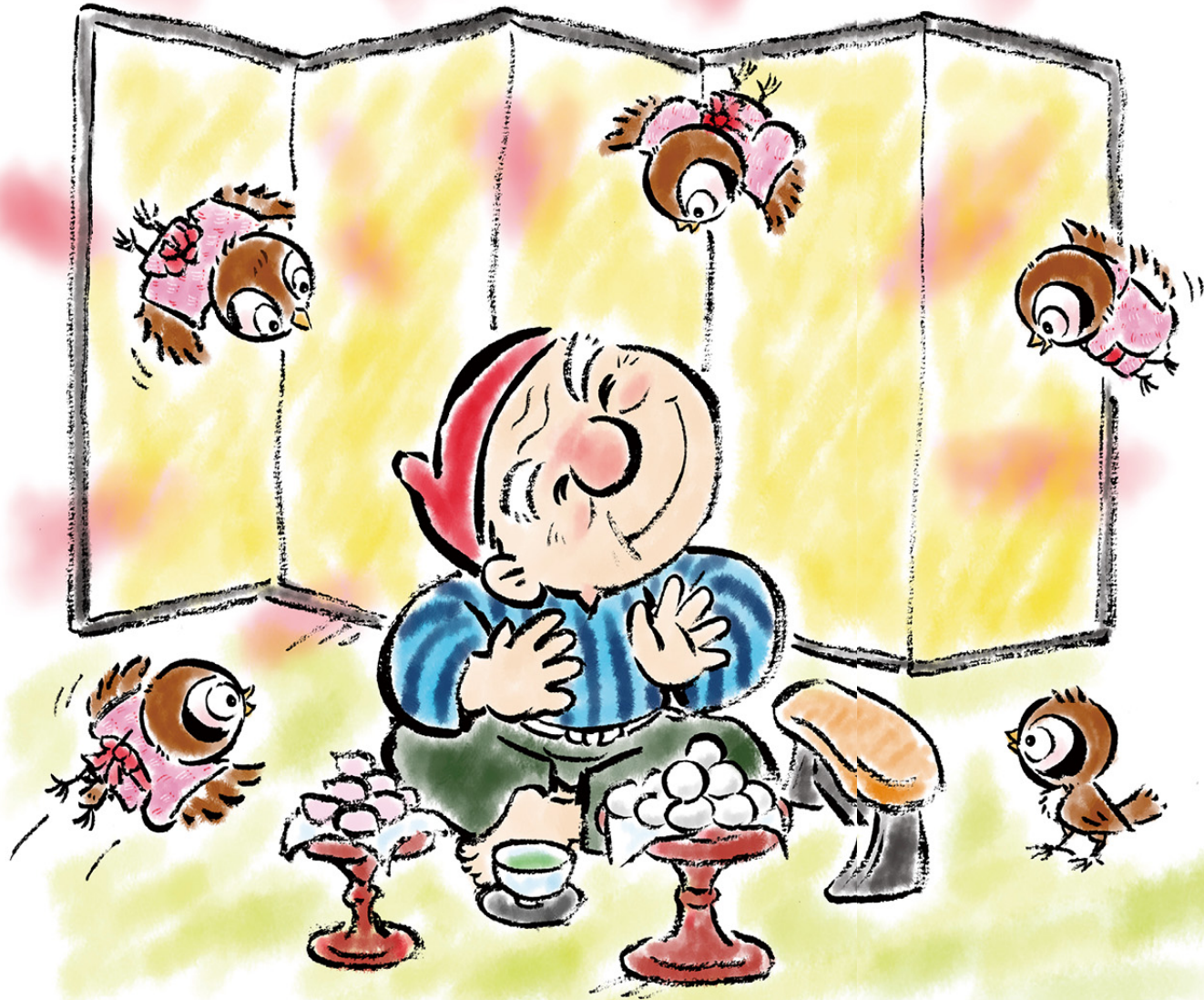


「おじいさん、お茶をどうぞ。お菓子もどうぞ」
おじいさんは、お茶を飲みました。お菓子も食べました。
「ああ、おいしい」

家の中には、雀がたくさんいます。

雀たちは、歌を歌います。

踊りを踊ります。

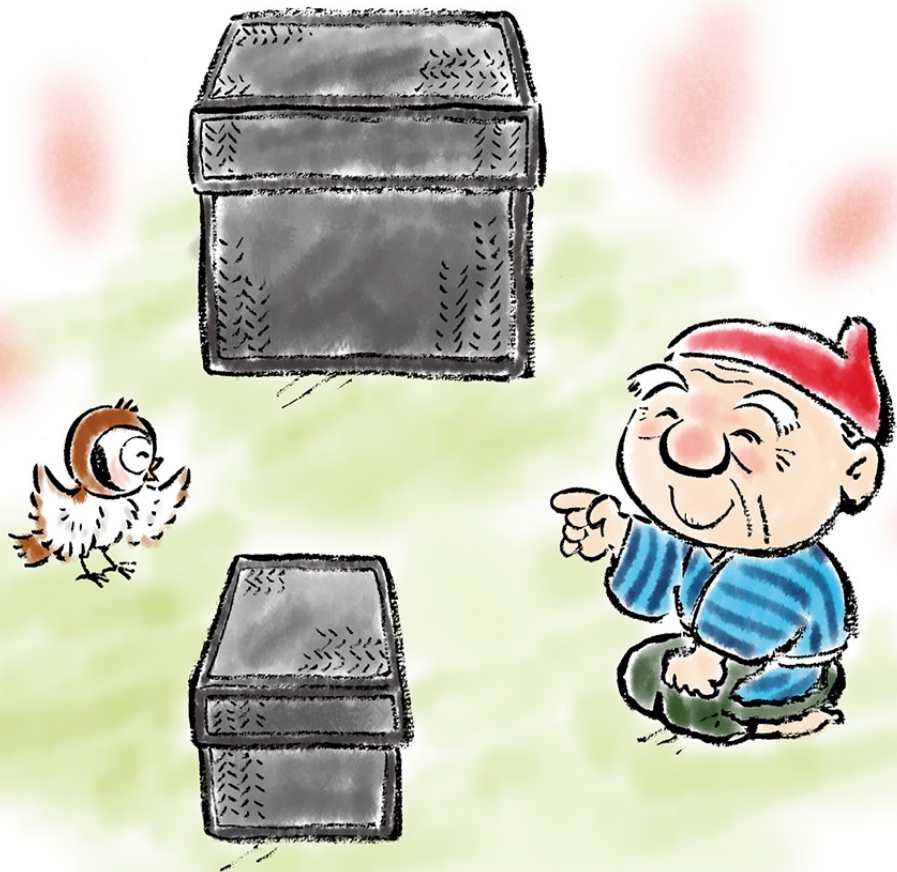


おじいさんは、言いました。

「ああ、楽しかった。ありがとう。もう夕方ですね。私は、家へ帰ります」
雀が、おじいさんの前へ来ました。あの雀です。
雀は、言いました。

「おじいさん、これをどうぞ。ここに、箱が二つあります。大きい箱がいいですか？
小さい箱がいいですか？」

「小さい箱がいいです。大きい箱は、重いですから」
おじいさんは、小さい箱をもらいました。



おじいさんは、家へ帰りました。そして、箱を開けました。
中には、お金やきれいな着物が、たくさんありました。



おばあさんは、それを見ました。

「まあ、おじいさん。どこで、これを？」

おじいさんは、雀の話をしました。

「じゃあ、私も雀の家へ行きます！」

おばあさんは、山へ行きました。

「雀さん、雀さん。どこにいますか？」

雀は、いません。

おばあさんは、また言いました。

「雀さん、雀さん。どこにいますか？」

「おばあさん、ここです。ここです」

雀が、来ました。あの雀です。

雀は、おばあさんに言いました。

「おばあさん、私の家へどうぞ」





おばあさんは、雀の家へ行きました。

「おばあさん、お茶をどうぞ。お菓子もどうぞ」

「私は、お茶もお菓子も、ほしくないです。」

「箱がほしいです。早く箱をください！」

「わかりました。おばあさん、大きい箱が

いいですか？ 小さい箱がいいですか？」

「大きい箱がいいです。大きい箱をください」

おばあさんは、大きい箱をもらいました。

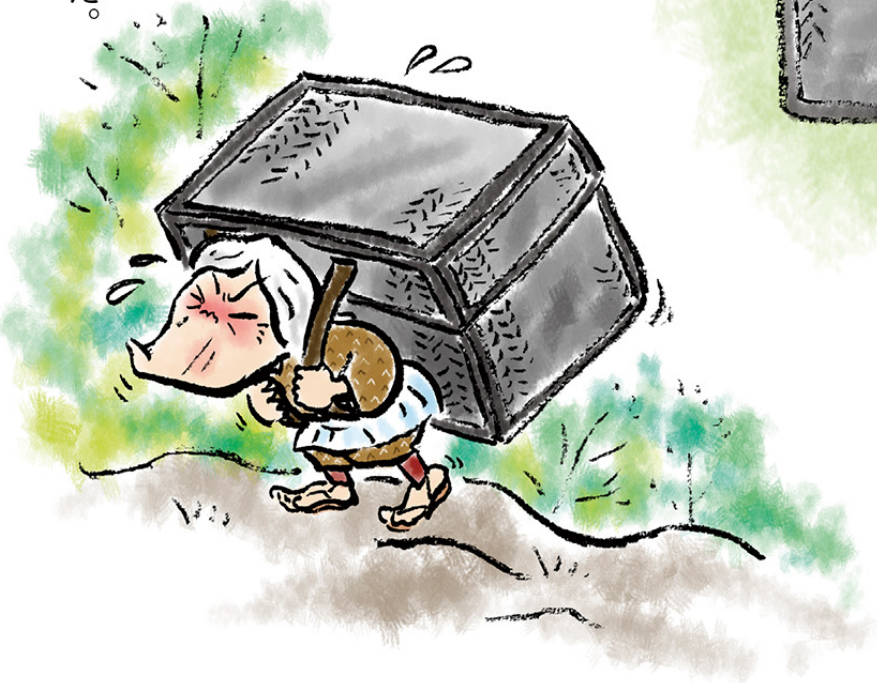


「うーん、重い！」

大きい箱は、とても重いです。

「重い、重い。うーん、もう、だめだ！」

おばあさんは、山の中で、箱を開けました。



「わああ——」

箱の中はこには、お化けが、たくさんいました。



<監修者紹介>

NPO 多言語多読 (旧 NPO 法人日本語多読研究会)

「多言語多読」は、外国語を身につけたい人や、それを支援する人たちに「多読」を提案し、応援する NPO です。
2002 年、日本語学習者のための「読みもの」を作ることを目的に、日本語教師が集まって日本語多読研究会を作りました。2006 年に NPO 法人化。2012 年に「NPO 多言語多読」と名称を変更し、多読の普及、実践、研究、日本語の「レベル別読みもの」の開発をしています。http://www.nihongo-yomu.jp

レベル別日本語多読ライブラリー (にほんご よむよむ文庫)

[レベル1] vol.3

舌切り雀

2008 年 3 月 27 日 初版 第 1 刷 発行

2013 年 3 月 25 日 初版 第 2 刷 発行

再話：高橋 宗子 (多言語多読会員・日本語教師)

作画：宮前 やすひこ

監修：NPO 多言語多読

ナレーション：山中 いとく / 小金澤 篤子

録音・編集：スタジオ グラッド

デザイン・DTP：仙台 忍

発行人：天谷 修平

発行：株式会社アスク出版

〒162-8558 東京都新宿区下宮比町 2-6

TEL.03-3267-6864 FAX.03-3267-6867

http://www.ask-books.com

http://www.ask-books.com/tadoku/ (「にほんご よむよむ文庫」公式 HP)

印刷・製本：株式会社光邦

許可なしに転載・複製することを禁じます。

乱丁・落丁はお取り替えいたします。

©NPO 多言語多読 2008

Printed in Japan ISBN978-4-87217-671-1

レベル別 日本語多読 ライブラリー

にほんご よむよむ文庫

レベル **1** vol.3 14

舌切り雀

おじいさんは、毎日、雀と遊びます。ある日、雀は、おばあさんの作った「洗濯のり」を食べてしまいました。怒ったおばあさんは……。

にほんご よむよむ文庫



これは、日本語を勉強している人のための「読みもの」シリーズです。5レベルに分かれていて、昔話、創作、名作、伝記などいろいろな話があります。レベルごとに言葉や文法が制限されていて、読みやすく書かれています。漢字には全てひらがなが付いていますから、辞書を引かないでどんどん読んでみましょう。

レベル クラス 語彙数 文字数/1話

0 入門 350 ~400

1 初級前半 350 400~1500

2 初級後半 500 1500~2500

3 初中級 800 2500~5000

4 中級 1300 5000~10000



夏休み の 予定



作=川本 かず子

挿絵=津田 蘭子

監修= NPO多言語多読

(旧NPO法人日本語多読研究会)

にほんご よむよむ文庫 レベル 1

じょんさんのなつやすみ

作 (さく) : 川本 かず子 (かわもと かずこ)

挿絵 (さしえ) : 津田 蘭子 (つだ らんこ)

監修 (かんしゅう): NPO 多言語多読 (たげんご たどく)

(旧 NPO 法人日本語多読研究会)

ジヨンさんの学校は、今、夏休みです。

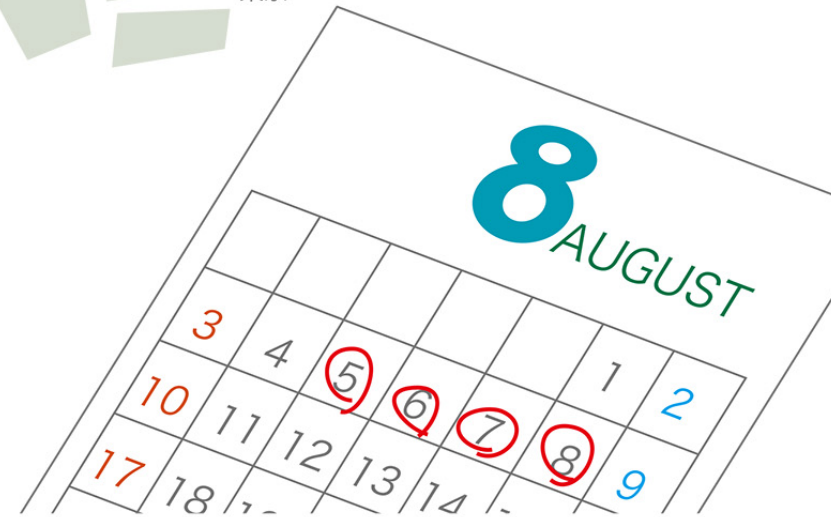
夏休みは、八月一日から三十一日までです。

今日は、八月五日です。

ジヨンさんは、これから、仙台へ行きます。

森さんの家に、八日までホームステイをします。

東京から、新幹線で仙台へ行きます。



ここは、仙台駅です。

仙台駅で、森さんに会います。

—— えーと、森さんは……、

青いシャツの、背が高い人……。

あつ、あの人？——

改札の前に、青いシャツの、

背が高い女の人がいます。

—— わあ、きれいな人！——



ジョンさんは、その人に言いました。

「はじめまして、ジョンです。どうぞよろしく」

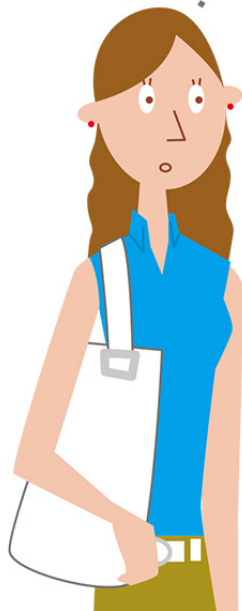
でも、女の方は、何も言いません。

女の人 「……………?」

ジョンさん 「あつ、す、すみません」



? ? ?



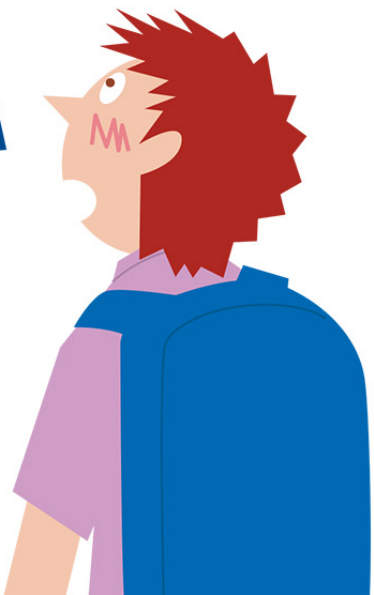
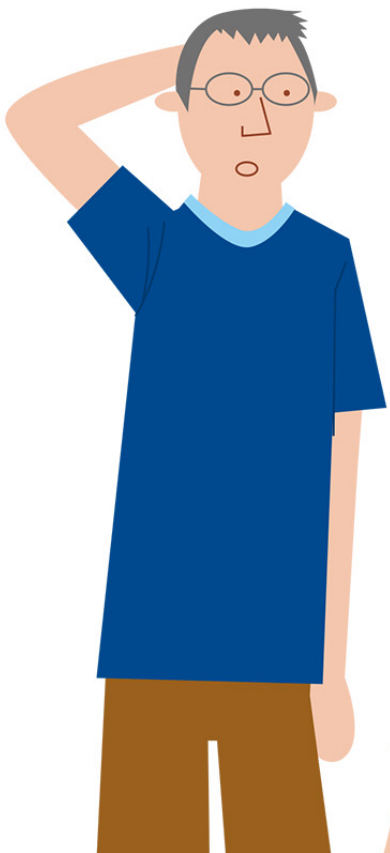
男の人が来ました。そして、言いました。

「あのう、ジョンさんですか?」

「えっ?! あ、はい。ジョンです」

ジョンさんは、男の人を見ました。

青いシャツの、背が高い男の人です。





ジョンさんは言いました。

「森さんですか？ はじめまして。」

どうぞよろしくお願ひします」

森さんが言いました。

「こちらこそ、どうぞよろしく」

二人は、森さんの車で、

森さんの家へ行きます。

ジョンさんは、今日から、

森さんの家に、ホームステイをします。



夜です。これから、みんなで晩ご飯を食べます。

森さんの家族は、四人です。

森さん、奥さんの京子さん、

子どもの広くん、七歳。

そして、おばあちゃんの

正子さん。



みんなで、いろいろな話をしました。

そして、おいしい料理を、たくさん食べました。

ジヨンスン 「とてもおいしかったです。」

「ごちそうさまでした」

広くん 「お父さん、今日は、花火の日だよ」

森さん 「うん、そうだね。」

「じゃあ、みんなで行きましょう」

ジヨンスン 「花火ですか？ いいですね！」

広くん 「ジヨンスン、早く、早く！」



ジヨンスン 「はい。あれ？」

足が……、わあ、足が！」

広くん 「ジヨンスン、大丈夫？」

ジヨンスン 「大丈夫じゃありません！」

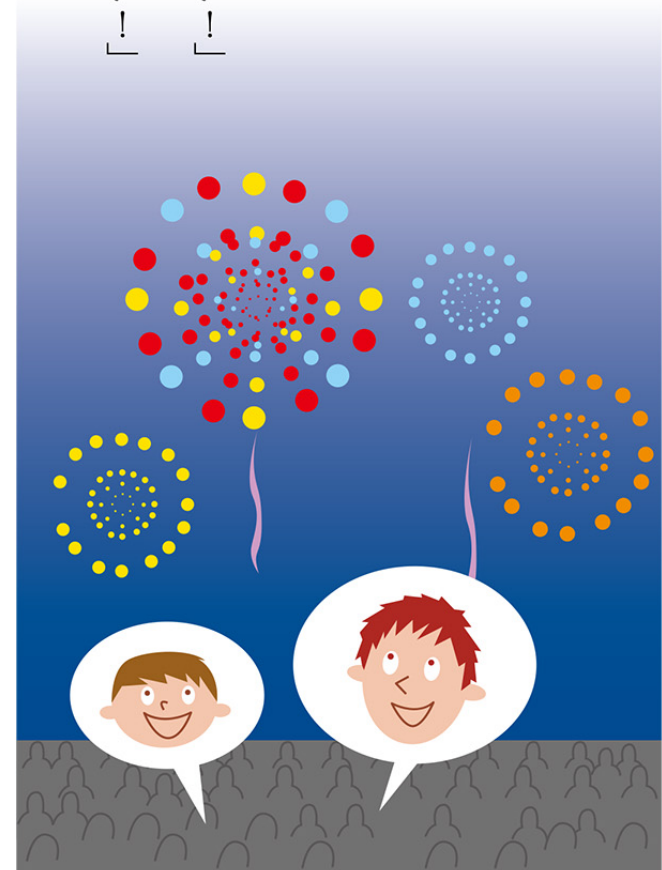


みんなで花火を見ます。

ドーン

「わあ、きれい！」

「わあ、大きい！」



今日は、八月七日です。「七夕」の日です。

七夕の日は、東京では七月七日ですが、仙台では八月七日です。

仙台の「七夕祭り」は、とても有名です。

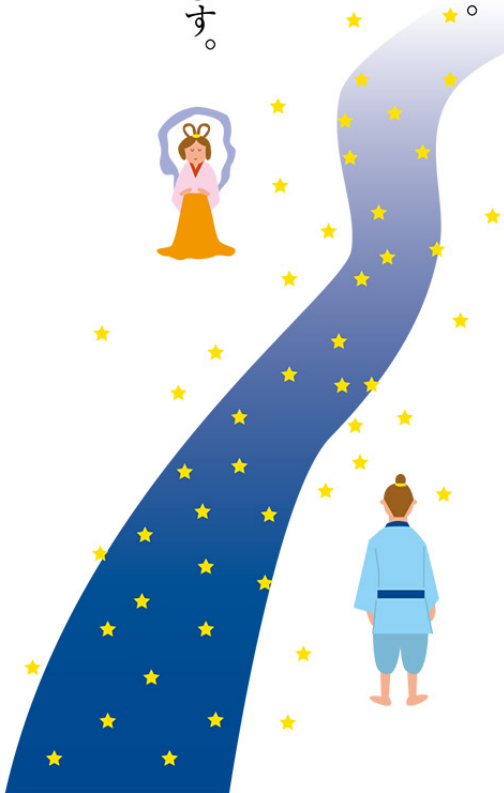
七夕の話は、中国から来ました。

女の星「織姫」と、

男の星「彦星」が、

一年に一回、「天の川」で会います。

その日が、七夕の日です。





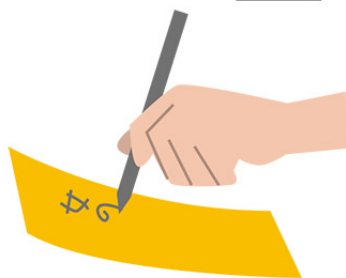
七夕祭りに、日本では、家に笹を置きます。

そして、短冊に、お願いを書きます。

ジョンさんも、昨日、短冊に、

お願いを書きました。

女の友だちがほしい



七夕祭りの日、町は、とてもにぎやかです。

森さんの家族とジョンさんは、町へ行きます。

夕方、ジョンさんは、

森さんの家族と、家を出ました。

家の前に、笹があります。

みんなの短冊があります。

ジョンさんは、

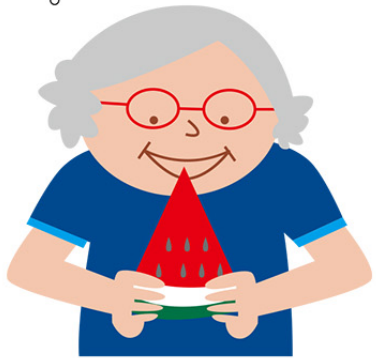
広くんの短冊を見ました。



大きい犬がほしい

すいかを食べました。

おばあさんは、



ビールを飲みました。

森さんと奥さんは、



かき氷を食べました。

ジョンさんと広くんは、



町に来ました。
人が、たくさんいます。
とてもぎやかです。
町は、とてもきれいです。
ジョンさん 「わあ、きれいですね！」

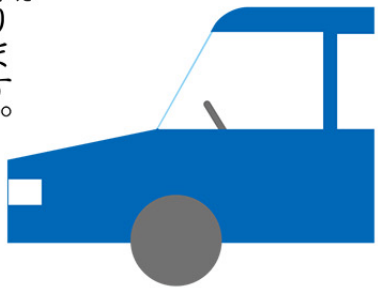


はちがつようか
八月八日です。

ジヨンスン 「森さん、京子さん、広くん、おばあちゃん、ありがとうございました。」

とても楽しかったです。みなさん、さようなら」

みんな 「ジヨンスン、さようなら。元気でね！」



ジヨンスンは、東京へ帰ります。



今、ジヨンスンは、東京の「東西デパート」にいます。

大きい犬を買います。大きい犬のぬいぐるみです。

広くんにあげます。

ジヨンスンは、デパートの人に言いました。

ジヨンスン 「すみません、

これを仙台に送りたいんですが……」

デパートの人 「はい。では、ここに、

ご住所とお名前を、お願いします」

ジヨンスン 「はい」

ジヨンスンは、住所と名前を書きました。



二日後です。

ジョンさんの家に、だれか来ました。

ピンポーン、ピンポーン

ジョンさん 「はい」

男の人 「東西デパートです」



ジョンさんは、ドアを開けました。

男の人の手に、大きい箱があります。

東西デパートの箱です。

ジョンさん 「えっ?! 東西デパート?」

あれ? これは……。

これは、仙台に……。

「ここじゃないですよ」



レベル別 日本語多読 ライブラリー

にほんご よむよむ文庫

レベル **1** vol.3 15

ジョンさんの夏休み

留学生のジョンさん。夏休みは、
仙台でホームステイをします。

さあ、今回は、どんな失敗やおもしろい体験をしましょう。

にほんご よむよむ文庫



これは、日本語を勉強している人のための「読みもの」シリーズです。5レベルに分かれていて、昔話、創作、名作、伝記などいろいろな話があります。レベルごとに言葉や文法が制限されていて、読みやすく書かれています。漢字には全てひらがなが付いていますから、辞書を引かないでどんどん読んでみましょう。

レベル クラス 語彙数 文字数/1話

0 入門 350 ~400

1 初級前半 **350** **400~1500**

2 初級後半 500 1500~2500

3 初中級 800 2500~5000

4 中級 1300 5000~10000

Japanese Graded Readers

レベル別
日本語多読
ライブラリー



にほんご よむ よむ 文庫

レベル 1 vol.1 1

女の
おんな
子
こ



作 = 橋爪 明子

挿絵 = 鯨江 光二

監修 = NPO 多言語多読

(旧NPO法人日本語多読研究会)

にほんご よむよむ文庫 レベル 1

おんな こ
女の子

作 (さく) : 橋爪 明子 (はしづめ あきこ)

挿絵 (さしえ) : 鯨江 光二 (なますえ こうじ)

監修 (かんしゅう): NPO 多言語多読 (たげんご たどく)
(旧 NPO 法人日本語多読研究会)



おお
い
え
大
き
い
家
が
あ
り
ま
す
。

お
お
い
え
と
と
も
大
き
い
家
で
す
。

おお
いえ
おお
へや
おんな
こ
大きな家の大きな部屋に、女の子がいます。
へや
部屋には、ものがたくさんあります。
えほん
びあの
てれび
絵本もピアノもテレビもあります。
にんぎょう
人形もあります。

でも、^{ひと}一つだけありません。

それは、「^{ことば}言葉」。

おんな
こ
女の子は「^{ことば}言葉」を言いません。

そして、^{わら}笑いません。



女の子の家には、お父さんもいます。

お母さんもいます。

でも、女の子は、いつも一人です。



隣の部屋から、

お父さんの大きい声。

お母さんの大きい声。

そして、ドアの音（ボタン！）







古いアパートがあります。

とても古いアパートです。

お母さんと女の子は、

今、このアパートにいます。

お母さんと女の子の部屋には、

何もありません。

女の子は、
毎日、窓から外を見ます。

自転車走ります。

バイクも走ります。

おじいさんがいます。

おばあさんもいます。

子どももいます。

猫もいます。





ひとりのおとこが、
まいちがっこうに行きます。

とてもげんきな男の子です。

「おはよう！」

男の子は、女の子に毎日、言います。

でも、女の子は何も言いません。



ある日、男の子は女の子に
言いました。

「はい、これ」



古いアパートの部屋には、
何もありません。

でも、女の子の手には、

小さい花があります。

「ありがとう」

いま、女の子は、

「言葉」を言いました。



<監修者紹介>

NPO 多言語多読 (旧 NPO 法人日本語多読研究会)

「多言語多読」は、外国語を身につけたい人や、それを支援する人たちに「多読」を提案し、応援する NPO です。

2002 年、日本語学習者のための「読みもの」を作ることを目的に、日本語教師が集まって日本語多読研究会を作りました。2006 年に NPO 法人化。2012 年に「NPO 多言語多読」と名称を変更し、多読の普及、実践、研究、日本語の「レベル別読みもの」の開発をしています。http://www.nihongo-yomu.jp

レベル別日本語多読ライブラリー (にほんご よむよむ文庫)

[レベル 1] vol.1

女の子

2006 年 10 月 10 日 初版 第 1 刷 発行

2015 年 3 月 10 日 初版 第 5 刷 発行

作：橋爪 明子

作画：鯉江 光二

監修：NPO 多言語多読

ナレーション：篠原 明美

録音・編集：スタジオ グラッド

デザイン・DTP：有限会社トライアングル

発行人：天谷 修平

発行：株式会社アスク出版

〒162-8558 東京都新宿区下宮比町 2-6

TEL.03-3267-6864 FAX.03-3267-6867

http://www.ask-books.com

http://www.ask-books.com/tadoku/ (「にほんご よむよむ文庫」公式 HP)

印刷・製本：株式会社光邦

許可なしに転載・複製することを禁じます。

乱丁・落丁はお取り替えます。

©NPO 多言語多読 2006

Printed in Japan ISBN978-4-87217-624-7

レベル別 日本語多読 ライブラリー

にほんご よむよむ文庫

レベル **1** vol.1 1

女の子

「女の子」の部屋には、何でも
あります。本、ピアノ、テレビ
……。でも、ないものがひとつ。
ちよつと心が温かくなるお話で
す。

にほんご よむよむ文庫



これは、日本語を勉強している人のための「読みもの」シリーズです。5レベルに分かれていて、昔話、創作、名作、伝記などいろいろな話があります。レベルごとに言葉や文法が制限されていて、読みやすく書かれています。漢字には全てひらがなが付いてますから、辞書を引かないでどんどん読んでみましょう。

レベル クラス 語彙数 文字数／1話

0 入門 350 ~400

1 初級前半 **350** **400~1500**

2 初級後半 500 1500~2500

3 初中級 800 2500~5000

4 中級 1300 5000~10000



ハ は
チ ち
の の
話 はなし



作 = 松田 緑

挿絵 = 佐藤 繁

監修 = NPO 多言語多読

(旧NPO法人日本語多読研究会)

にほんご よむよむ文庫 レベル 1

は ち はなし
八 十 の 話

作 (さく) : 松田 緑 (まつだ みどり)

挿絵 (さしえ) : 佐藤 繁 (さとう しげみ)

監修 (かんしゅう): NPO 多言語多読 (たげんご たどく)
(旧 NPO 法人日本語多読研究会)



「ハチ」は、子どもの犬です。
大学の先生が、ハチをもらいました。

はち せんせい
八子と先生は、一緒に遊びます。

はち せんせい
八子と先生は、一緒にご飯を食べます。

いっしょ
一緒にお風呂に入ります。

いっしょ
一緒に寝ます。



せんせい、まいにち、だいがくへいきます。

はち、あさ、せんせいといっしょにえきへいきます。

せんせい、しがやえきででんしゃの

「はち、いってきます」

「ワンワン」

はち、うちへかえります。





ハチは、夕方、渋谷駅へ行きます。

先生が、電車を降ります。

「ハチ、ただいま」

「ワンワン」

ハチはうれしいです。

ハチと先生は、一緒にうちへ帰ります。

その日も、八ちは、朝、先生と一緒に渋谷駅へ行きました。

「八ち、行ってきます」

「ワンワン」

先生は、大学へ行きました。



八ちは、夕方、渋谷駅へ行きました。

でも、先生は帰りませんでした。



せんせい、その日、
だいがく、
大学で倒れました。

そして、

だいがく、
大学から病院へ行きました。



せんせい、
もう、
先生は、もう、
帰りません。

でも、八手は、
それがわかりません。



八手は、毎日、夕方、
渋谷駅へ行きました。

そして、先生を待ちました。



雨が降ります。
雪が降ります。
風が吹きます。



そして、春が来ます。

冬が来ます。
秋が来ます。
夏が来ます。



電車が来ます。
先生は帰りません。
また、電車が来ます。
先生は帰りません。

ハチは、毎日、夕方、渋谷駅へ行きます。

先生を待ちます。

先生は、帰りません。

ハチは、十年、毎日、渋谷駅へ行きました。

今、渋谷駅の前に、ハチの像があります。





はち せんせい
八チと先生



はち ねん
八チ 1923～1935年
こぼりかすこししよぞう
(小林和子氏所蔵)

うえの えいさぶろうせんせい ねん
上野英三郎先生 1871～1925年
こぼりかすこししよぞう
(小林和子氏所蔵)

はち はなし ぶたい しぶや
「八チの話」の舞台・渋谷

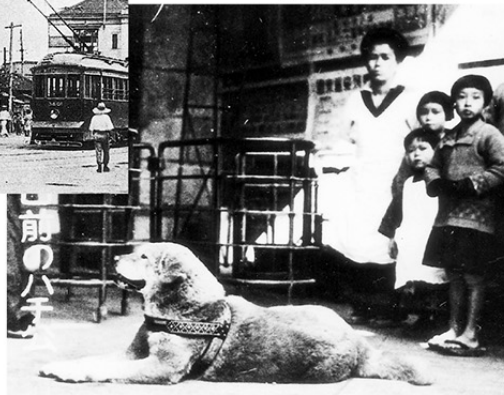


はち しぶやえき
八チと渋谷駅



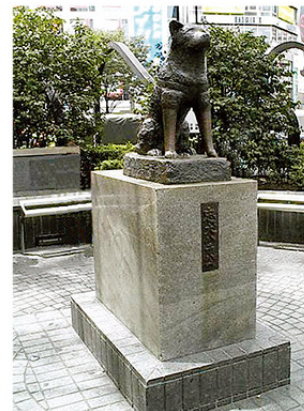
ねんごころ しぶやえき
1920年頃の渋谷駅
しぶや くきょうどほくぶつかん ぶんがくかんしよぞう
(渋谷区郷土博物館・文学館所蔵)

かいざつ せんせい ま はち
改札で先生を待つ八チ
こぼりかすこししよぞう
(小林和子氏所蔵)



いま しぶやえき
今の渋谷駅

ちゅうけん はち こうどうぞう
忠犬八チ公銅像



しぶやえきまえ
渋谷駅前



<参考図書>

林正春編 『ハチ公文献集』（非売品）

※ この物語は、実話に基づいて書かれています。この物語の執筆にあたり、
『ハチ公文献集』の編者である林正春氏には、多大なるご協力をいただきました。

<監修者紹介>

NPO 多言語多読 (旧 NPO 法人日本語多読研究会)

「多言語多読」は、外国語を身につけたい人や、それを支援する人たちに「多読」を提案し、応援する NPO です。

2002 年、日本語学習者のための「読みもの」を作ることを目的に、日本語教師が集まって日本語多読研究会を作りました。2006 年に NPO 法人化。2012 年に「NPO 多言語多読」と名称を変更し、多読の普及、実践、研究、日本語の「レベル別読みもの」の開発をしています。http://www.nihongo-yomu.jp

レベル別日本語多読ライブラリー (にほんご よむよむ文庫)

[レベル 1] vol.1

ハチの話

2006 年 10 月 10 日 初版 第 1 刷 発行

2015 年 3 月 10 日 初版 第 5 刷 発行

作：松田 緑 (多言語多読会員・日本語教師)

作画：佐藤 繁

監修：NPO 多言語多読

ナレーション：篠原 明美 / 山中 一徳

録音・編集：スタジオ グラッド

デザイン・DTP：有限会社トライアングル

発行人：天谷 修平

発行：株式会社アスク出版

〒 162-8558 東京都新宿区下宮比町 2-6

TEL.03-3267-6864 FAX.03-3267-6867

http://www.ask-books.com

http://www.ask-books.com/tadoku/ (「にほんご よむよむ文庫」公式 HP)

印刷・製本：株式会社光邦

許可なしに転載・複製することを禁じます。

乱丁・落丁はお取り替えます。

©NPO 多言語多読 2006

Printed in Japan ISBN978-4-87217-624-7

レベル別 日本語多読 ライブラリー

にほんご よむよむ文庫

レベル **1** vol.1 2

ハチの話

「ハチ」が、大学の先生のうちにやってきました。ハチと先生はいつも一緒です。ある日、先生は大学で倒れて……。

日本で一番有名な犬のお話です。

にほんご よむよむ文庫



これは、日本語を勉強している人のための「読みもの」シリーズです。5レベルに分かれていて、昔話、創作、名作、伝記などいろいろな話があります。レベルごとに言葉や文法が制限されていて、読みやすく書かれています。漢字には全てひらがなが付いていますから、辞書を引かなくてどんどん読んでみましょう。

レベル クラス 語彙数 文字数／1話

0 入門 350 ~400

1 初級前半 **350** **400~1500**

2 初級後半 500 1500~2500

3 初中級 800 2500~5000

4 中級 1300 5000~10000



日本
にほん

ヨ
よ

へ
へん

さん
さん



作=川本 かず子

挿絵=みやかわ さとこ

監修= NPO 多言語多読

(財)NPO法人日本語多読研究会)

にほんご よむよむ文庫 レベル1

じょん にほん
ジョンさん日本へ

作(さく) : 川本 かず子 (かわもと かずこ)

挿絵(さしえ) : みやかわ さとこ

監修(かんしゅう): NPO 多言語多読 (たげんご たどく)

(旧 NPO 法人日本語多読研究会)

いち
これは誰の本？

いま、ジョンさんは飛行機の中です。

ジョンさんは、今年の四月から、

日本の学校で勉強します。



ジョンさんは、

かばんから漫画の本を出しました。

隣の女の人も、

かばんから漫画の本を出しました。

ジョンさんと女の人は言いました。

ジョン「あっ」

女の人「あっ」

ジョン
女の人
「同じ本！」



「ジョンさんが言いました。」

「じゃ、おもしろいですね」

「女の人も言いました。」

「ええ、おもしろいですね。」

「私も大好きです」

「女の人が聞きました。」

「仕事ですか?」

「いいえ。四月から、東京で日本語を勉強します」

「東京ですか? 私の家も東京ですよ」



「だれかが言いました。」

「あっ、富士山だー!」

「わあ、きれい」

「女の人は、窓から外を見ました。」

「そして、ジョンさんに言いました。」

「富士山ですよー!」

「こちらの席へどうぞ」

「ありがとうございます」

「ジョンさんは、窓から外を見ました。」

「わあ、きれいですねー!」



飛行機は日本に着きました。

二人は、漫画の本をかばんに入れました。

そして、飛行機を降りました。

「きょうなら」

「きょうなら」



女の人は電車で家に帰ります。

電車の中で、

かばんから漫画の本を出しました。

「あれ？ 手紙？」

……あっ、これ、あの人の……。

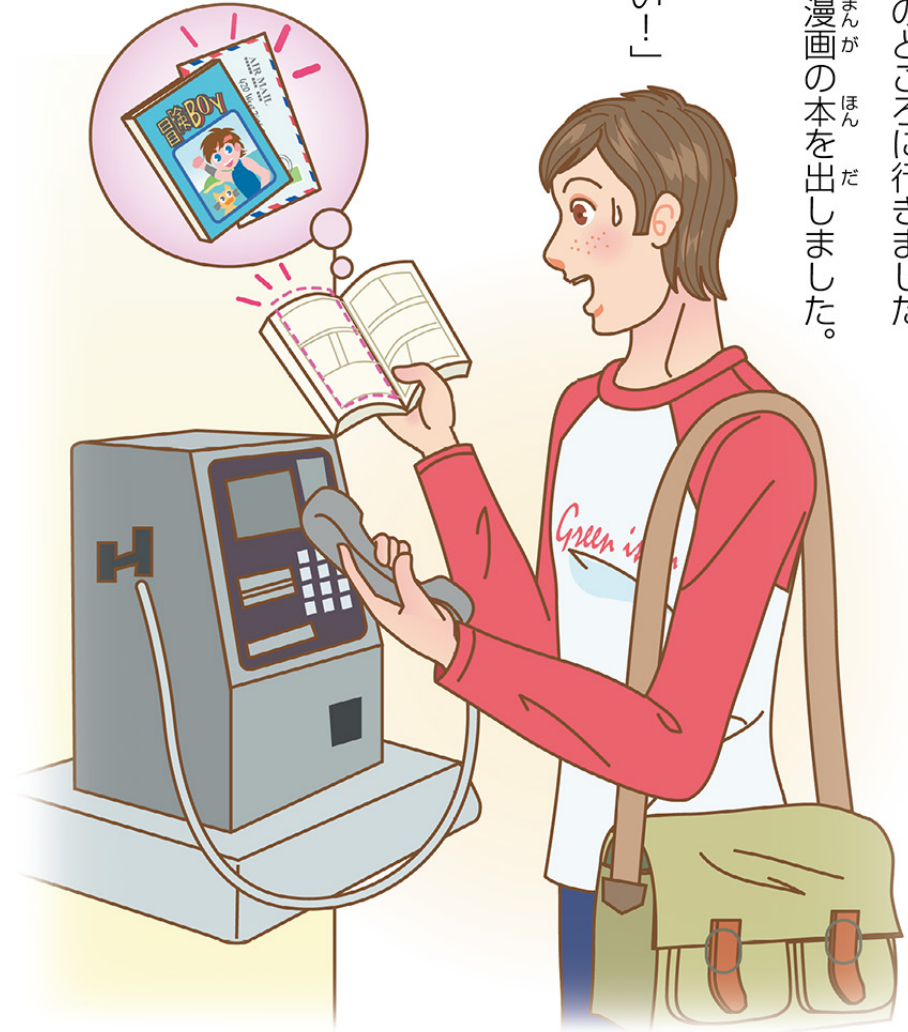
これは、あの人の漫画だ！」



ジョンさんは、電話のところに行きました。

そして、かばんから漫画の本を出しました。

「あれ？ 手紙がない！」



二 今日は何月何日何曜日？

今日は、十月十一日、木曜日です。

ジヨンは、ゆきさんと歌舞伎を見ます。

二人は、三か月前、

飛行機の中で会いました。



ジヨンは、

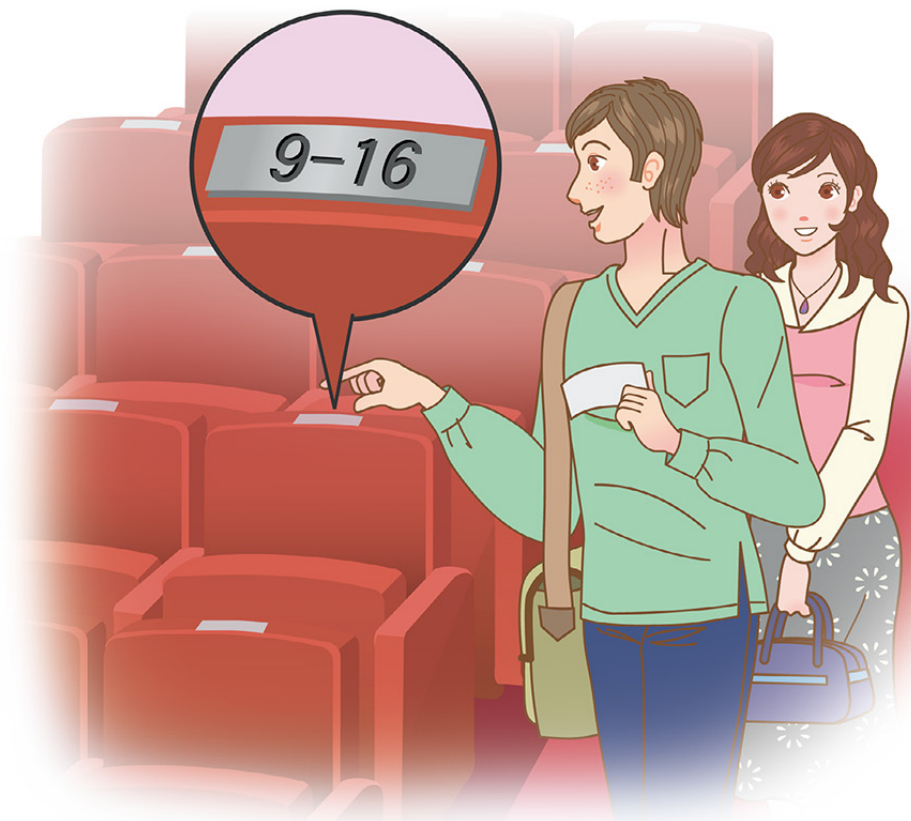
銀座駅でゆきさんと会いました。



二人は、歌舞伎座に着きました。



ジョンさんは、
入り口でチケットを二枚出しました。



ゆきさんが聞きました。

「私たちの席は、」

どこですか？」

ジョンさんが言いました。

「『九』の十五、十六……」

あ、同じですよ」

二人は席に座りました。

歌舞伎は四時からです。

ジョンさんが言いました。

「今、まだ三時半ですから、」

コーヒーを飲みましょうか」

二人はロビーでコーヒーを飲みました。

ブー

「四時五分前です。」

ゆきさん、席に行きましよう」



「九」の十五、十六……あれ？」
ふたり、
二人の席に、

おじいさんとおばあさんがいます。

ジヨンさんは、おじいさんに言いました。

「あ、う、う、う、」

「九」の十五、十六ですね。

私たちの席ですけど……」

おじいさんは言いました。

「九」の十五、十六は、

私たちの席ですよ」

ジヨンさんはチケットを見ました。

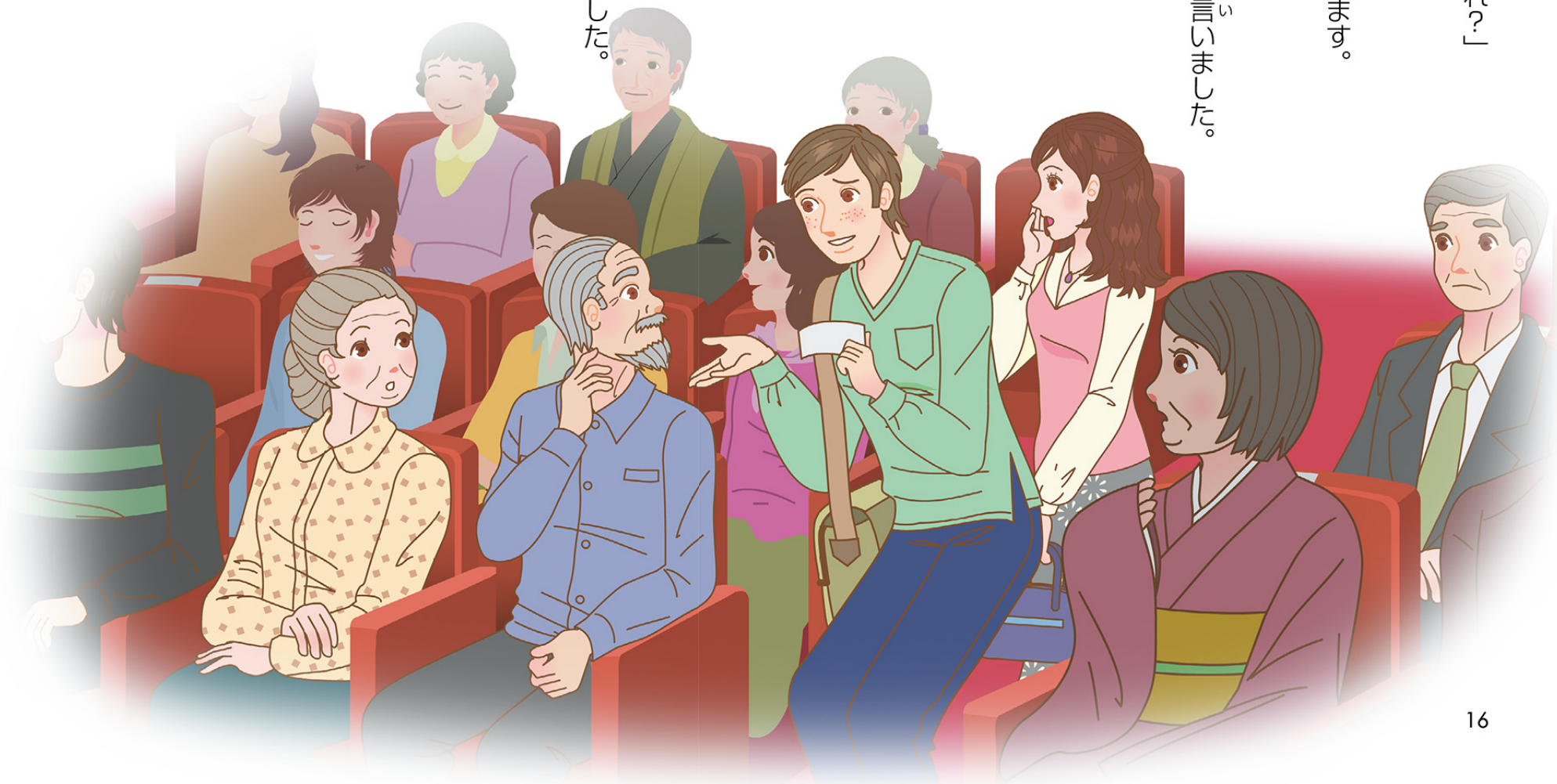
そして、言いました。

「え？ 私たちも

「九」の十五、十六です」

ゆき「え？」

おじいさん 「え？」
おばあさん



歌舞伎座の人が来ました。

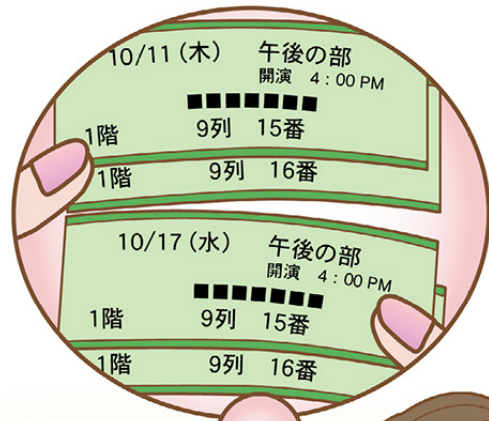
その人は、四人のチケットを見ました。

「『九』の十五、十六……同じですね」

歌舞伎座の人は、

またチケットを見ました。

歌舞伎座の人「あっ！」



歌舞伎座の人は、少し笑いました。

そして、ジョンさんに聞きました。

歌舞伎座の人「今日は、何月何日何曜日ですか？」

ジョン「十月十一日、木曜日です」

歌舞伎座の人「そうですね。このチケットは？」

ジョン「十月十七日、水曜日……。あっ！……ごめんなさい」

ゆきさんは、小さな声で笑いました。



ブ
ー
ー
歌舞伎が始まります。

二人は、
ジ
ョ
ン
さん
と
ゆ
き
さん
は、
歌
舞
伎
座
を
出
ま
し
た。
歌
舞
伎
座
の
前
で
大
き
な
声
で
笑
い
ま
し
た。

<監修者紹介>

NPO 多言語多読 (旧 NPO 法人日本語多読研究会)

「多言語多読」は、外国語を身につけたい人や、それを支援する人たちに「多読」を提案し、応援する NPO です。

2002年、日本語学習者のための「読みもの」を作ることを目的に、日本語教師が集まって日本語多読研究会を作りました。2006年にNPO法人化。2012年に「NPO多言語多読」と名称を変更し、多読の普及、実践、研究、日本語の「レベル別読みもの」の開発をしています。http://www.nihongo-yomu.jp

レベル別日本語多読ライブラリー (にほんご よむよむ文庫)

[レベル1] vol.1

ジョンさん日本へ

2006年 10月 10日 初版 第1刷 発行

2015年 3月 10日 初版 第5刷 発行

作：川本 かず子 (多言語多読会員・日本語教師)

作画：みやかわ さとこ

監修：NPO 多言語多読

ナレーション：篠原 明美 / 山中 一徳

録音・編集：スタジオ グラッド

デザイン・DTP：有限会社トライアングル

発行人：天谷 修平

発行：株式会社アスク出版

〒162-8558 東京都新宿区下宮比町 2-6

TEL.03-3267-6864 FAX.03-3267-6867

http://www.ask-books.com

http://www.ask-books.com/tadoku/ (「にほんご よむよむ文庫」公式HP)

印刷・製本：株式会社光邦

許可なしに転載・複製することを禁じます。

乱丁・落丁はお取り替えます。

©NPO 多言語多読 2006

Printed in Japan ISBN978-4-87217-624-7

レベル別 日本語多読 ライブラリー

にほんご よむよむ文庫

レベル **1** vol.1 **3**

ジヨンスン日本へ

ジヨンスンは、日本へ日本語を勉強しに来ました。いつも失敗ばかりしているジヨンスン。初めての日本で、どんな失敗やおもしろい体験をしましょう。

にほんご よむよむ文庫



これは、日本語を勉強している人のための「読みもの」シリーズです。5レベルに分かれていて、昔話、創作、名作、伝記などいろいろな話があります。レベルごとに言葉や文法が制限されていて、読みやすく書かれています。漢字には全てひらがなが付いていますから、辞書を引かないでどんどん読んでみましょう。

レベル クラス 語彙数 文字数／1話

0 入門 350 ~400

1 初級前半 **350** **400~1500**

2 初級後半 500 1500~2500

3 初中級 800 2500~5000

4 中級 1300 5000~10000



浦島
ウシマ

太郎
タロウ

再話 = 栗野 真紀子

挿絵 = 山中 桃子

監修 = NPO 多言語多読

(財団法人日本語多読研究会)

にほんご よむよむ文庫 レベル 1

うらしま た ろう
浦島太郎

再話(さいわ) : 栗野 真紀子 (あわの まきこ)
挿絵(さしえ) : 山中 桃子 (やまなか まもこ)
監修(かんしゅう): NPO 多言語多読 (たげんご たどく)
(旧 NPO 法人日本語多読研究会)

「浦島太郎」は、日本の古い話です。

ここは、海の近くです。

太郎とお母さんのうちがあります。

太郎は、毎日、海へ行きます。

そして、魚をとります。





子どもたちは、棒で亀をたたきます。
「痛い！ 痛い！」
亀は泣きました。
太郎は、子どもたちに言いました。
「お金をあげましょう。」
私に、この亀をください
「本当？ いいよ」
子どもたちは、亀を太郎にあげました。



今日も、太郎は海へ行きました。
海に、子どもがたくさんいます。
子どもたちが、
棒で何かをたたきました。
亀です。



「どうもありがとうございました」
亀は言いました。
そして、海に帰りました。



それから一週間。
太郎は、今日も海へ行きます。
いい天気です。
太郎は、今日も魚をとります。
そこに亀が来ました。
亀が言いました。
「あのときは、どうもありがとうございました。
海の中に行きましよう。
私と一緒に行きましよう。
さあ、どうぞ」
太郎は、亀に乘りました。

かめ うみ なか はい
亀は海の中に入りました。

きれいな魚がたくさんいます。
「うわあ、海の中はきれいだなあ」



かめ たろう おお
亀と太郎は、大きい城の前に来ました。

「ここは竜宮城ですよ」

かめ い
亀が言いました。

りゅうぐうじょう
竜宮城はとてもきれいです。

たろう
太郎は、

かめ いしよ りゅうぐうじょう なか
亀と一緒に竜宮城の中へ

はい
入りました。

そこには、

とてもきれいな女の人がいました。

たろう かめ き
太郎は、亀に聞きました。

「あのきれいな女の人は、誰ですか」

おとひめ
「乙姫さまですよ」

かめ こた
亀は答えました。

「あなたが太郎さんですね。」

「さあ、こちらへどうぞ」

おとひめ
乙姫さまは太郎に言いました。





竜宮城には、おいしい食べ物やお酒がたくさんあります。

太郎は、毎日、乙姫さまと遊びました。

そして、おいしい食べ物をたくさん食べました。

おいしいお酒もたくさん飲みました。

毎日、とても楽しいです。

一週間、二週間……、一か月、二か月……、一年、二年……。



ある日、乙姫さまが言いました。

「太郎さん、元気がありませんね。」

あまり食べませんね。どうしましたか」

太郎は言いました。

「乙姫さま、私は、もう、

うちへ帰ります」

「えっ、どうしてですか」

乙姫さまは言いました。

「うちに、母が一人でいますから」

太郎は言いました。

「そうですか。わかりました……。」

じゃあ、これをどうぞ」

乙姫さまは、

太郎に箱をあげました。

それは、とてもきれいな箱でした。

「ありがとうございます」

太郎は箱をもらいました。

「乙姫さま、ありがとうございました。さようなら」
「さようなら」

太郎は亀に乘りました。



太郎のうちの近くです。

太郎は亀から降りました。

そして、言いました。

「亀さん、どうもありがとうございました。」

「さようなら」

「さようなら」

亀は竜宮城に帰りました。



太郎は、うちの方へ行きました。

でも、うちがありません。

「あれ？ 私のうちがありません」

太郎は、近くの人に聞きました。

「私のうちがありません。私の母もいません。私のうちはどこですか。」

母はどこですか」

その人は言いました。

「わかりません。百年前、ここにうちがありました。でも、今はありません」

太郎は言いました。

「えっ、百年前？ ……私は百年も竜宮城に…？」



太郎には、もう、うちがありません。お母さんもいません。
太郎には、もう、何もありません……。

あつ、あります。一つだけあります。箱があります。

あのきれいな箱です。乙姫さまからもらいました。

—— 箱の中は何でしょう？ ——

太郎は箱を開けました。

「わーっ！」

煙です。

中から白い煙が出ました。

太郎は、もう、若くありません。白い髪のおじいさんです。



浦島太郎

文部省唱歌



 む かし む かし う ら し ま は

 た す け た か め に つ れ ら れ て

 り ゅ う ぐ う じ ょ う へ き て み れ ば

 え ー に も か け な い う つ く し さ

1 むかしむかし 浦島は
 たすけた亀に 連れられて
 竜宮城へ 来てみれば
 絵にもかけない 美しさ

2 乙姫様の ごちそうに
 鯛や比目魚の 舞踊
 ただ珍しく おもしろく
 月日の経つも 夢のうち

3 遊びにあきて 気がついて
 お暇乞も そこそこに
 帰る途中の 楽しみは
 土産にもらった 玉手箱

4 帰ってみれば ことは如何に
 元居た家も 村もなく
 路に行きあう 人々は
 顔も知らない 者ばかり

5 心細さに 蓋とれば
 あけて悔しき 玉手箱
 中からぱっと 白煙
 たちまち太郎は お爺さん



それから、太郎はどこへ行きましたか。
 それは、だれもわかりません。

<監修者紹介>

NPO 多言語多読 (旧 NPO 法人日本語多読研究会)

「多言語多読」は、外国語を身につけたい人や、それを支援する人たちに「多読」を提案し、応援する NPO です。

2002 年、日本語学習者のための「読みもの」を作ることを目的に、日本語教師が集まって日本語多読研究会を作りました。2006 年に NPO 法人化。2012 年に「NPO 多言語多読」と名称を変更し、多読の普及、実践、研究、日本語の「レベル別読みもの」の開発をしています。http://www.nihongo-yomu.jp

レベル別日本語多読ライブラリー (にほんご よむよむ文庫)

[レベル 1] vol.1

浦島太郎

2006 年 10 月 10 日 初版 第 1 刷 発行

2015 年 3 月 10 日 初版 第 5 刷 発行

再話：粟野 真紀子 (多言語多読会員・日本語教師)

作画：山中 桃子

監修：NPO 多言語多読

ナレーション：篠原 明美 / 山中 一徳

録音・編集：スタジオ グラッド

デザイン・DTP：有限会社トライアングル

発行人：天谷 修平

発行：株式会社アスク出版

〒162-8558 東京都新宿区下宮比町 2-6

TEL.03-3267-6864 FAX.03-3267-6867

http://www.ask-books.com

http://www.ask-books.com/tadoku/ (「にほんご よむよむ文庫」公式 HP)

印刷・製本：株式会社光邦

許可なしに転載・複製することを禁じます。

乱丁・落丁はお取り替えいたします。

©NPO 多言語多読 2006

Printed in Japan ISBN978-4-87217-624-7

レベル別 日本語多読 ライブラリー

にほんご よむよむ文庫

レベル **1** vol.1 4

浦島 太郎

太郎は、ある日、亀を助けます。お礼に、亀は太郎を海の中の竜宮城に連れていきます。太郎は、そこで楽しい時間を過ごしますが……。

とても有名な昔話です。

にほんご よむよむ文庫



これは、日本語を勉強している人のための「読みもの」シリーズです。5レベルに分かれていて、昔話、創作、名作、伝記などいろいろな話があります。レベルごとに言葉や文法が制限されていて、読みやすく書かれています。漢字には全てひらがなが付いていますから、辞書を引かないでどんどん読んでみましょう。

レベル クラス 語彙数 文字数/1話

0 入門 350 ~400

1 初級前半 350 400~1500

2 初級後半 500 1500~2500

3 初中級 800 2500~5000

4 中級 1300 5000~10000



笑
わら

い
話
はなし



簡約 = 山崎 俱子

挿絵 = 霧生 さなえ

監修 = NPO 多言語多読

(旧NPO法人日本語多読研究会)

わら ばなし
笑い話

- 「星をとる」 (原典『醒酔笑』)
「だれが早い？」 (原典『鯛の味噌津』)
「お金がありません」 (原典『きのふはけふの物語』)
「店は大変？」 (原典『きのふはけふの物語』)

簡約 (かんやく) : 山崎 俱子 (やまざき ともこ)
挿絵 (さしえ) : 霧生 さなえ (きりう さなえ)
監修 (かんしゅう) : NPO 多言語多読 (たげんご たどく)
(旧 NPO 法人日本語多読研究会)

星をとる

夜です。

庭に子どもがいます。

空に星があります。

たくさんあります。

とてもきれいです。

子どもは空を見ます。

「ふわあ、きれいな星！」



子どもは星がほしくです。

星がとりたいです。

棒でとります。

長い棒です。

「星がほしく！」

星がとりたいー！」





お父さんが来ます。

そして、言います。

「だめだめ。その棒は長くない。短いよ。」

星は遠いよ。だから、だめだめ。そこはだめ。

屋根の上がいいよ」



だれが早い？

「うぐいす」は、春の鳥です。

春に鳴きます。

うぐいすの声は、「ホーホケキヨ」です。

とてもきれいな声です。

みんな、早くうぐいすの声が聞きたいです。

今年も春が来ました。



一郎の家に、
二郎、三郎、四郎、五郎が来ました。
五人は一緒にお酒を飲みます。

一郎が言いました。

「私は今朝、うぐいすの声を聞きましたよ。」

今年は、私が一番早い！」

二郎が言いました。

「いいえ。それは早くないですよ。私は

昨日の朝、聞きましたよ。私が一番早い！」

次に、三郎が言いました。

「いいえ。それは早くないですよ。私は

一週間前に聞きましたよ。私が一番早い！」

四郎が言いました。

「それは早くない。私は一か月前に

聞きました。私が一番早い！」

五郎が言いました。

「みんな、早くない、早くない。遅い、遅い。

私は、去年の春に聞きましたよ」





まいにち
毎日、たくさんの方が
あきおのふねの
秋夫の舟に乗ります。
そして、
あきおのかねをもらいます。
これがあきおの仕事です。



あきおのかね
お金がありません
これは、あきおと春子の
うちです。
うちの近くに川があります。
そこにあきおのふね
あきおのふねの
秋夫の舟です。



春子はうちの仕事をします。

毎日、掃除をします。洗濯をします。

ご飯を作ります。

秋夫と春子は、二十年前に結婚しました。

春子は二十年前、きれいでした。

でも、今は若くないです。

もう、きれいじゃありません。

秋夫はもう、

春子が好きじゃありません。



ある日、秋夫は春子に言いました。

「あなたは、もう、きれいじゃありません。

私はもう、あなたが好きじゃありません」

春子は言いました。

「わかりました。

では、私はこのうちを出ます。

私の母はまだ元気で。

私は母のうちへ行きます」

春子は、きれいな着物を着ました。
化粧もしました。

今は、とてもきれいです。

春子は言いました。

「じゃあ、さようなら」

秋夫は春子を見ました。

そして、小さい声で言いました。

「春子はとてもきれいだー」

でも、春子は、今からお母さんの
うちへ行きます。

もう、このうちには帰りません。

—— 私が悪かった ——

秋夫は言いました。

「私も川まで一緒に行きます」

二人は川まで行きました。

いつも、秋夫の舟で、春子のお母さんのうちへ行きます。

春子は秋夫の舟に乗りました。

秋夫は春子に言いました。

「お金をください」



春子はるこが言いいました。

「え？ 私わたしは、お金かねがありません？」

秋夫あきおが言いいました。

「お金かねがありません？」

そうですか。それではだめです。帰かえりますよ」

秋夫あきおは、春子はること一緒いっしょにうちへ帰かえりました。

秋夫あきおはとてもうれいしです。



店は大変？

大きい店があります。

たくさんの方が店で働きます。

太郎も店で働きます。

店はとても忙しいです。

太郎は、毎日、毎日、たくさん働きます。

朝から夜まで働きます。

とても疲れます。

でも、お金はあまりもらいません。少しだけです。



太郎は小さい声で言いました。

「楽しくないなあ。」

もう働きたくないなあ」

太郎は、夜、店で寝ます。

他の人たちと一緒に寝ます。

太郎は、うちで、一人で休みたいです。

一人で寝たいです。

次の日、太郎は店の人に言いました。

「私は病気です。うちに帰ります！」

今、太郎はうちにいます。

うちは山の近くにありますが。

とても静かです。

太郎は、夜、一人で寝ました。

次の日。

太郎は起きました。

もう、昼です。

太郎は言いました。

「お茶が飲みたいなあ」

でも、お茶がありません。

「ご飯も食べたいなあ」

でも、ご飯がありません。

何もありません。

太郎は川へ行きます。

魚をとります。

太郎は山へ行きます。

果物をとります。

そして、うちへ帰ります。

料理をします。



料理は大変です。一時間……、二時間……。

「いただきますー！」

次の日から、太郎は毎日、
川へ行きます。
山へ行きます。
料理をします。
掃除もします。
洗濯もします。



とても大変です。

楽しくないです！

太郎は言います。

「店には、いつも水があります。お茶もあります。ご飯もあります。

だから、私は川へ行きません。山へも行きません。

料理もしません。掃除もしません。

私は、店がいいです。私は、また店で働きたい！」

<監修者紹介>

NPO **多言語多読** (旧 NPO 法人日本語多読研究会)

「多言語多読」は、外国語を身につけたい人や、それを支援する人たちに「多読」を提案し、応援する NPO です。

2002 年、日本語学習者のための「読みもの」を作ることを目的に、日本語教師が集まって日本語多読研究会を作りました。2006 年に NPO 法人化。2012 年に「NPO 多言語多読」と名称を変更し、多読の普及、実践、研究、日本語の「レベル別読みもの」の開発をしています。http://www.nihongo-yomu.jp

レベル別日本語多読ライブラリー (にほんご よむよむ文庫)

[レベル 1] vol.1

笑い話

2006 年 10 月 10 日 初版 第 1 刷 発行

2015 年 3 月 10 日 初版 第 5 刷 発行

簡約：山崎 俱子 (多言語多読会員・日本語教師)

作画：霧生 さなえ

監修：NPO 多言語多読

ナレーション：篠原 明美 / 山中 一徳

録音・編集：スタジオ グラッド

デザイン・DTP：有限会社トライアングル

発行人：天谷 修平

発行：株式会社アスク出版

〒162-8558 東京都新宿区下宮比町 2-6

TEL.03-3267-6864 FAX.03-3267-6867

http://www.ask-books.com

http://www.ask-books.com/tadoku/ (「にほんご よむよむ文庫」公式 HP)

印刷・製本：株式会社光邦

許可なしに転載・複製することを禁じます。

乱丁・落丁はお取り替えいたします。

©NPO 多言語多読 2006

Printed in Japan ISBN978-4-87217-624-7

レベル別 日本語多読 ライブラリー

にほんご よむよむ文庫

レベル **1** vol.1 **5**

笑話

星をとる方法は？ [星をとる]

うぐいすの声を一番早く聞いた人は？ [だれが早い？]

日本の古い面白い話を4話収録。

にほんご よむよむ文庫



これは、日本語を勉強している人のための「読みもの」シリーズです。5レベルに分かれていて、昔話、創作、名作、伝記などいろいろな話があります。レベルごとに言葉や文法が制限されていて、読みやすく書かれています。漢字には全てひらがなが付いていますから、辞書を引かないでどんどん読んでみましょう。

レベル クラス 語彙数 文字数/1話

0 入門 350 ~400

1 初級前半 **350** **400~1500**

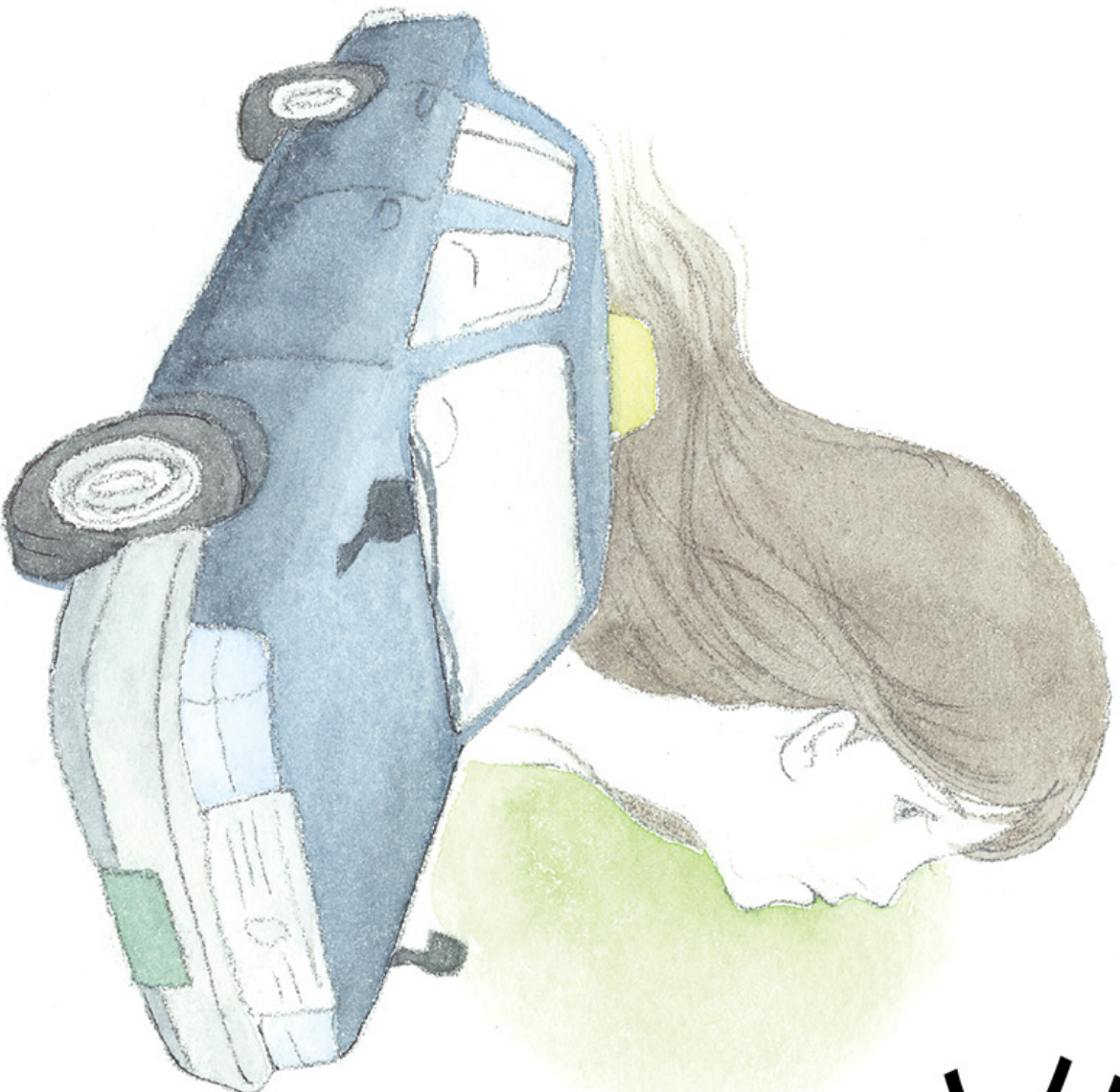
2 初級後半 500 1500~2500

3 初中級 800 2500~5000

4 中級 1300 5000~10000



た
く
し
ー



作 = 松田 緑

挿絵 = うえだ いずみ

監修 = NPO 多言語多読

(旧NPO法人日本語多読研究会)

にほんご よむよむ文庫 レベル1

たくしー

作（さく） : 松田 緑（まつだ みどり）

挿絵（さしえ） : うえだいずみ

監修（かんしゅう）: NPO 多言語多読（たげんごたどく）
（旧 NPO 法人日本語多読研究会）

木村さんは、タクシーの運転手です。

ある日の夜、木村さんのタクシーは、緑町の大きな道を走りました。
とても寒い夜でした。

緑町の交差点で、女の子が手を上げました。

木村さんのタクシーは、女の子の前に、ゆっくり止まりました。



木村さんは、タクシーのドアを開けました。
女の子は、タクシーに乗りました。

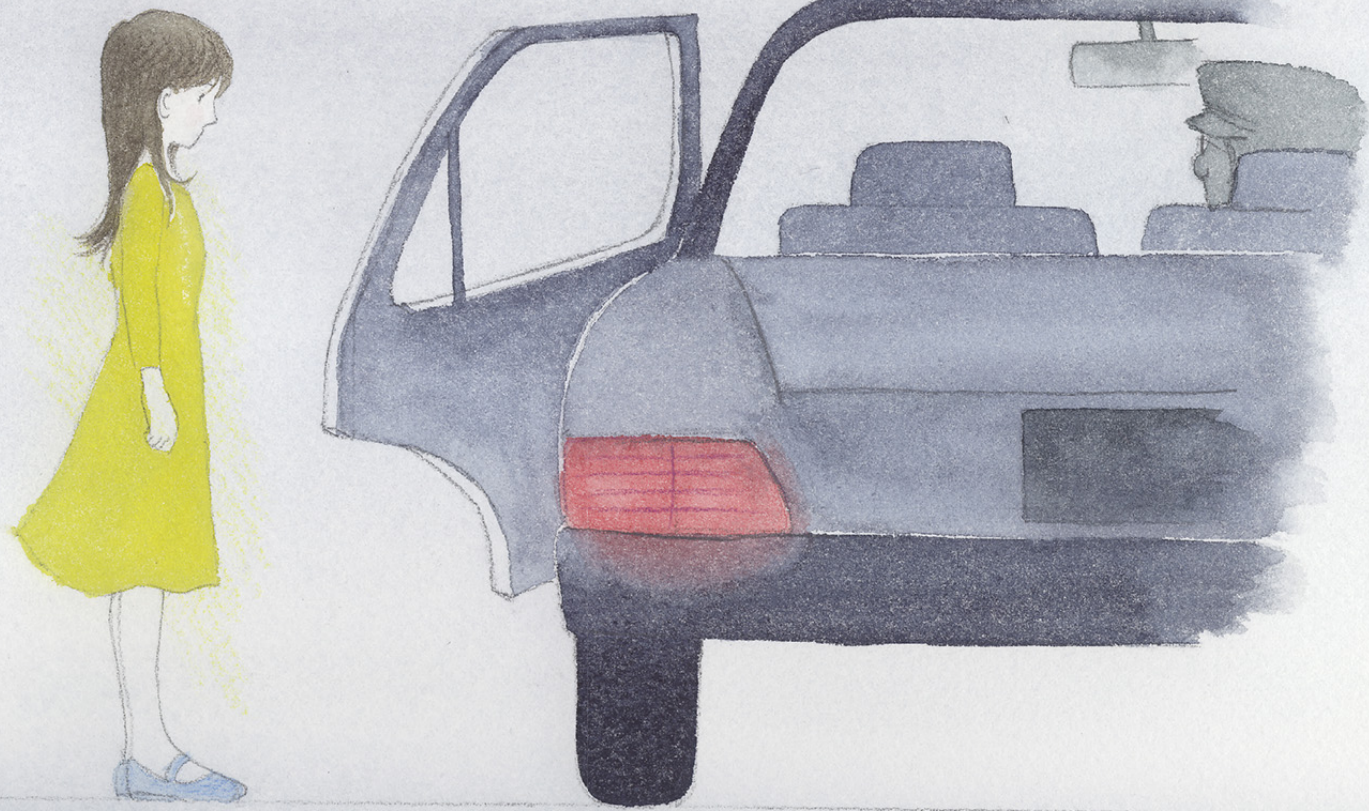
木村さんは聞きました。
「どこまで行きますか？」

女の子は答えました。

「桜公園まで、お願いします」

女の子は、十二、三歳ぐらいでした。

黄色い服のかわいい子です。



木村さんは、女の子に言いました。

「もう九時ですよ。一人ですか？」

女の子は言いました。

「少し前まで、友だちの家に行きました。自転車で、この交差点まで来ました。

でも、ここで自転車が壊れました……」

「そうですか。それは大変でしたね」



女の子は聞きました。

「桜公園まで、何分ぐらいですか？」

「十分ぐらいですよ」



たくしーは、桜公園に着きました。

公園の隣に、小さな家がありました。

女の子は言いました。

「ここが私の家です。」

すみません。今、お金がありません。

でも、家に母がいますから、母にもらいます」

木村さんは、たくしーのドアを開けました。

女の子は、家の中に入りました。



木村さんは、

車の中で五分ぐらい待ちました。

女の子もお母さんも来ません。

木村さんは、車から降りました。

家の前で、また五分待ちました。

でも、だれも来ません。

木村さんは、大きな声で言いました。
「ごめんください」

四十歳ぐらいの女の子が、家のドアを開けました。

その人は言いました。

「何ですか？」



木村さんは言いました。

「タクシー代をください」

「えっ？ タクシー代？ どうしてですか？」

「私のタクシーに、女の子が乗りました。」

そして、ここで降りました。十分ぐらい前です。

その子は、この家に入りました」

「そ、その子は、何歳ぐらいでしたか？」

「十二、三歳ぐらいでしたよ」

「髪、髪は、長かったですか？」

「はい、長い髪でした。黄色い服のかわいい女の子でしたよ」

「えっ！」

「その子が、緑町の交差点から、ここまで、私のタクシーに乗りました。タクシー代をください」

「えっ、緑町の交差点！ ……そうですか……」



お母さんは、静かな声で話しました。

「その子は、三日前に、交通事故で死にました。

緑町の交差点で……。

トラックと自転車の事故でした」

「えっ!？」

「三日前の夜、私の子どもは、

自転車で友だちの家へ行きました。

いつも七時に帰ります。

でも、その日は帰りませんでした。



九時に電話がありました。

すぐ、病院へ行きました。

でも、あの子は、もう……。



その後、

あの子の体は、家に帰りました。

そして、今、魂も帰りました。

「ありがとうございます」



木村^{きむら}さんは言^いいました。
「じゃあ、じゃあ、あの子^こは……！」

<監修者紹介>

NPO 多言語多読 (旧 NPO 法人日本語多読研究会)

「多言語多読」は、外国語を身につけたい人や、それを支援する人たちに「多読」を提案し、応援する NPO です。

2002 年、日本語学習者のための「読みもの」を作ることを目的に、日本語教師が集まって日本語多読研究会を作りました。2006 年に NPO 法人化。2012 年に「NPO 多言語多読」と名称を変更し、多読の普及、実践、研究、日本語の「レベル別読みもの」の開発をしています。http://www.nihongo-yomu.jp

レベル別日本語多読ライブラリー (にほんご よむよむ文庫)

[レベル 1] vol.2

タクシー

2007 年 6 月 1 日 初版 第 1 刷 発行

2010 年 10 月 27 日 初版 第 2 刷 発行

著者：松田 緑 (多言語多読会員・日本語教師)

作画：うえだいずみ

監修：NPO 多言語多読

ナレーション：篠原 明美 / 山中 一徳

録音・編集：スタジオ グラッド

デザイン・DTP：浅妻 健司

発行人：天谷 修平

発行：株式会社アスク出版

〒 162-8558 東京都新宿区下宮比町 2-6

TEL.03-3267-6864 FAX.03-3267-6867

http://www.ask-books.com

http://www.ask-books.com/tadoku/ (「にほんご よむよむ文庫」公式 HP)

印刷・製本：株式会社光邦

許可なしに転載・複製することを禁じます。

乱丁・落丁はお取り替えいたします。

©NPO 多言語多読 2007

Printed in Japan ISBN978-4-87217-641-4

レベル別 日本語多読 ライブラリー

にほんご よむよむ文庫

レベル **1** vol.2 **6**

タクシー

木村さんはタクシーの運転手。
ある日の夜、女の子が木村さん
のタクシーに乗りました。木村さ
んのちよつと不思議な体験！

にほんご よむよむ文庫



これは、日本語を勉強している人のための「読みもの」シリーズです。5レベルに分かれていて、昔話、創作、名作、伝記などいろいろな話があります。レベルごとに言葉や文法が制限されていて、読みやすく書かれています。漢字には全てひらがなが付いていますから、辞書を引かないでどんどん読んでみましょう。

レベル クラス 語彙数 文字数／1話

0 入門 350 ~400

1 初級前半 **350** **400~1500**

2 初級後半 500 1500~2500

3 初中級 800 2500~5000

4 中級 1300 5000~10000

Japanese Graded Readers

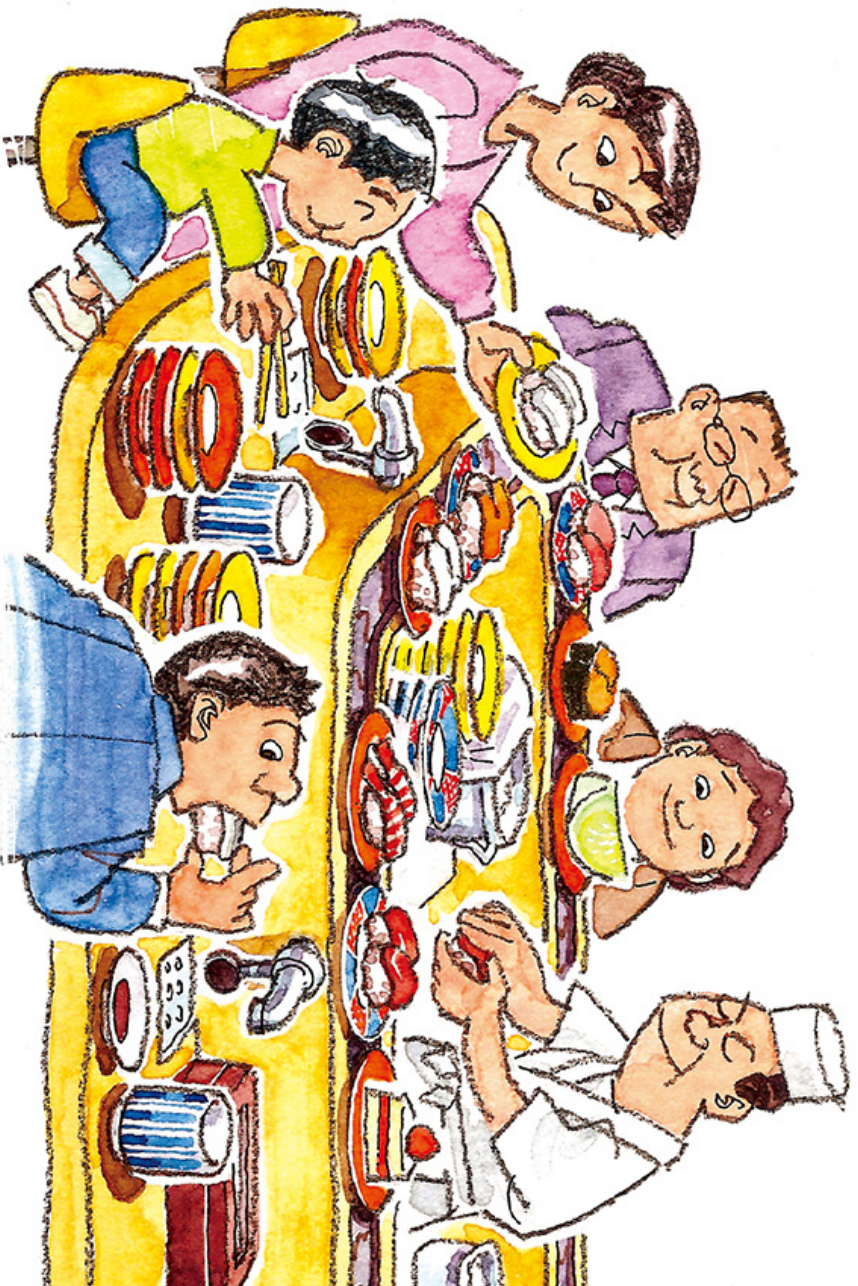
レベル別
日本語多読
ライブラリー



にほんご よむよむ文庫

レベル 1 vol.2 7

すし 寿司・すし・SUSHI



作 = 栗野 真紀子

挿絵 = 水野 あきら

監修 = NPO 多言語多読

(旧NPO法人日本語多読研究会)

寿司・すし・SUSHI

作（さく） : 栗野 真紀子（あわの まきこ）

挿絵（さしえ） : 水野 あきら（みずの あきら）

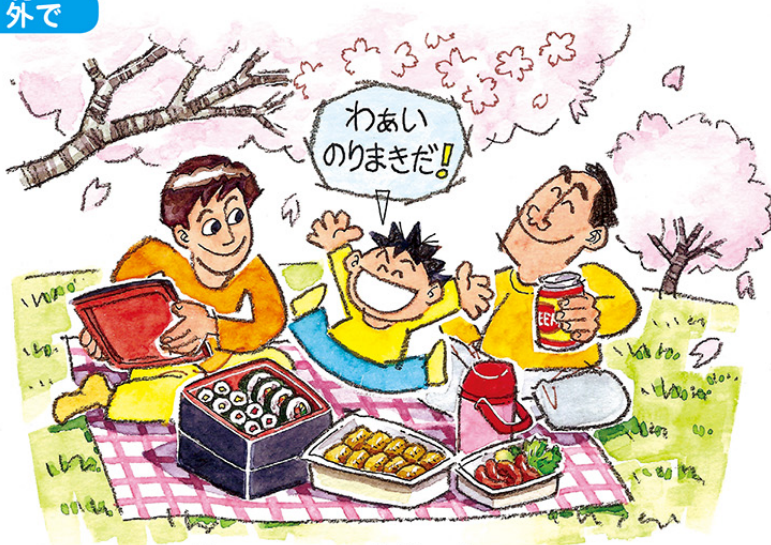
監修（かんしゅう）: NPO 多言語多読（たげんご たどく）
（旧 NPO 法人日本語多読研究会）

すし屋で



ときどき、すし屋で食べます。

そと外で



そと外で、すしの弁当を食べます。

日本人は、
すしが大好きです。
いろいろなところで、
すしを食べます。

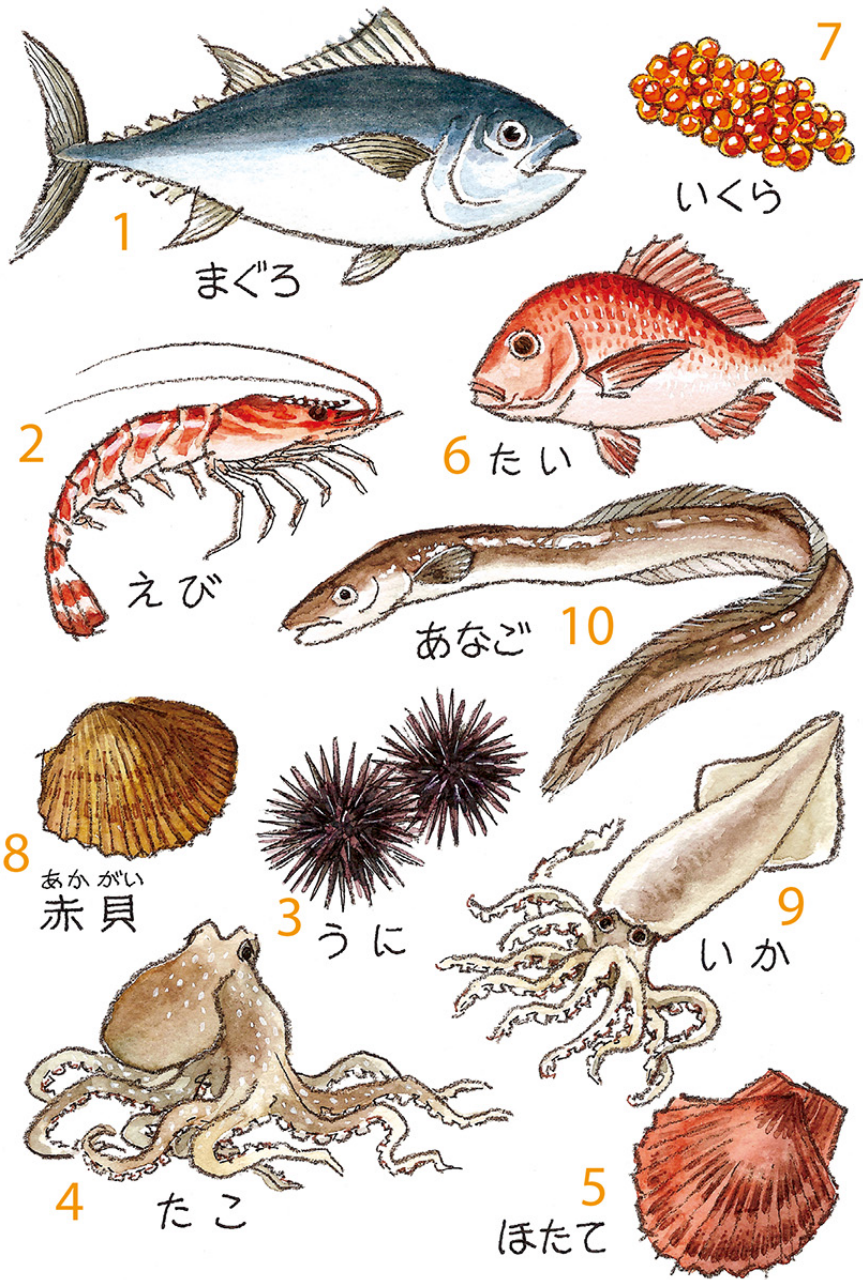
うちで



うちで、みんなで食べます。



おすし大好き!



なにがなに？
いぬおまじい

このすしは、

「にぎり寿司」です。

ご飯と、

魚や貝で作ります。

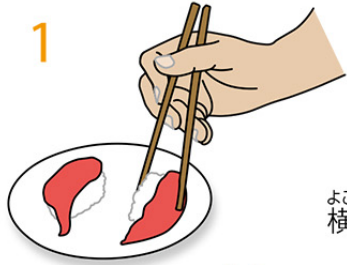
どの魚や貝ですか？

わかりますか？



すしの食べ方

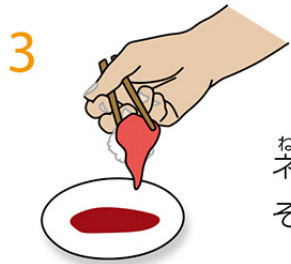
箸で



すしを横にします。



しょう油は、ネタ（魚や貝）につけます。



ネタを上に乗せます。そして、食べます。

手で



魚の漢字

たこ 鯛
まぐろ さけ

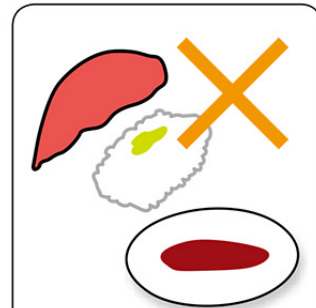
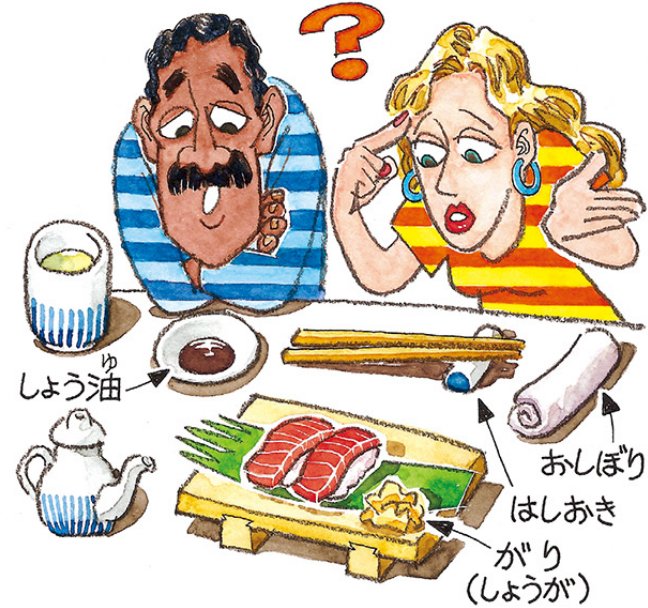


すし屋の湯飲み

これでお茶を飲みます。この漢字は、みんな魚の名前です。



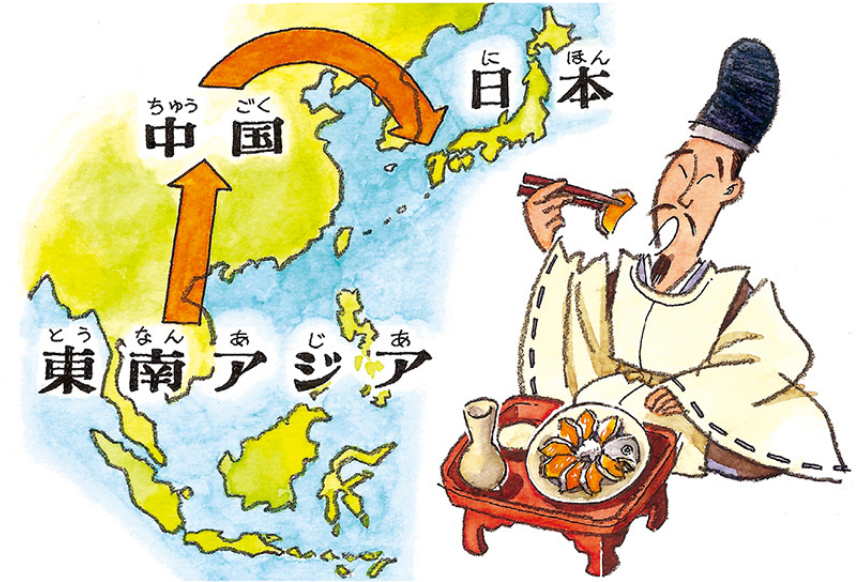
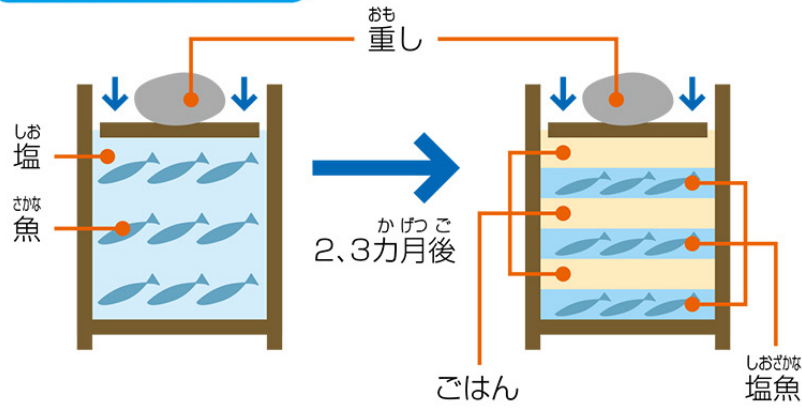
おすしを食べましょう！



わさびが嫌いな人は、「さび抜きでお願いします」といましょう。

皿に、しょう油を少し入れます。手で食べますか？ 箸で食べますか？ どちらでもいいです。上手に食べましょう。

いちばんふる つく かた
一番古いすしの作り方



「すし」はいつから?

すしは、千二百年前、

東南アジアから日本へ来ました。

東南アジアの人たちは、川で魚を

とりました。大切な食べ物です。

ですから、その魚を塩の中に入れました。

二、三カ月後で、

その魚を、ご飯の中に入れました。

一年ぐら以後で、魚だけを食べました。

ご飯は、食べませんでした。

これが、一番古い「すし」です。

その「すし」が、東南アジアから中国、

中国から日本へ来ました。



ふな
鰻ずし
しがけん
(滋賀県)



しがけん いま
滋賀県には今も、
この一番古いすしがあります。
ふな
「鰻ずし」です。



日本の「すし」

江戸時代（一六〇三〜一八六八年）に

日本人は、新しい「すし」を作りました。

ご飯に「酢」を入れました。

そして、ご飯も魚と一緒に食べました。

これが、日本の「すし」です。

それから、「押し寿司」や

「にぎり寿司」、「いなり寿司」、

「ちらし寿司」が生まれました。



ちらし
寿司



押し
寿司



いなり
寿司



酢
Vinegar
醋
식초

にぎりずしの屋台



にぎりずしは
とても
大きかった。



江戸（今の東京）には、
道に「にぎり寿司」や「いなり寿司」の
屋台がありました。

いなりずしの
屋台



すし
売り



「寿司」の5大産地

さけ たけのこ い
鮭と 筍の飯ずし
あおもりけん
(青森県)



ささ
笹ずし
ながのけん
(長野県)



はた はた
八咫八咫ずし
あきたけん
(秋田県)



えどまえぎ
江戸前握りずし
とうきょうと
(東京都)



さんむふとま
山武太巻きずし
ちばけん
(千葉県)



かぶら
カブらずし
いしがわけん
(石川県)



ふな
鮒ずし
しがけん
(滋賀県)

さば ぼつこら
鯖ずし <バッテラ>
おおさかふ
(大阪府)



ます
鱒ずし
とやまけん
(富山県)



さけ
酒ずし
かごしまけん
(鹿児島県)



なつ
夏かんずし
えひめけん
(愛媛県)



かき は
柿の葉ずし
ならけん
(奈良県)



日本には、いろいろな

「ずし」があります。

これも、全部「ずし」です。

<写真提供>青森県農林水産部総合販売戦略課、山武市経済環境部商工観光課、飯山市観光協会、福野観光協会、竜王ふなずし工房、財団法人えひめ産業振興財団産業情報センター、鹿児島市観光企画課

さら いろ
皿の色で
ねだん
値段が
かわります。

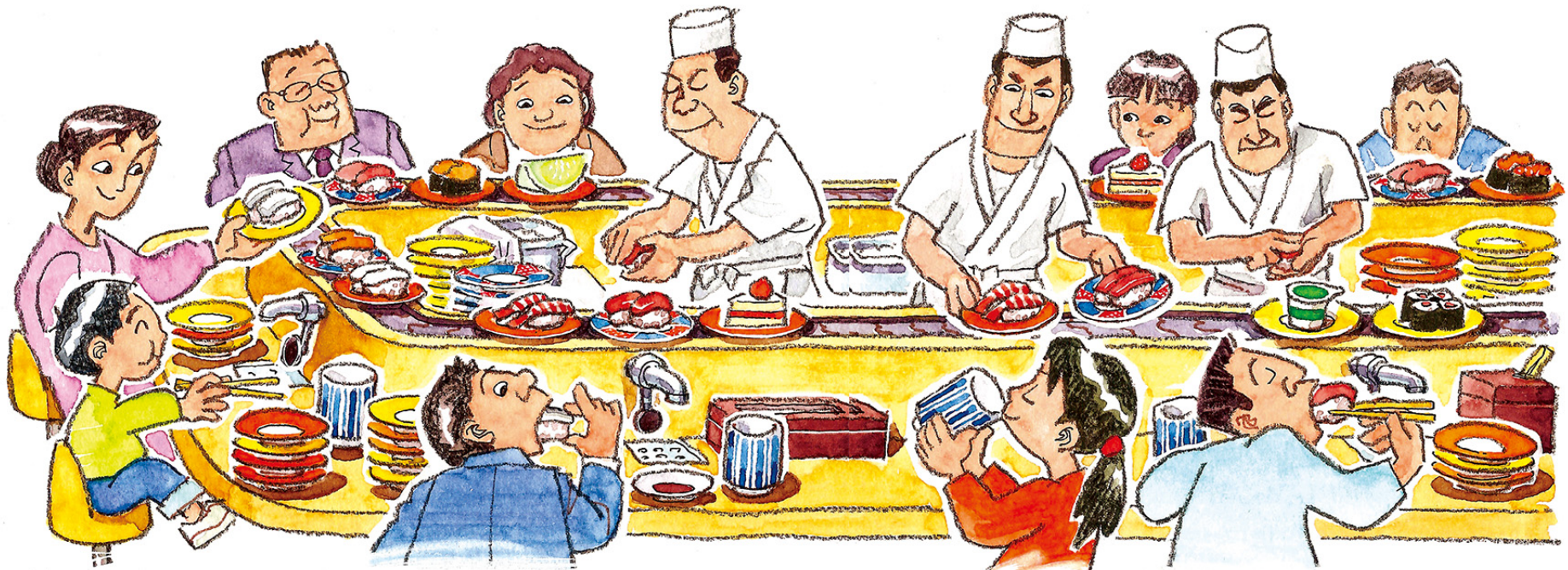


ここでお湯を
い
入れます。
ティーバッグで
お茶を
つくります。

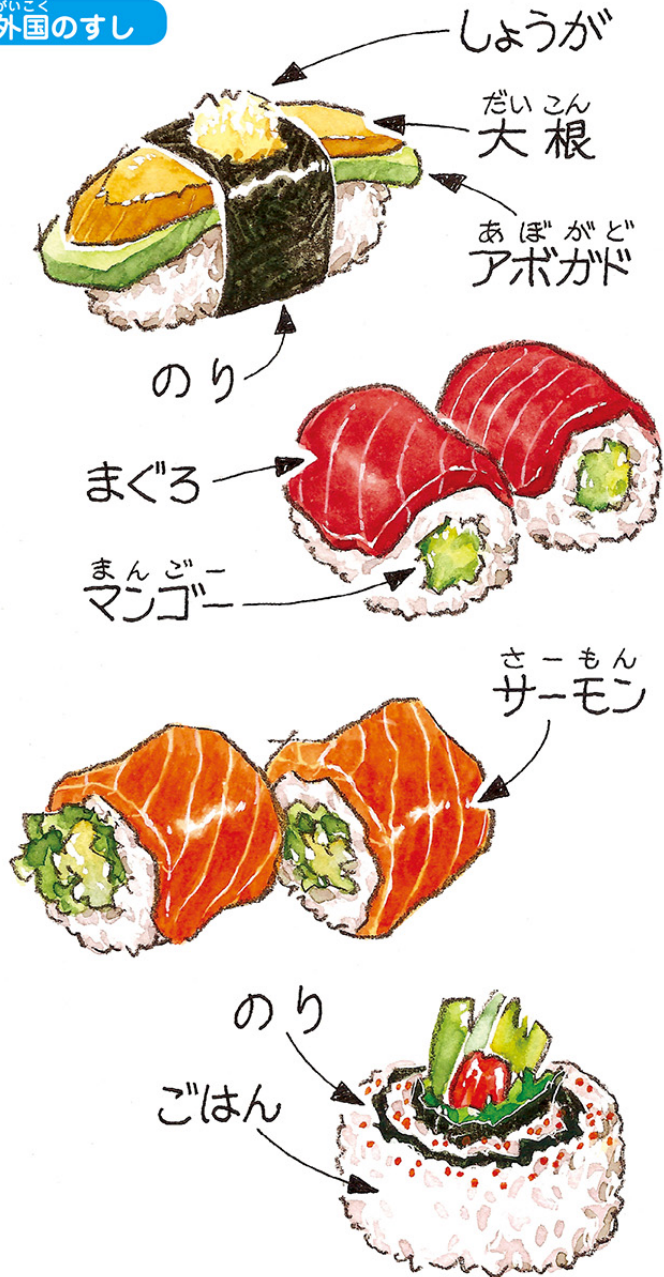
回転寿司のお店は、安いです。
そして、面白いです。
回転寿司は、五十年ぐらい前に、
大阪で生まれました。
いろいろなすしが、店の中を回ります。
果物やデザート（お菓子）も回ります。
客は、好きなすしの皿を取ります。
一皿、百円から五百円ぐらいです。



「回転寿司」へ行きましょう！



がいにく 外国のすし



たいわん や
台湾のすし屋
<撮影> Lee Longbo



いぎりす や えき なか
イギリスのすし屋 (駅の中)
<撮影> KAZ



「すし」から「SUSHI」へ

すしは、^{からだ}体にいいです。そして、おいしいです。
 ですから、^{がいにく}外国にも、^{ひと}すしが好きな人がたくさんいます。
 すし屋^やも、たくさんあります。

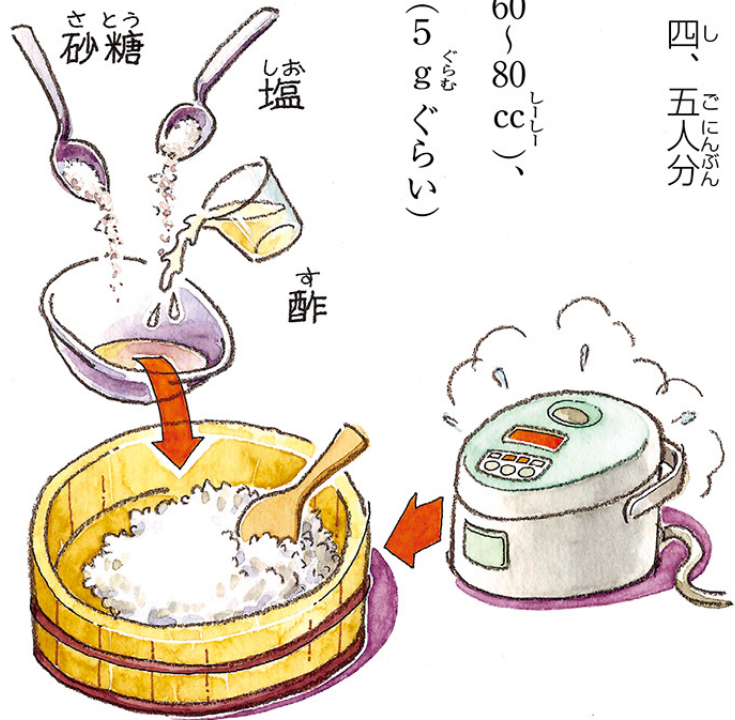


おすしを作りましょう！

一、すし飯（「すし」のご飯） 四、五人分

◆用意するもの

米（カップ3杯）、酢（60〜80cc）、
砂糖（20〜30g）、塩（5gぐらい）



- ① ご飯を炊きます。
- ② ご飯に、酢、砂糖、塩を入れます。

二、手巻き寿司

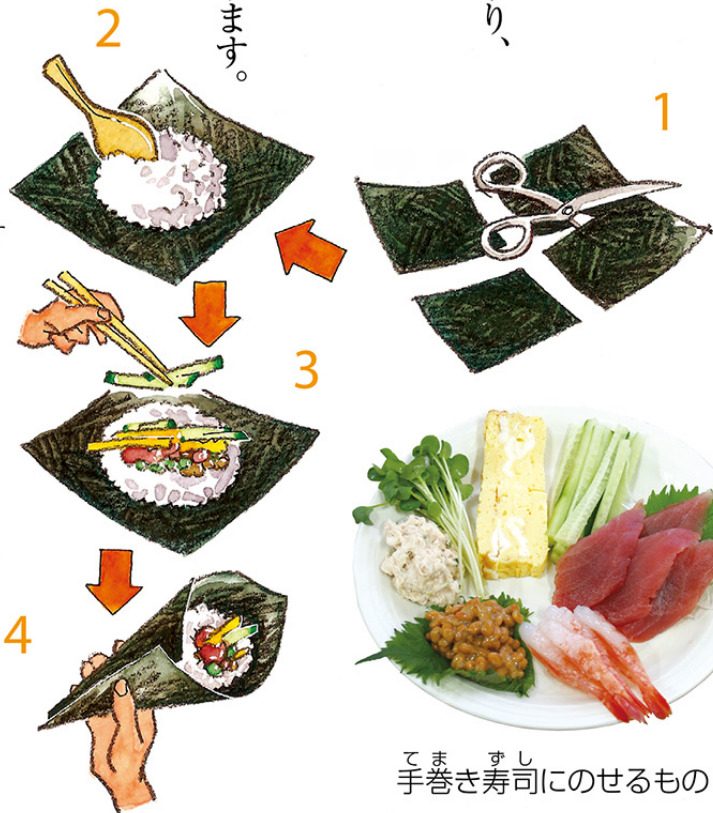
◆用意するもの

すし飯、のり、きゅうり、
魚、卵 など



てま すし
手巻き寿司にのせるもの

- ① のり一枚を四つに切ります。
- ② のりの上に、すし飯をのせます。
- ③ すし飯の上に、魚やきゅうりなど、好きなものをのせます。
- ④ のりを巻きます。



◆用意するもの

すのこ、のり、すし飯、魚、卵、
ほうれん草、きゅうり など

①すのこの上に、のりをのせます。

②のりの上に、すし飯をのせます。

③すし飯の上に魚、卵、きゅうり、

ほうれん草など、好きなものをのせます。

④すのこを巻きます。



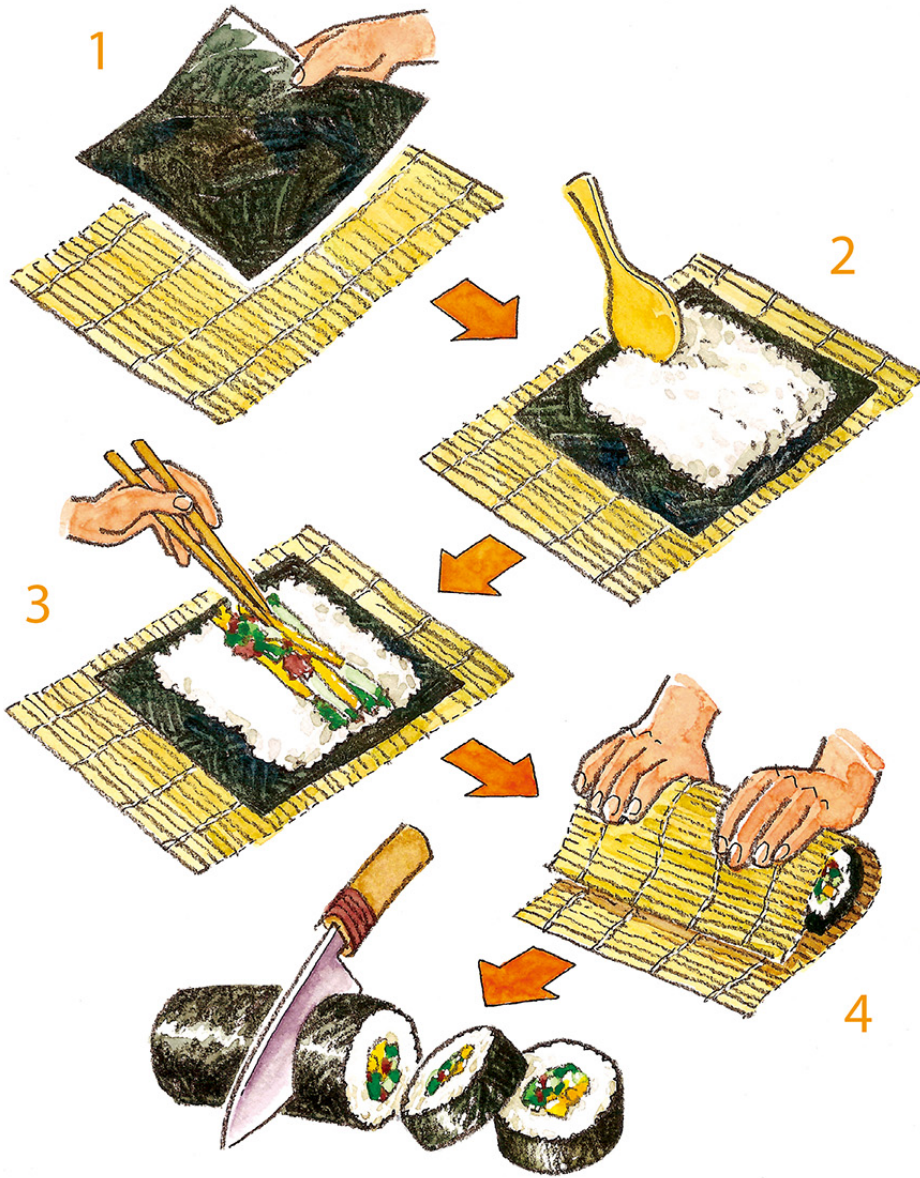
●巻くもの

A・納豆 B・梅干

C・きゅうり D・鮭

E・しいたけ、卵、きゅうり、かんぴょう

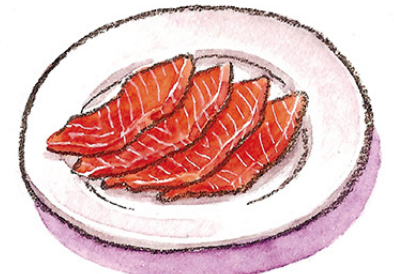
F・チーズ、ソーセージ、きゅうり



四
ちらし寿司

◆用意するもの

すし飯、塩鮭（スモークサーモンでもいい）、
きゅうり、塩、レモンの皮、しょうが、ごま、のり

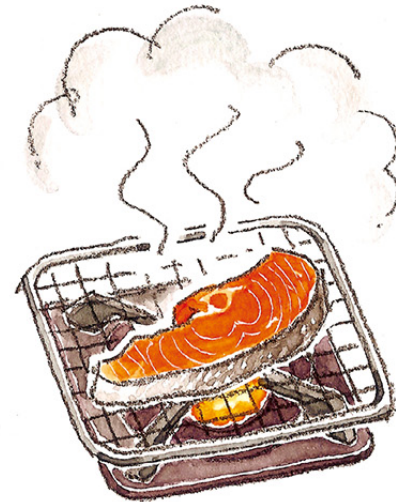


すもーくさーもん
スモークサーモン

① 塩鮭を一切れ焼きます。

② きゅうりを一本切ります。
塩を少しかけます。

③ しょうがを少し切ります。
レモンの皮も少し切ります。



しおざけ
塩鮭

④ すし飯に、①②③を入れます。

⑤ ごまを入れます。

⑥ のりをのせます。



参考図書

- 「すしの歴史を訪ねる」
日比野光敏 岩波新書
- 「おくむらあやお ふるさとの伝承料理(12)わっしょい 祭りとし」
奥村彪生 農山漁村文化協会
- 「月刊たぐさんのふしぎ154号 すしだ、にぎりだ、のりまきだ!」
小野かおる 福音館書店
- 「発見! 体験! 日本の食事(4)すし-地域の食材のちがいを知ろう」
次山信男 監 ポプラ社

<監修者紹介>

NPO 多言語多読 (旧 NPO 法人日本語多読研究会)

「多言語多読」は、外国語を身につけたい人や、それを支援する人たちに「多読」を提案し、応援する NPO です。

2002 年、日本語学習者のための「読みもの」を作ることを目的に、日本語教師が集まって日本語多読研究会を作りました。2006 年に NPO 法人化。2012 年に「NPO 多言語多読」と名称を変更し、多読の普及、実践、研究、日本語の「レベル別読みもの」の開発をしています。http://www.nihongo-yomu.jp

レベル別日本語多読ライブラリー (にほんご よむよむ文庫)

[レベル 1] vol.2

寿司・すし・SUSHI

2007 年 6 月 1 日 初版 第 1 刷 発行

2010 年 10 月 27 日 初版 第 2 刷 発行

著者：栗野 真紀子 (多言語多読会員・日本語教師)

作画：水野 あきら

監修：NPO 多言語多読

ナレーション：篠原 明美

録音・編集：スタジオ グラッド

デザイン・DTP：浅妻 健司

発行人：天谷 修平

発行：株式会社アスク出版

〒 162-8558 東京都新宿区下宮比町 2-6

TEL.03-3267-6864 FAX.03-3267-6867

http://www.ask-books.com

http://www.ask-books.com/tadoku/ (「にほんご よむよむ文庫」公式 HP)

印刷・製本：株式会社光邦

許可なしに転載・複製することを禁じます。

乱丁・落丁はお取り替えいたします。

©NPO 多言語多読 2007

Printed in Japan ISBN978-4-87217-641-4

レベル別 日本語多読 ライブラリー

にほんご よむよむ文庫

レベル **1** vol.2 7

寿司・すし・SUSHI

世界中のみんなが好きな「すし」。すしの歴史、いろいろなすし、簡単なすしの作り方などを紹介します。

にほんご よむよむ文庫



これは、日本語を勉強している人のための「読みもの」シリーズです。5レベルに分かれていて、昔話、創作、名作、伝記などいろいろな話があります。レベルごとに言葉や文法が制限されていて、読みやすく書かれています。漢字には全てひらがなが付いていますから、辞書を引かないでどんどん読んでみましょう。

レベル クラス 語彙数 文字数／1話

0 入門 350 ~400

1 初級前半 **350** **400~1500**

2 初級後半 500 1500~2500

3 初中級 800 2500~5000

4 中級 1300 5000~10000

Japanese Graded Readers



レベル別 日本語多読 ライブラリー

にほんご よむ よむ 文庫

レベル **1** vol.2 **8**



笠地蔵

かさ じ ざう

再話 = 近藤 真須子

挿絵 = 鯉江 光二

監修 = NPO 多言語多読

(旧NPO法人日本語多読研究会)

にほんご よむよむ文庫 レベル 1

かさ じ ぞう
笠地蔵

再話 (さいわ) : 近藤 眞須子 (こんどう ますこ)

挿絵 (さしえ) : 鯨江 光二 (なますえ こうじ)

監修 (かんしゅう): NPO 多言語多読 (たげんご たどく)

(旧 NPO 法人 日本語多読研究会)

あるところに、おじいさんとおばあさんがいました。

ふたりは、お金かねがありませんでした。明日あしたは、お正月しょうがつ（二月一日いちがついちにち）です。

おばあさんが言いいました。

「おじいさん、明日あしたはお正月しょうがつですから、おいしい食たべ物ものを食たべたいですね」

おじいさんが答こたえました。

「そうですね……」。

おばあさん、笠かさを作つくりましょう。そして、それを売うりましょう」

おじいさんとおばあさんは、笠かさを五いっつ作つくりました。



おじいさんは、町へ行きます。外は雪です。

おじいさんは、一時間ぐらい歩きました。

道のそばに、石の地藏が六つありました。

おじいさんは、地藏の前で言いました。

「お地藏さま、いつもありがとうございます」

おじいさんは、また歩きました。





町へ来ました。

町には、たくさんのお店がありました。

人もたくさんいました。とてもにぎやかです。

「かさ、かさあ、笠を買いませんかあ」

おじいさんは、何回も、大きい声で言いました。

町の人、お正月の食べ物や、お酒を買います。

でも、だれも笠を買いません。

もう夕方です。

おじいさんは、うちへ帰ります。

背中には、笠が五つあります。

今日は、雪がたくさん降ります。

風も強いです。とても寒いです。

おじいさんは、雪の中を歩きました。

そして、あの地蔵のところへ来ました。



おじいさんは言いました。

「あ、お地藏さまの頭や体に雪が……。冷たいでしょう。寒いでしょう」

そして、地藏の頭や体の雪をとりました。

「そうだ！ この笠をあげましょう」

おじいさんは、背中の笠を下に置きました。

そして、地藏の頭に、笠を一つ一つかぶせました。





「あれ、困こまりましたねえ」

笠かさは五いっつです。でも、地藏じぞうは六むっつです。

「どうしましょう……。そうだ、私わたしの笠かさをあげましょう」

おじいさんは、自じ分の笠かさをとりました。

そして、その笠かさを、地藏じぞうの頭あたまにかぶせました。

六むっつの地藏じぞうの頭あたまには、全ぜん部ぶ笠かさがあります。

「これでいい。これでいい」

おじいさんは笑わらいました。



おじいさんは、うちへ帰りました。

「ただいま」

「お帰りなさい。」

まあ、頭に雪がたくさん。

寒かったですよ」



「今日は、だれも笠を買いませんでしたよ。」

ですから、お正月の食べ物はありません」

「じゃあ、笠はどうしましたか？」

「お地藏さまの頭に、雪がたくさんありました。」

ですから、笠は、お地藏さまに全部あげましたよ」

「まあ、それはいいことをしましたね」

おじいさんとおばあさんは、にこにこ笑いました。

その日、おじいさんとおばあさんは、

早く寝ました。



夜です。とても静かです。

「よしよ、よしよ。」

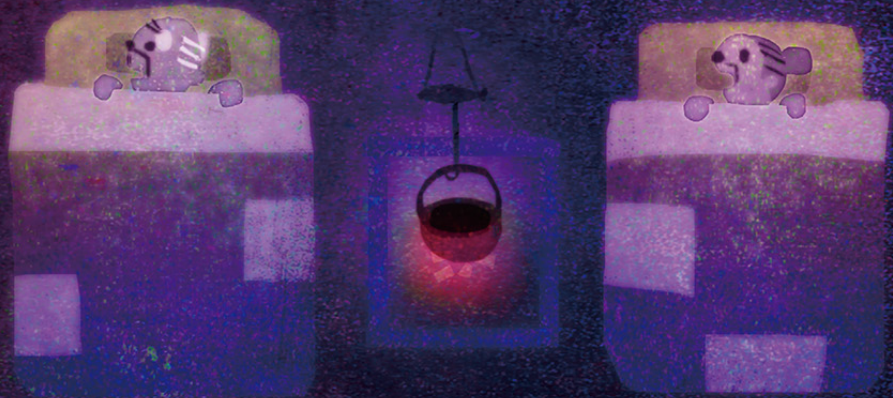
よしよ、よしよ

おじいさんとおばあさんは、

その声で起きました。

「何でしょう?」

「あの声は誰でしょう?」



「よしよ、よしよ。」

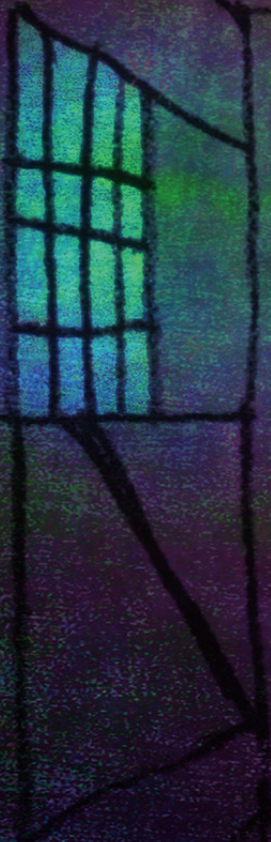
おじいさん、笠をありがとうございます。

よしよ、よしよ

「よしよ、よしよ。」

よしよおじいさんおばあさん

よしよ、よしよ



おお
おと
大きい音です。

どすーん どすーん

その声は、おじいさんとおばあさんのうちのまえの前で止まりました。





おじいさんとおばあさんは、戸とを開あけました。

「あれ、まあー！」

そこには、たくさんたの食ものべ物ものがありました。

でも、だれもいません。

二人は、顔を上げました。

そして、遠くを見ました。

「あつ、お地蔵さまー！」

六人のお地蔵さまが、遠くにいました。

頭には、笠があります。

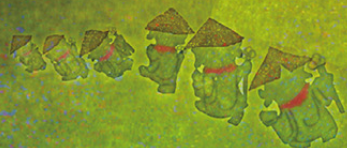
「ありがとうございます。ありがとうございます」

二人は、遠くのお地蔵さまに、何回も言いました。

そして、何回も頭を下げました。



おじいさんと
おばあさんのお正月は、
とてもいいお正月でした。



<監修者紹介>

NPO **多言語多読** (旧 NPO 法人日本語多読研究会)

「多言語多読」は、外国語を身につけたい人や、それを支援する人たちに「多読」を提案し、応援する NPO です。

2002年、日本語学習者のための「読みもの」を作ることを目的に、日本語教師が集まって日本語多読研究会を作りました。2006年にNPO法人化。2012年に「NPO多言語多読」と名称を変更し、多読の普及、実践、研究、日本語の「レベル別読みもの」の開発をしています。http://www.nihongo-yomu.jp

レベル別日本語多読ライブラリー (にほんご よむよむ文庫)

[レベル1] vol.2

笠地蔵

2007年6月1日 初版第1刷発行

2014年6月5日 初版第3刷発行

再話：近藤 真須子 (多言語多読会員・日本語教師)

作画：鯉江 光二

監修：NPO 多言語多読

ナレーション：山中 一徳／篠原 明美

録音・編集：スタジオ グラッド

デザイン・DTP：浅妻 健司

発行人：天谷 修平

発行：株式会社アスク出版

〒162-8558 東京都新宿区下宮比町 2-6

TEL.03-3267-6864 <http://www.ask-digital.co.jp>

印刷・製本：株式会社光邦

許可なしに転載・複製することを禁じます。

乱丁・落丁はお取り替えいたします。

©NPO多言語多読 2007

Printed in Japan ISBN978-4-87217-641-4

レベル別 日本語多読 ライブラリー

にほんご よむよむ文庫

レベル **1** vol.2 8

笠地蔵

明日はお正月。おじいさんは笠を売りに町へ行きますが、一つも売れません。帰り道、雪の中にお地蔵さまが六つ並んでいて……。

にほんご よむよむ文庫



これは、日本語を勉強している人のための「読みもの」シリーズです。5レベルに分かれていて、昔話、創作、名作、伝記などいろいろな話があります。レベルごとに言葉や文法が制限されていて、読みやすく書かれています。漢字には全てひらがなが付いていますから、辞書を引かないでどんどん読んでみましょう。

レベル クラス 語彙数 文字数／1話

0 入門 350 ~400

1 初級前半 **350** **400~1500**

2 初級後半 500 1500~2500

3 初中級 800 2500~5000

4 中級 1300 5000~10000



バ ば ジ じ
ス す ヨ よ
の の イ い
中 なか ザ ざ
で で ん ん



作=山崎 俱子

川本 かず子

挿絵=津田 蘭子

監修=NPO 多言語多読

(旧NPO法人日本語多読研究会)

じょんさんばすのなか
「ばすのなか」「いま、なんじですか？」

作（さく） : 山崎 俱子（やまざき ともち）
川本 かず子（かわもと かずこ）

挿絵（さしえ） : 津田 蘭子（つだらんこ）

監修（かんしゅう）: NPO 多言語多読（たげんご たどく）
（旧 NPO 法人 日本語多読研究会）

今日は、日曜日です。

学校は、休みです。

ジョンさんは、部屋で、

ゆつくり雑誌を見ます。

ファッション雑誌です。

「これ、いいなあ。でも、高い！」



「お！ これがいい！ カッコいい！」



ジョンさんは、

新しいジーンズを少し切りました。

「お！ いいな！」



「うん、とてもいい！」
そして、鏡を見ました。
いろいろなところを切りました。
それから、髪も切りました。
いろいろなところを切りました。
そして、鏡を見ました。
「うん、とてもいい！」
ジョンさんは、これから、
友だちのうちへ行きます。」



それから、いろいろなところを切りました。
そして、鏡を見ました。
「うん、かっこいい！」

ジヨンさんは、バスに乗りました。

バスの中は、人がたくさんいます。

ジヨンさんは、

おばあさんの前に立ちました。

おばあさんは、

ジヨンさんのジーンズを見ました。

そして、ジヨンさんを見ました。



おばあさんは、もう一回、

ジヨンさんのジーンズを見ました。

そして、カバンから、お金を出しました。

おばあさんは、言いました。

「あのう、学生さん」

「え？」

ジヨンさんは、おばあさんを見ました。

「学生さん、このお金をどうぞ」

「えっ！ 私にお金を？」



おばあさんは、言いました。

「このお金で、新しいズボンを……」

ジョンさんは、

自分のジーンズを見ました。

「あっ！」

バスの中の人は、笑いました。



おばあさんは、言いました。

「学生さん、どうぞ、どうぞ」

ジョンさんは、言いました。

「え、ああ……、はい……、

ありがとうございます」

おばあさんは、言いました。

「どういたしました」



ジョンさんは、バスを降りました。

そして、友だちのうちまで歩きました。

今、何時ですか？

ジヨンさんは、

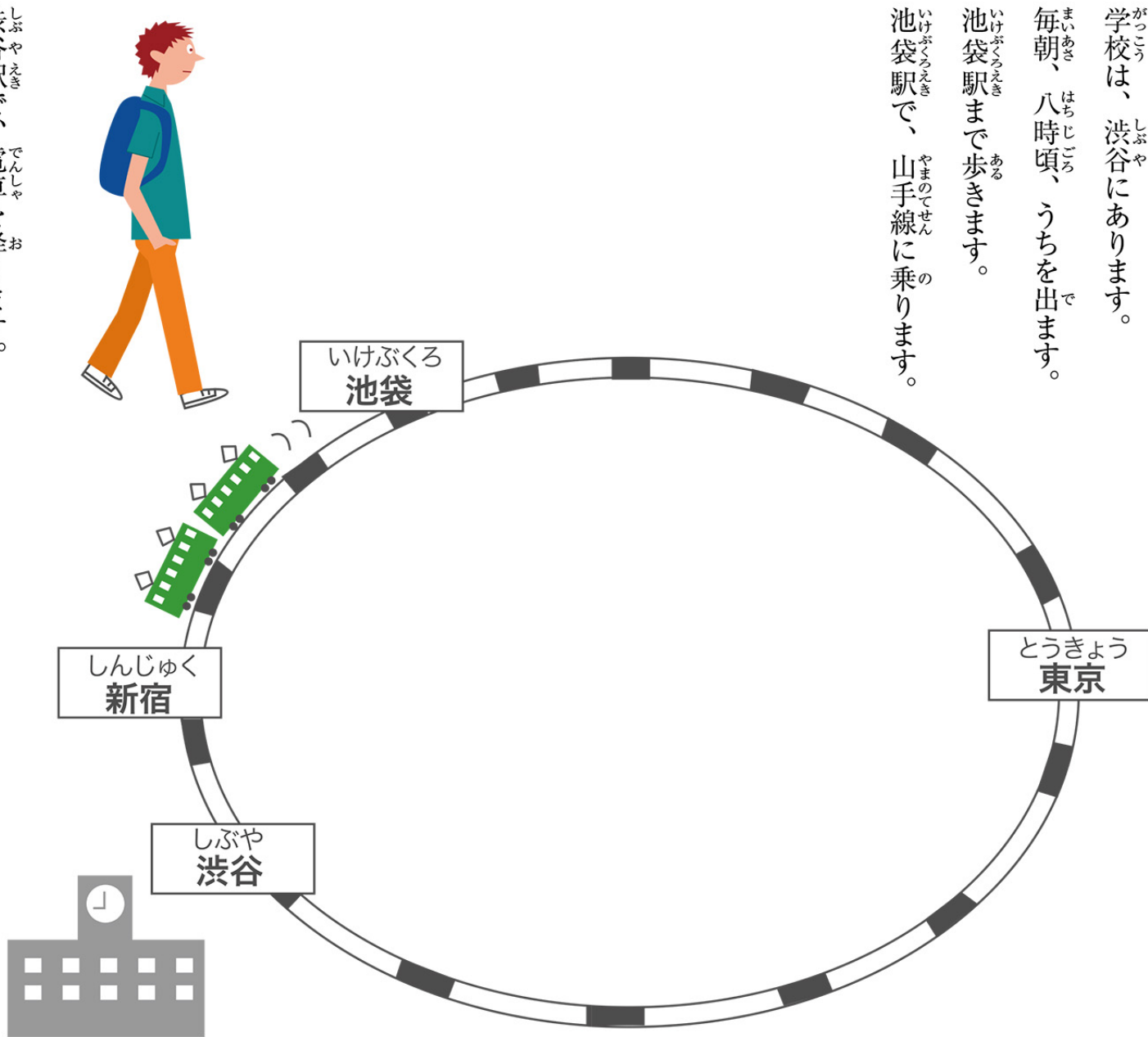
月曜日から金曜日まで学校へ行きます。

学校は、渋谷にあります。

毎朝、八時頃、うちを出ます。

池袋駅まで歩きます。

池袋駅で、山手線に乗ります。



渋谷駅で、電車を降ります。

渋谷駅で、いつも友達に会います。

そして、学校まで友達と歩きます。

授業は、九時に始まります。



ジヨンさんは、今日、

とても眠いです。

昨日、友だちと

カラオケに行きました。

お酒も、たくさん飲みました。

だから、とても眠いです。

—— ああ、眠い ——

駅員「いけぶくろ、いけぶくろ——」
池袋駅で、山手線に乗りました。



きょう、はちじごろ
今日も、八時頃、
家を出ました。

そして、池袋駅まで歩きました。

駅員「しんじゆく、しんじゆく——」
新宿駅で、

たくさんの人が降りました。

ジョンさんは、座りました。

ジョンさんは、とても眠いです。

——ああ、眠い。眠い……——



駅員「しぶや、しぶや——」
ジョンさんは、起きません。

駅員「とうきよう、とうきよう——」
ジョンさんは、まだ起きません。

駅員「いけぶくろ、いけぶくろ——」

ジョンさんは、まだ起きません。



渋谷駅から学校まで
歩きます。
学校の友だちに、
一人も会いません。



駅員「しづや、しづや——」
ジョンさん「あ、しづや」
ジョンさんは、
渋谷駅で電車を降りました。

学校のエレベーターの前にも、だれもいません。
ジヨンは、エレベーターに乗りました。



五階で、
エレベーターを降りました。
そして、
教室のドアを開けました。
先生がいます。
クラスメートも、みんないます。
ジヨンさん「え、もう授業？ どうして？」
先生もクラスメートも、
みんな、ジヨンさんを見ます。





ジヨンさんは、教室の時計を見ました。
十時五分です。
ジヨンさん「えっ！ もう十時五分？ どうして？」

先生は、ジヨンさんに言いました。
先生「ジヨンさん、今、何時ですか？」



<監修者紹介>

NPO **多言語多読** (旧 NPO 法人日本語多読研究会)

「多言語多読」は、外国語を身につけたい人や、それを支援する人たちに「多読」を提案し、応援する NPO です。

2002年、日本語学習者のための「読みもの」を作ることを目的に、日本語教師が集まって日本語多読研究会を作りました。2006年にNPO法人化。2012年に「NPO多言語多読」と名称を変更し、多読の普及、実践、研究、日本語の「レベル別読みもの」の開発をしています。http://www.nihongo-yomu.jp

レベル別日本語多読ライブラリー (にほんご よむよむ文庫)

[レベル1] vol.2

ジョンさんバスの中で

2007年6月1日 初版第1刷発行

2014年6月5日 初版第3刷発行

著者：山崎 俱子 (多言語多読会員・日本語教師)「バスの中で」

川本 かず子 (多言語多読会員・日本語教師)「今、何時ですか?」

作画：津田 蘭子

監修：NPO 多言語多読

ナレーション：篠原 明美／山中 一徳

録音・編集：スタジオ グラッド

デザイン・DTP：浅妻 健司

発行人：天谷 修平

発行：株式会社アスク出版

〒162-8558 東京都新宿区下宮比町 2-6

TEL.03-3267-6864 <http://www.ask-digital.co.jp>

印刷・製本：株式会社光邦

許可なしに転載・複製することを禁じます。

乱丁・落丁はお取り替えいたします。

©NPO多言語多読 2007

Printed in Japan ISBN978-4-87217-641-4

レベル別 日本語多読 ライブラリー

にほんご よむよむ文庫

レベル **1** vol.2 9

ジヨンさんバスの中で

留学生のジヨンさん。いつもより少しおしゃれをして、バスに乗りましたか……。「バスの中で」

ジヨンさんは、池袋から渋谷の学校まで、毎日電車で通います。昨日、友だちと飲みすぎて……。

「今、何時ですか？」

にほんご よむよむ文庫



これは、日本語を勉強している人のための「読みもの」シリーズです。5レベルに分かれていて、昔話、創作、名作、伝記などいろいろな話があります。レベルごとに言葉や文法が制限されていて、読みやすく書かれています。漢字には全てひらがなが付いていますから、辞書を引かないでどんどん読んでみましょう。

レベル クラス 語彙数 文字数/1話

0 入門 350 ~400

1 初級前半 **350** **400~1500**

2 初級後半 500 1500~2500

3 初中級 800 2500~5000

4 中級 1300 5000~10000